

# 配偶者やパートナーとの日常生活に関する調査

配偶者やパートナー間での暴力等について

## 報 告 書

平成 17 年 4 月

仙 台 市

# 目 次

調査の概要	1
1．調査の目的	3
2．調査の項目	3
3．調査の設計	3
4．回収結果	4
5．この報告書を読む際の注意	4
回答者の属性	5
調査結果の要約	1 3
1．男女の役割等について	1 5
2．配偶者やパートナー間での暴力等に関する意識について	1 6
3．配偶者やパートナー間での暴力等の被害について	1 8
4．配偶者やパートナー間での暴力等の加害について	2 2
5．今後の施策として～結論～	2 5
調査結果の分析	2 7
1．男女の役割等について	2 9
（1）男女の役割等に関する意識	2 9
（2）家庭内における日頃の役割	3 2
配偶者やパートナーの有無と同居の有無	3 2
同居している配偶者やパートナーとの役割分担	3 3
（3）配偶者やパートナー間の役割についての理想	3 6
2．配偶者やパートナー間での暴力等の意識や経験について	3 9
（1）配偶者やパートナー間での暴力等に関する意識	3 9
（2）配偶者やパートナー間での暴力等を受けた経験	5 5
（3）暴力等を受けた原因	6 5
「精神的に追い詰めること」を受けた原因	6 5
「身体への攻撃等」を受けた原因	6 6
「性に関すること」を受けた原因	6 7

( 4 ) 暴力等を受けた時の対応	6 8
暴力等を受けた時の対応	6 8
暴力等を受けた時の援助	6 9
暴力等を受けた時の他者への相談の有無	7 0
暴力等を受けた時の相談相手	7 2
暴力等を受けた時に相談しなかった理由	7 3
( 5 ) 暴力等を受けた時の子どもの状況と被害	7 4
( 6 ) 配偶者やパートナー間での暴力等を行った経験	7 5
( 7 ) 暴力等を行った原因	9 3
「精神的に追い詰めること」を行った理由	9 3
「身体への攻撃等」を行った理由	9 4
「性に関すること」を行った理由	9 5
3 . 配偶者やパートナー間での暴力等の相談や体験について	9 6
( 1 ) 暴力等に関して相談を受けた経験	9 6
( 2 ) 子どもの頃の経験	9 8
4 . 配偶者やパートナー間での暴力等に関する法律や施設の認知度について	1 0 0
5 . 配偶者やパートナー間での暴力等防止対策について	1 0 1
資 料	1 0 3
「調査票」(単純集計付き)	1 0 5

## 調査の概要

# 調査の概要

## 1. 調査の目的

本市では、平成 15 年 4 月に「仙台市男女共同参画推進条例」を施行し、配偶者やパートナー間での身体的・精神的・性的な暴力（ドメスティック・バイオレンス）や性的いやがらせ（セクシュアル・ハラスメント）など性別による人権侵害行為を禁止するとともに、平成 16 年には「男女共同参画せんだいプラン 2004」を策定し、配偶者やパートナー間での暴力の防止や被害者の保護に取り組んでいるところである。

今回の調査は、こうした取組をなお一層効果的に行うための基礎的な資料として、男女の役割に関する事項や配偶者やパートナー間での暴力などに関する市民の意識及び被害・加害の経験などを把握することによって、現状と課題を明らかにし、配偶者やパートナー間での暴力等の防止に役立てるために実施したものである。

## 2. 調査の項目

- (1) 男女の役割等に関する日頃の意識
- (2) 配偶者やパートナー間での暴力等に関する意識
- (3) 配偶者やパートナー間での暴力等の被害経験等
- (4) 配偶者やパートナー間での暴力等の加害経験等
- (5) 配偶者やパートナー間での暴力等に関する相談・体験
- (6) 配偶者やパートナー間での暴力等に関する法律・施設等の認知度
- (7) 今後の配偶者やパートナー間での暴力等の防止対策
- (8) 回答者の属性

## 3. 調査の設計

- (1) 調査地域 : 仙台市全域
- (2) 調査対象 : 仙台市内に住所を有する 20 歳以上の男女を無作為に抽出し、対象とした。
- (3) 標本数 : 男女各 1,000 名、計 2,000 名
- (4) 調査方法 : 郵送配布・郵送回収
- (5) 調査期間 : 平成 17 年 1 月 22 日～2 月 5 日
- (6) 調査実施主体 : 仙台市市民局市民生活部男女共同参画課
- (7) 集計分析報告 : 株式会社 サベイリサーチセンター東北事務所

## 4. 回収結果

標本数	総回収数	有効票数	回収率 /
2,000	857	843	42.2%

## 5. この報告書を読む際の注意

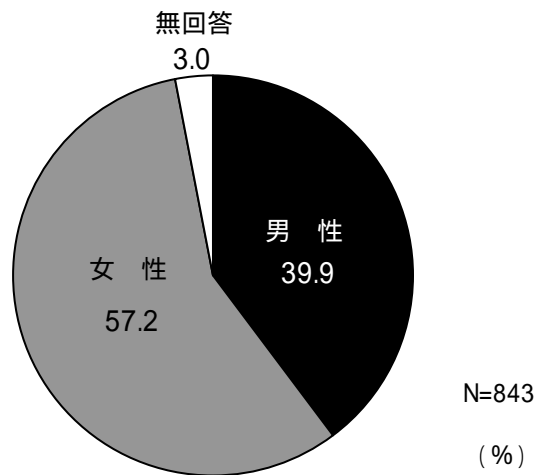
- (1) 図表の中の N とは、Number of cases の略で、回答者総数または分類別の回答者数のことである。
- (2) 百分比は、回答者全体に占める質問の選択者数の比率として算出している。小数点第 2 位を四捨五入しているため、百分比の合計が 100%にならない場合がある。
- (3) 1 つの質問において 2 つ以上の回答を認めたものもあり、その場合の百分比は 100%を超える。

## 回答者の属性

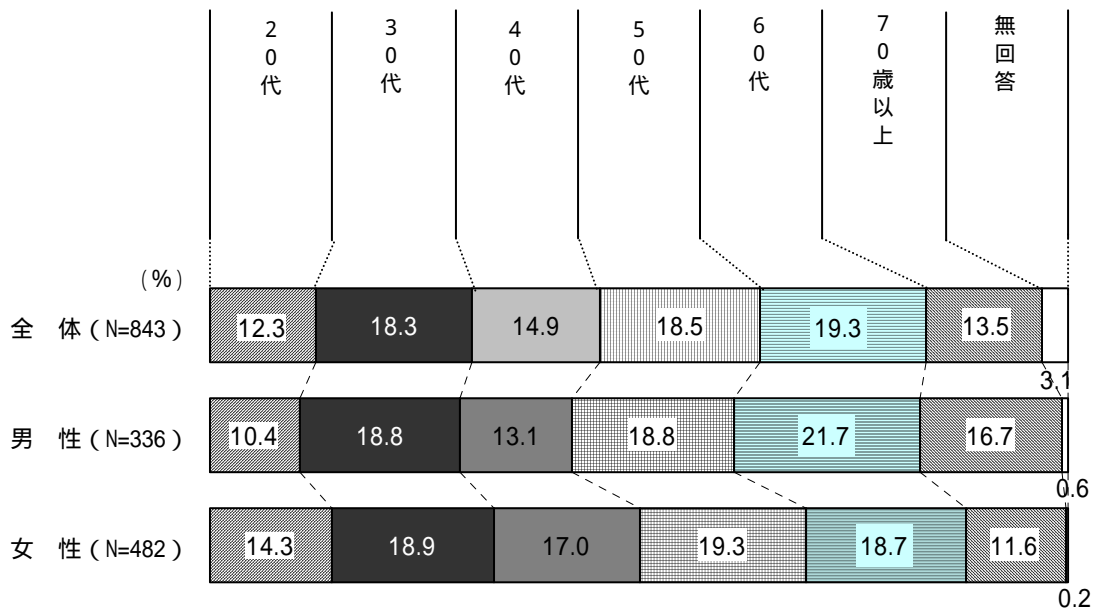
# 回答者の属性

## 回答者の属性

### 性別



### 年代

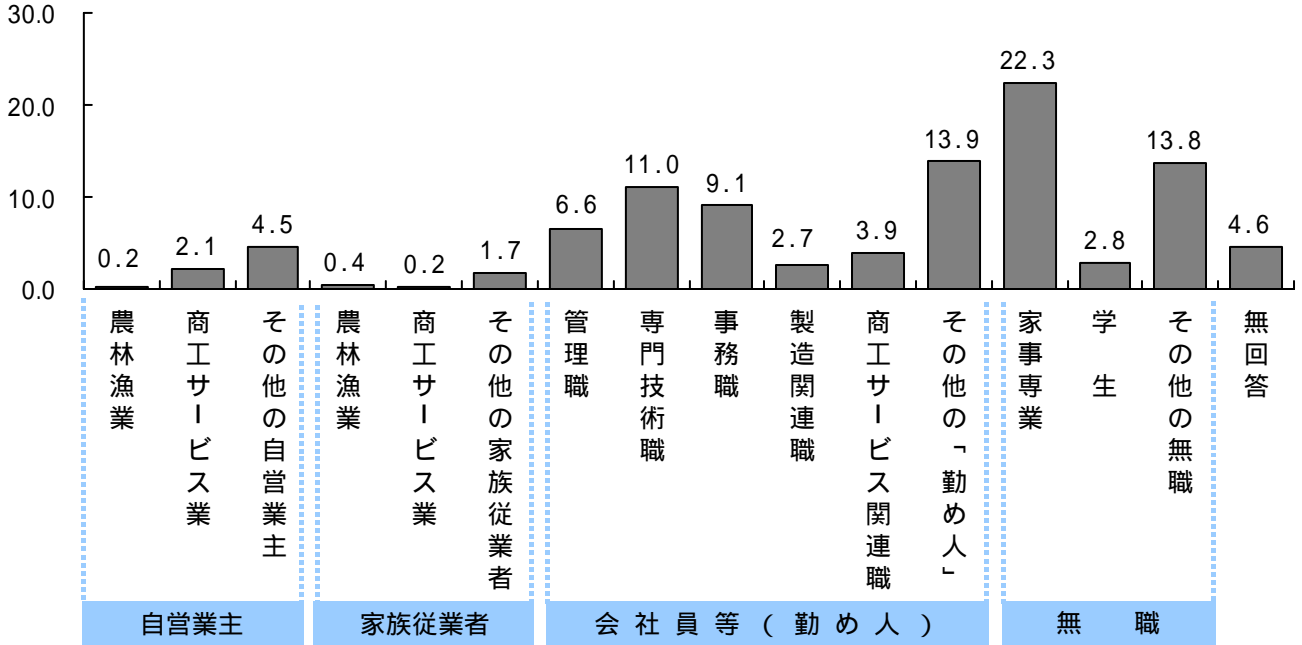




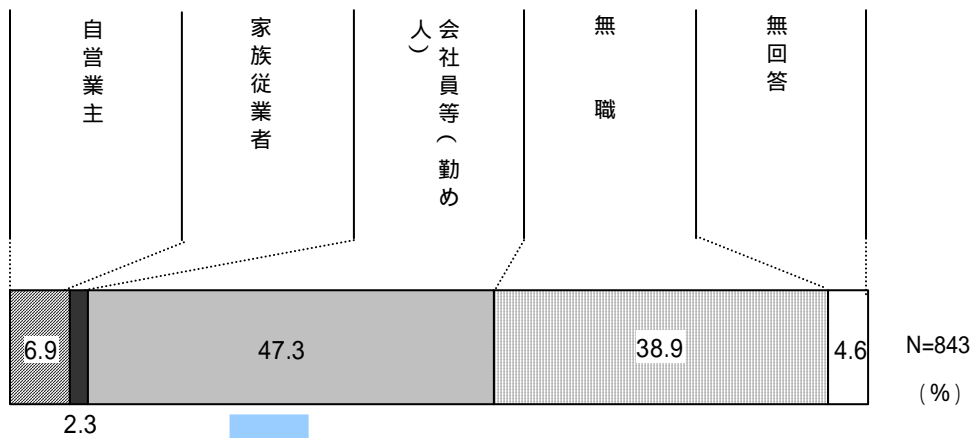
## 職 業

N=843

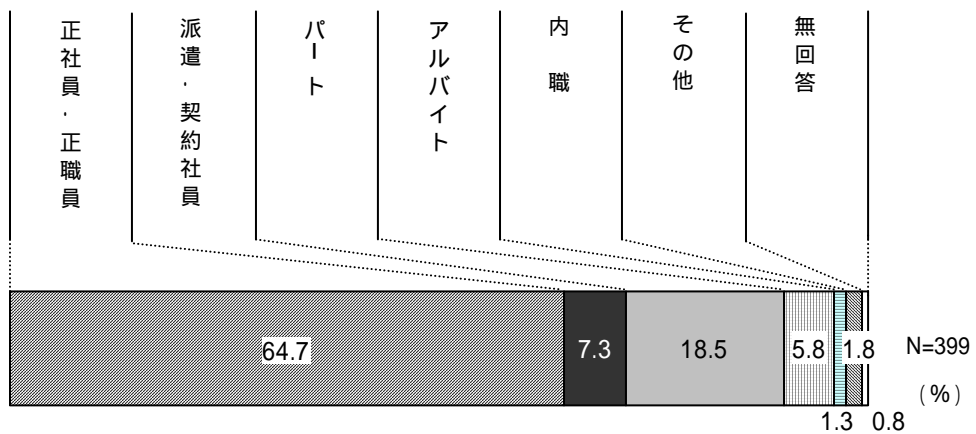
(%)



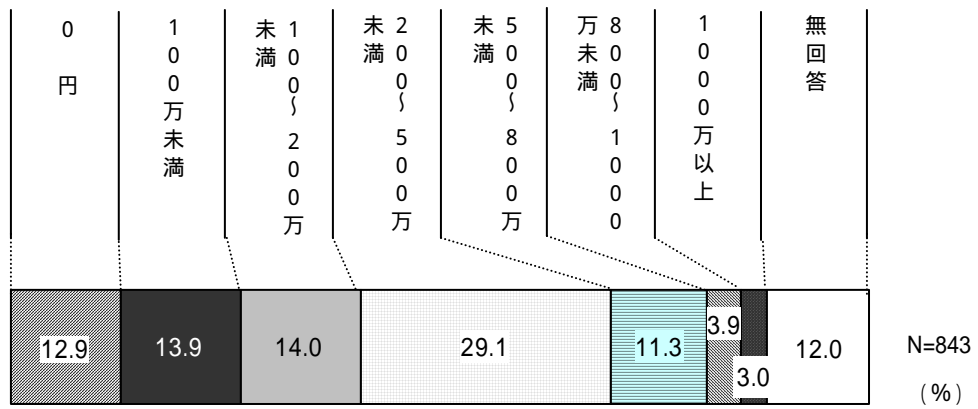
### 【大分類別職業構成】



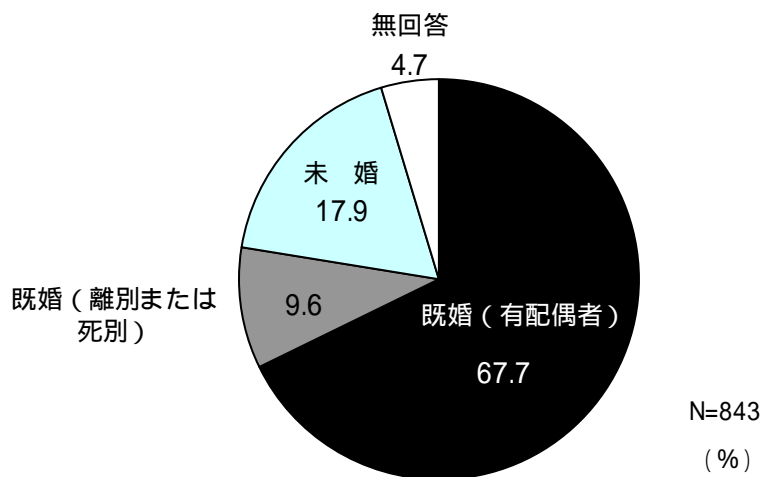
### 【会社員等（勤め人）の雇用形態】



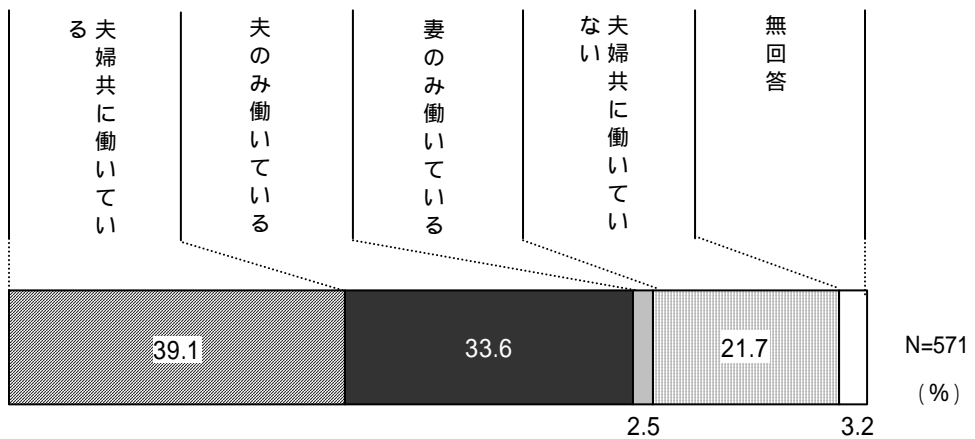
年 収



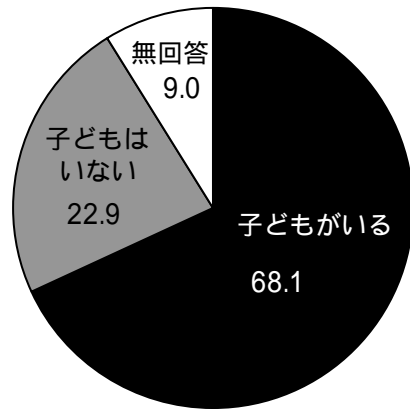
未既婚



【夫婦の就業状況】 既婚（有配偶者）のみ

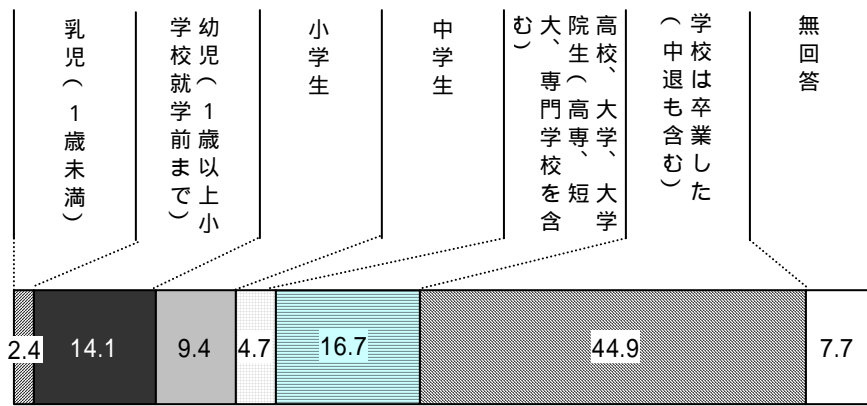


## 子どもの有無



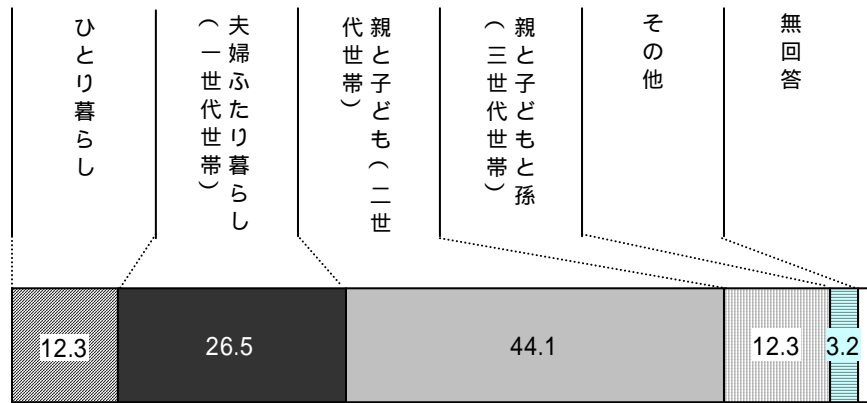
N=843  
(%)

### 【一番下の子どもの状況】 『子どもがいる』人のみ



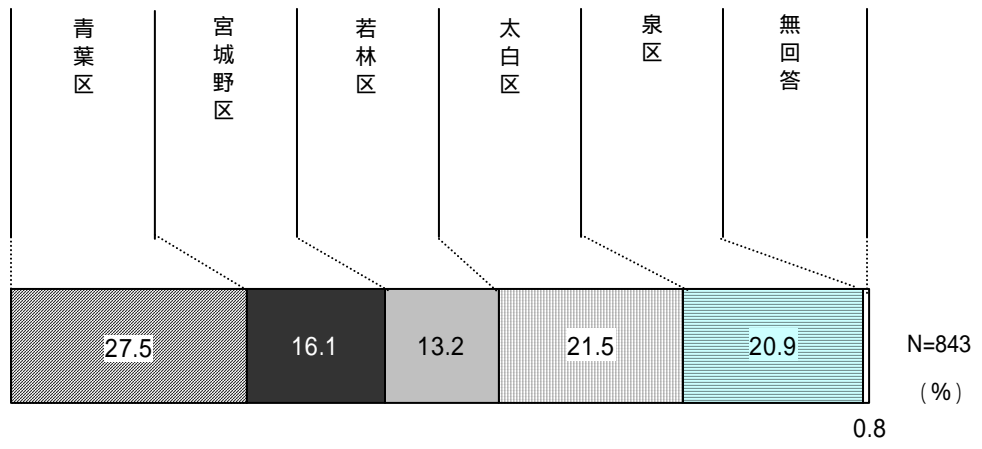
N=574  
(%)

## 家族構成



N=843  
(%)

居住区

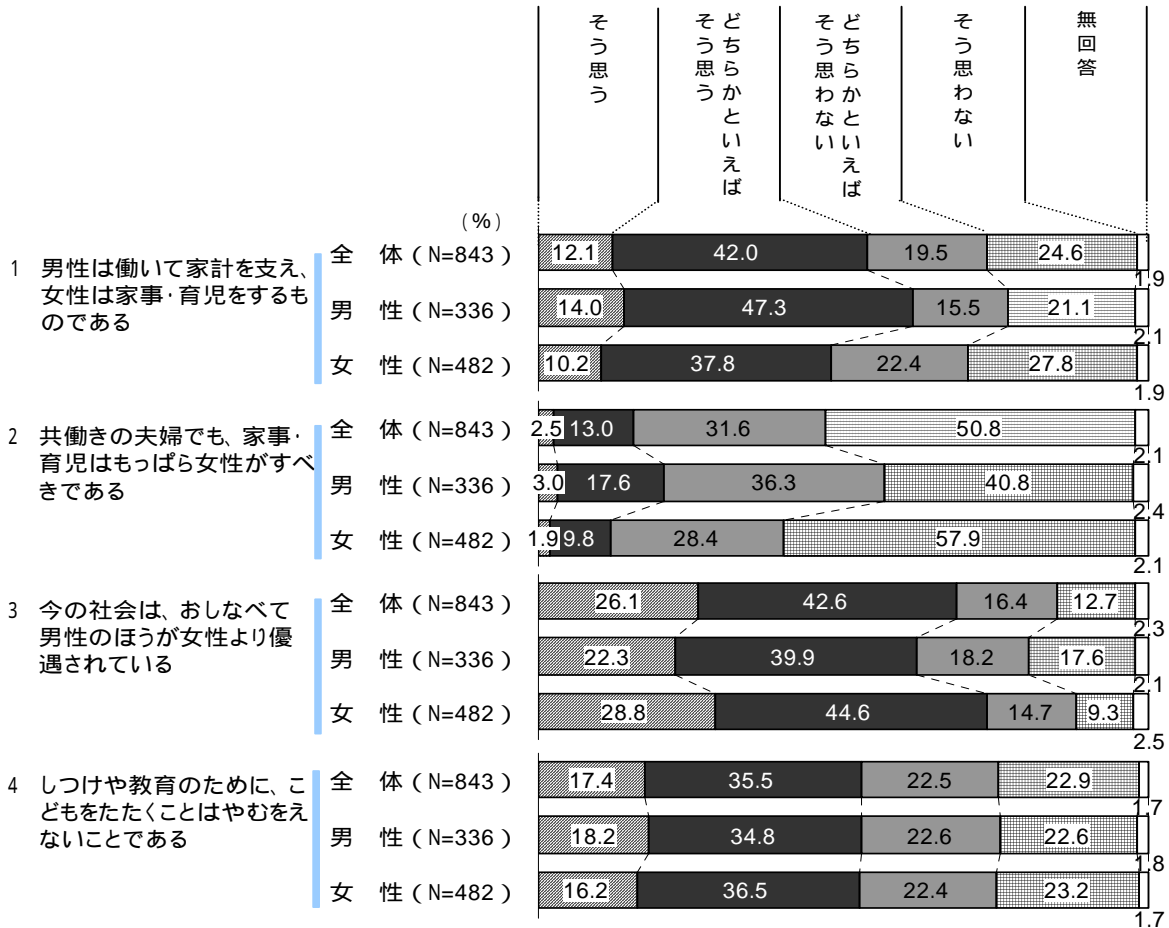


## 調査結果の要約

# 調査結果の要約

## 1. 男女の役割等について

生計維持や家事・育児の分担、男性優遇の意識では、男女間で意識差があり、「しつけや教育のために、子どもをたたくことはやむをえないことである」は、男女ともに半数以上が肯定的。



〔男性は働いて家計を支え、女性は家事・育児をするものである〕という考え方については、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答した『肯定的な人』が過半数を占めている。男女別にみると、男性では『肯定的な人』が6割を超えている一方、女性では「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」と回答した『否定的な人』が5割を超えており、男女間で役割分担に対する意識の差がみられる。

〔共働きの夫婦でも、家事・育児はもっぱら女性がすべきである〕という考え方については、男女ともに『否定的な人』が多く、特に女性では9割弱とその割合が高くなっている。

〔今の社会は、おしなべて男性のほうが女性より優遇されている〕という考え方については、男女とも『肯定的な人』が多くなっているが、女性は7割以上が肯定的で、男性に比べてその割合が高くなっている。

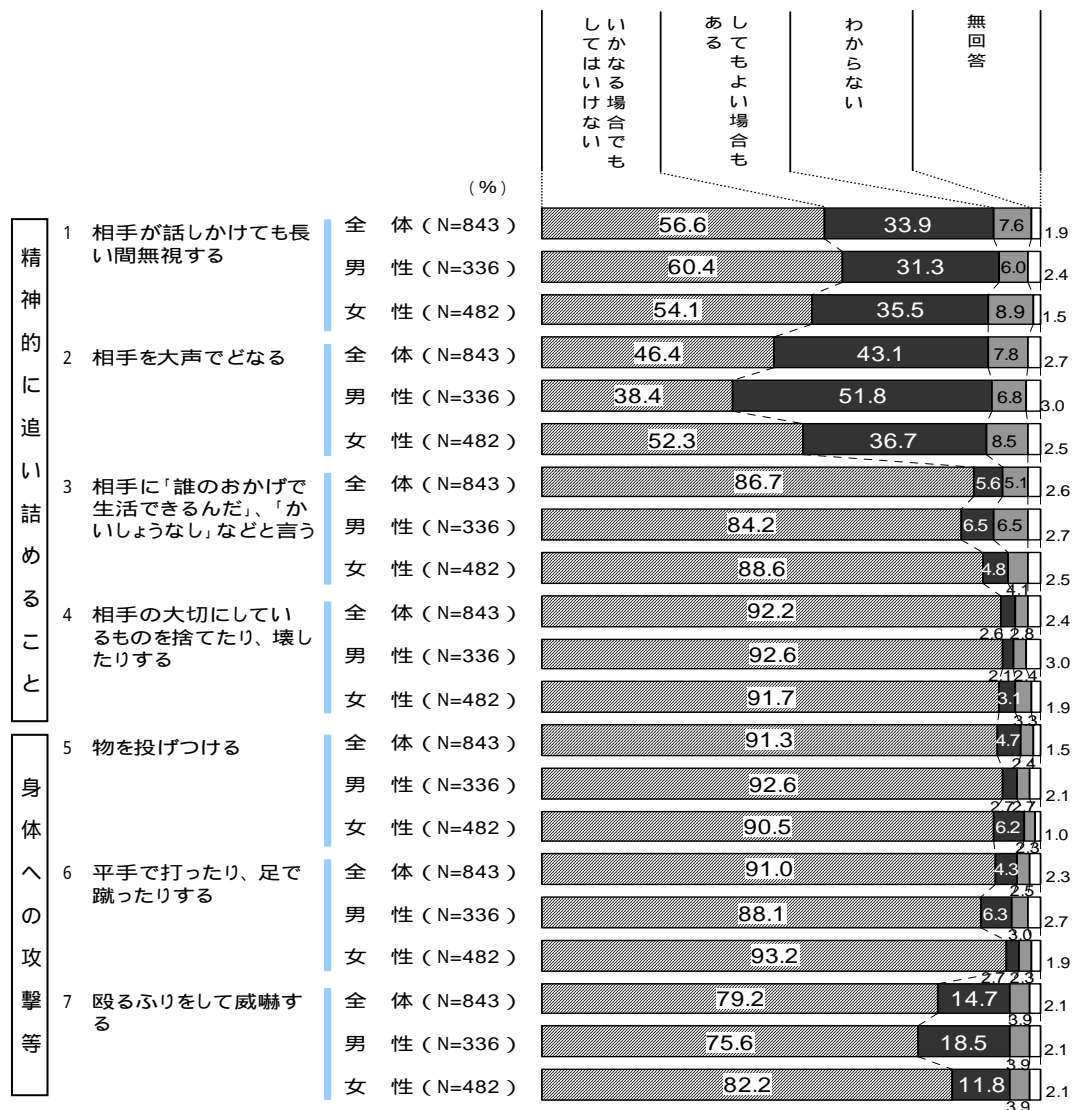
〔しつけや教育のために、子どもをたたくことはやむをえないことである〕という考え方については、男女とも『肯定的な人』が『否定的な人』に比べて若干多くなっている。

## 2. 配偶者やパートナー間での暴力等に関する意識について

「相手が話しかけても長い間無視する」、「相手を大声でどなる」や行動の束縛を「してもよい場合もある」と回答する人の割合は男女ともに比較的高い。また、「共働きの夫婦でも、家事・育児はもっぱら女性がすべきである」、「しつけや教育のために、子どもをたたくことはやむをえないことである」という考え方に肯定的な人は、否定的な人と比べ、「してもよい場合もある」と回答する人の割合がやや高い。

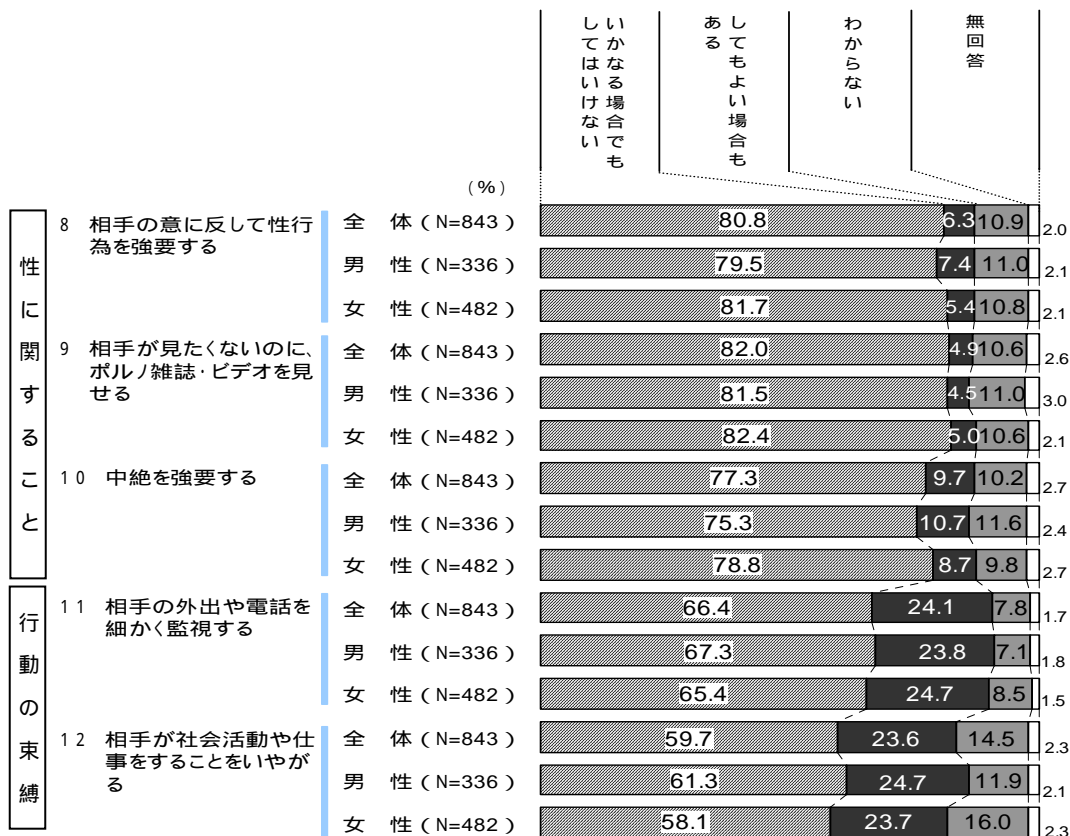
精神的に追い詰めること については、「相手が話しかけても長い間無視する」と「相手を大声でどなる」で「してもよい場合もある」と回答した人が3割を超え、特に「相手を大声でどなる」では、男性の5割強が「してもよい場合もある」と回答している。

身体への攻撃等 については、「物を投げつける」、「平手で打ったり、足で蹴ったりする」で「いかなる場合でもしてはいけない」が約9割となっているが、「殴るふりをして威嚇する」では「してもよい場合もある」が男性で2割弱、女性で1割強となっている。

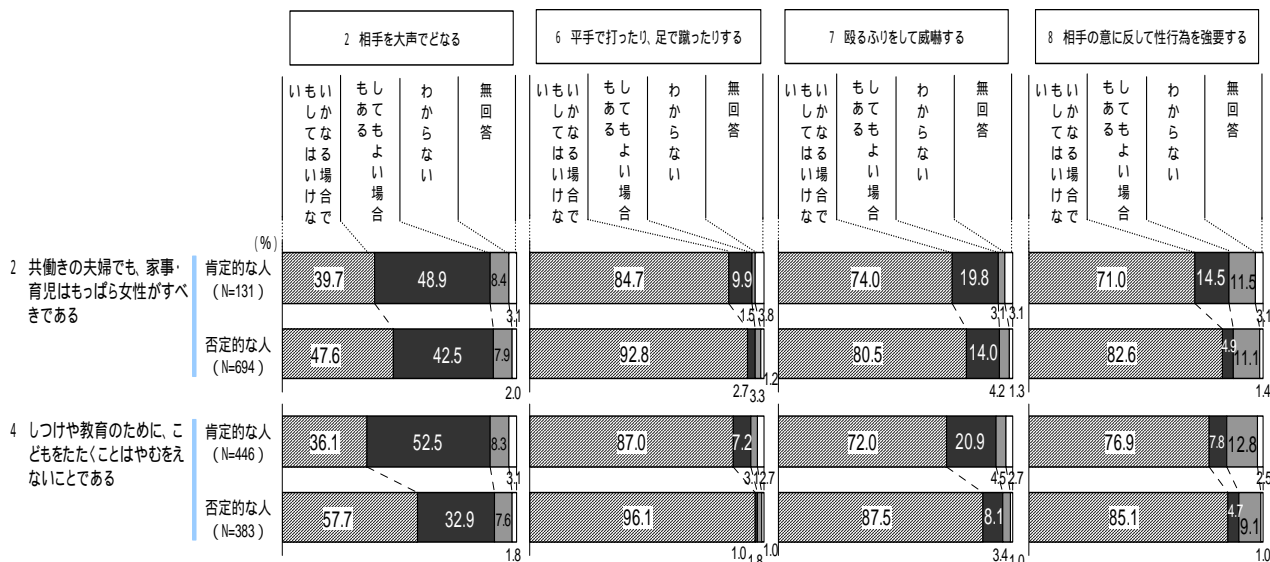


性に関すること については、いずれの項目でも「いかなる場合でもしてはいけない」が7割以上となっているが、〔中絶を強要する〕では「してもよい場合もある」が男女ともに1割前後という結果となっている。

行動の束縛 については、いずれの項目でも男女ともに「してもよい場合もある」と回答した人が2割以上となっている。



暴力等に関する意識を男女の役割意識等別でみると、共働きの夫婦でも、家事・育児はもっぱら女性がすべきである、しつけや教育のため、子どもをたたくことはやむをえないことであるという考え方に『肯定的な人』は、『否定的な人』と比べ、〔相手を大声でどなる〕、〔殴るふりをして威嚇する〕などの行為を「してもよい場合もある」と回答する人の割合がやや高くなっている。



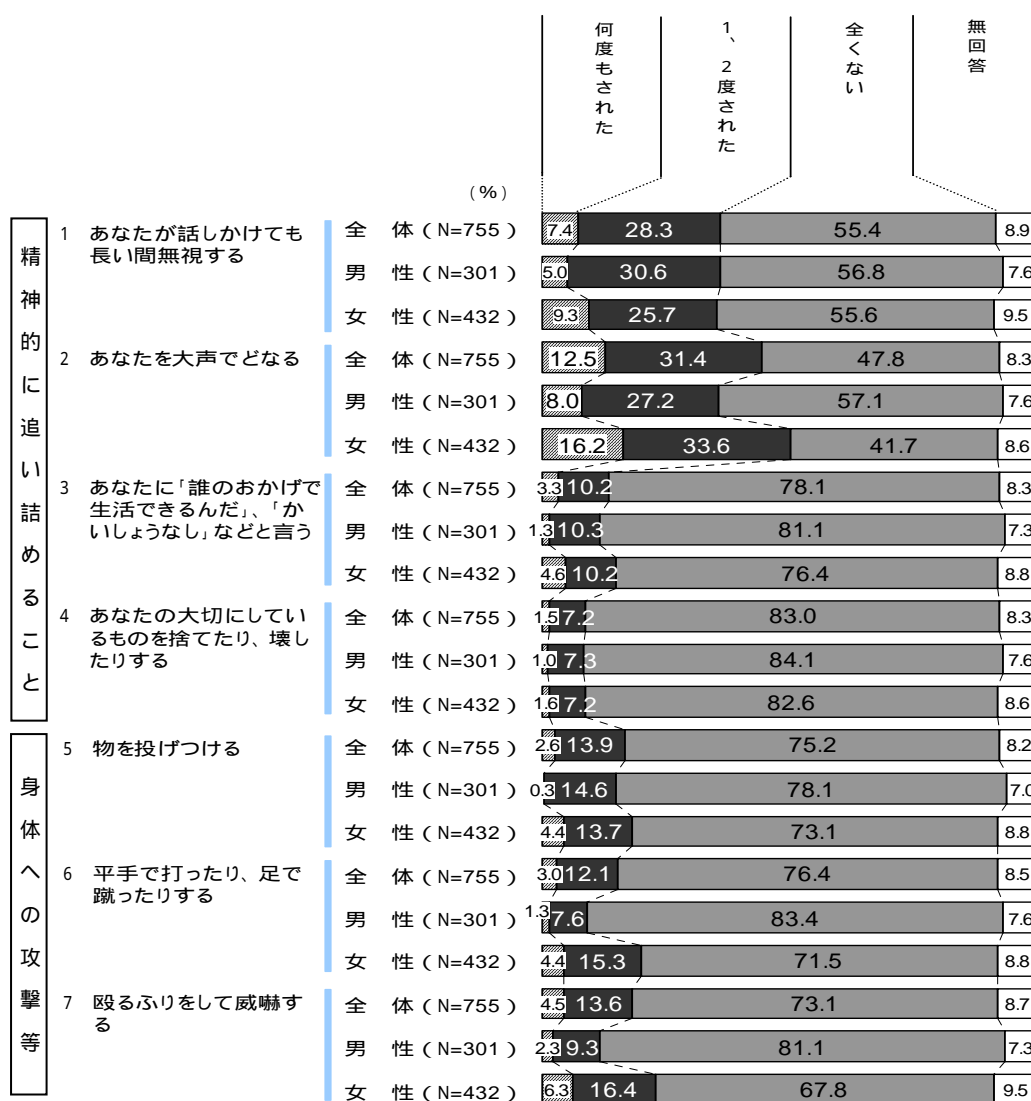


### 3. 配偶者やパートナー間での暴力等の被害について

「話しかけても長い間無視する」、「大声でどなる」の被害経験は、男女とも3割を超える。また、女性の5人に1人が身体への攻撃等を受け、「意に反して性行為を強要する」では、女性の4人に1人が被害を経験。身体への攻撃等を受けた人の約3割が、その場に子どもが「いた」と回答。

精神的に追い詰めることについては、「あなたが話しかけても長い間無視する」と「あなたを大声でどなる」で、「何度もされた」と「1、2度された」をあわせた『された』が3割以上となっており、他の項目と比較して際立って多い。「あなたを大声でどなる」では、『された』という人が女性で5割近くいる。

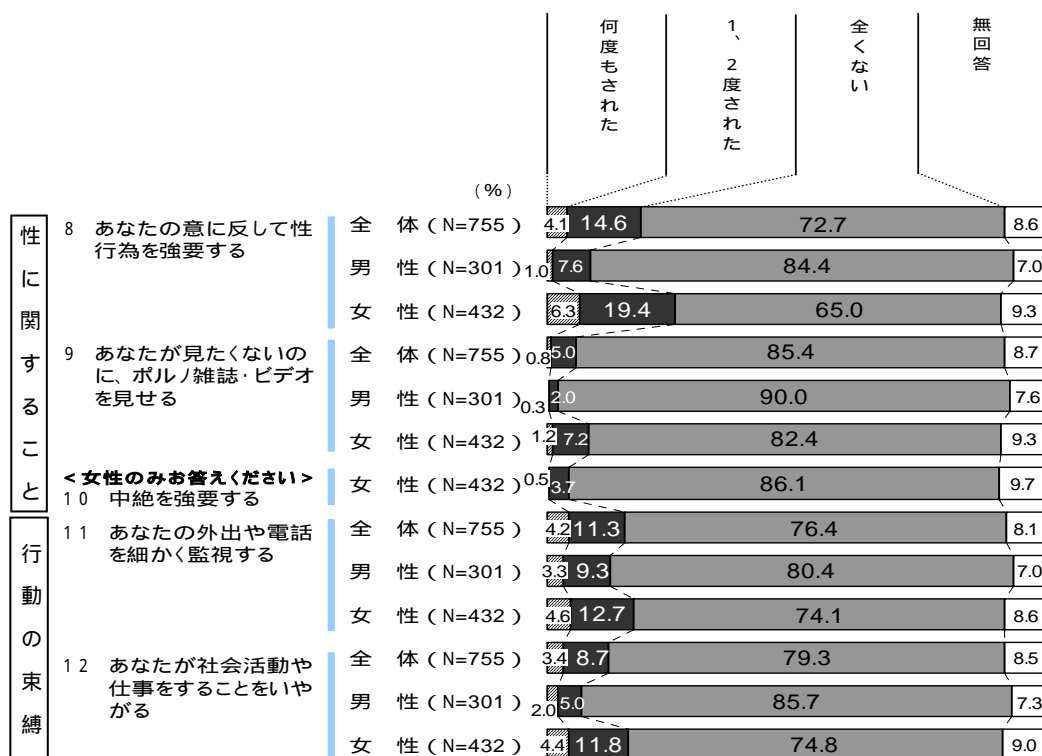
身体への攻撃等については、各項目で女性の2割前後が『された』と回答しており、「平手で打ったり、足で蹴ったりする」、「殴るふりをして威嚇する」では、女性は男性の約2倍の被害経験となっている。



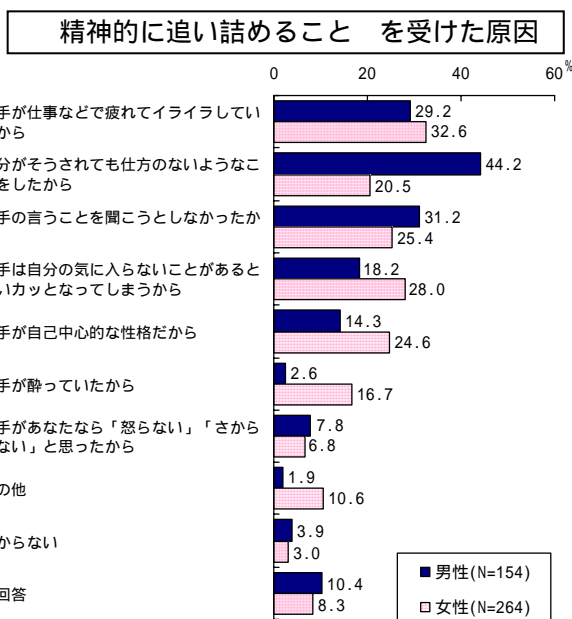
性に関すること については、〔あなたの意に反して性行為を強要する〕で女性の2割強が『された』と回答している。また〔中絶を強要する〕でも女性の1割弱が『された』と回答している。

行動の束縛 についても、各項目で女性の被害経験が男性を上回っている。

また、 身体の攻撃等 を受けた時に子どもが「いた」と答えた人は約3割で、そのうち子どもへの暴力等があったという回答も1割弱みられる。(P74 参照)

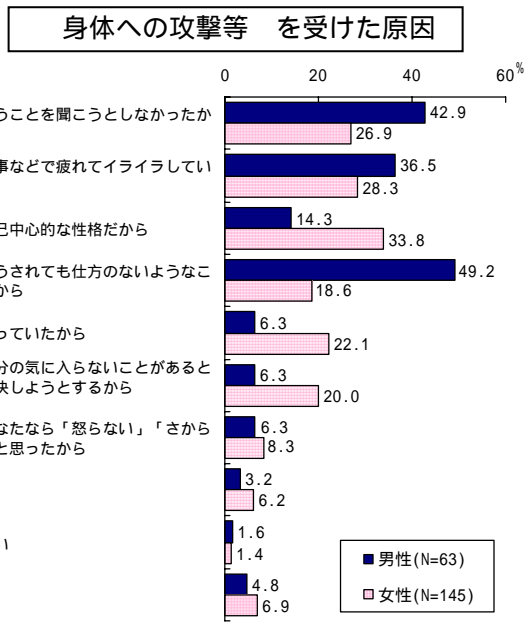


**暴力等を受けた原因では、男性は自分の態度、女性は相手の状態を原因とする回答が多い。**



精神的に追い詰めることを受けた原因について、男性では「自分がそうされても仕方のないようなことをしたから」(44.2%)が最も多く、女性では「相手が仕事などで疲れてイライラしていたから」(32.6%)が最も多い。また「自分がそうされても仕方のないようなことをしたから」(男性44.2%、女性20.5%)で男女に大きな差が見られる。

P65 より抜粋

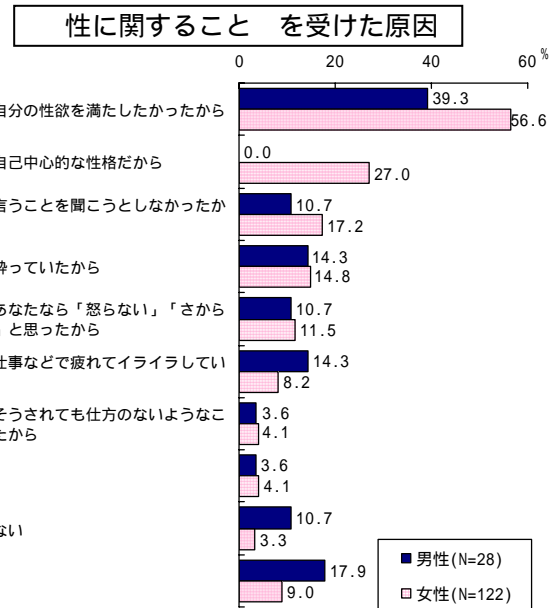


P66 より抜粋

身体への攻撃等を受けた原因については、男性で「自分がそうされても仕方のないようなことをしたから」(49.2%)が最も多く、女性では「相手が自己中心的な性格だから」(33.8%)が最も多い。また、「自分がそうされても仕方のないようなことをしたから」(男性49.2%、女性18.6%)では男女で大きな差がみられる。

精神的に追い詰めること、身体への攻撃等のいずれについても、男性は自分の態度、女性は相手の状態を原因とする回答が多い。

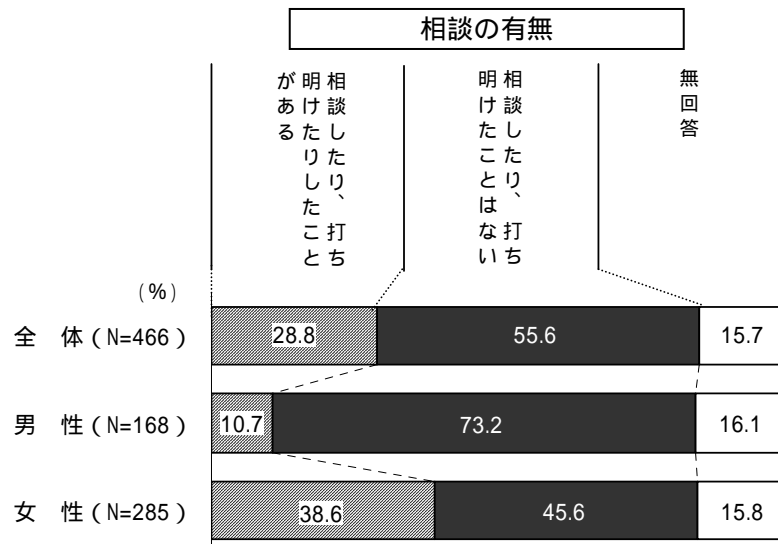
性に関することを受けた原因については、男女ともに「相手が自分の性欲を満たしたかったから」(男性39.3%、女性56.6%)が最も多い。また、女性では「相手が自己中心的な性格だから」(27.0%)が多くなっている。



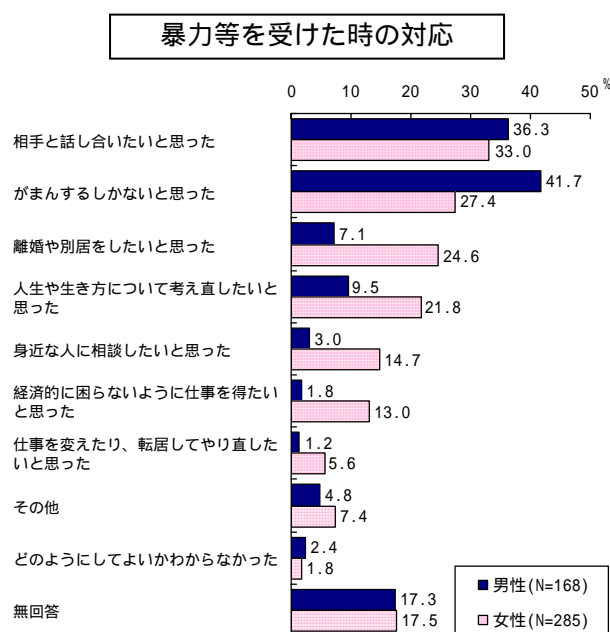
P67 より抜粋

暴力等を受けた時、「相談したり、打ち明けたことがない」のは男性に多い。暴力等を受けた時の対応として、「離婚や別居をしたいと思った」など、事態を深刻に受け止めている女性の割合が男性と比べて高い。

暴力等を受けた時の相談の有無について、女性では「相談したり、打ち明けたことがある」が4割弱となっているが、男性は7割以上が「相談したり、打ち明けたことはない」と回答している。



暴力等を受けた時に、「離婚や別居をしたい」、「人生や生き方について考え直したい」、「経済的に困らないように仕事をしたい」と思った人は、女性の割合が男性を大きく上回っており、事態を深刻に受け止めている女性が男性に比べて多いことが推察される。



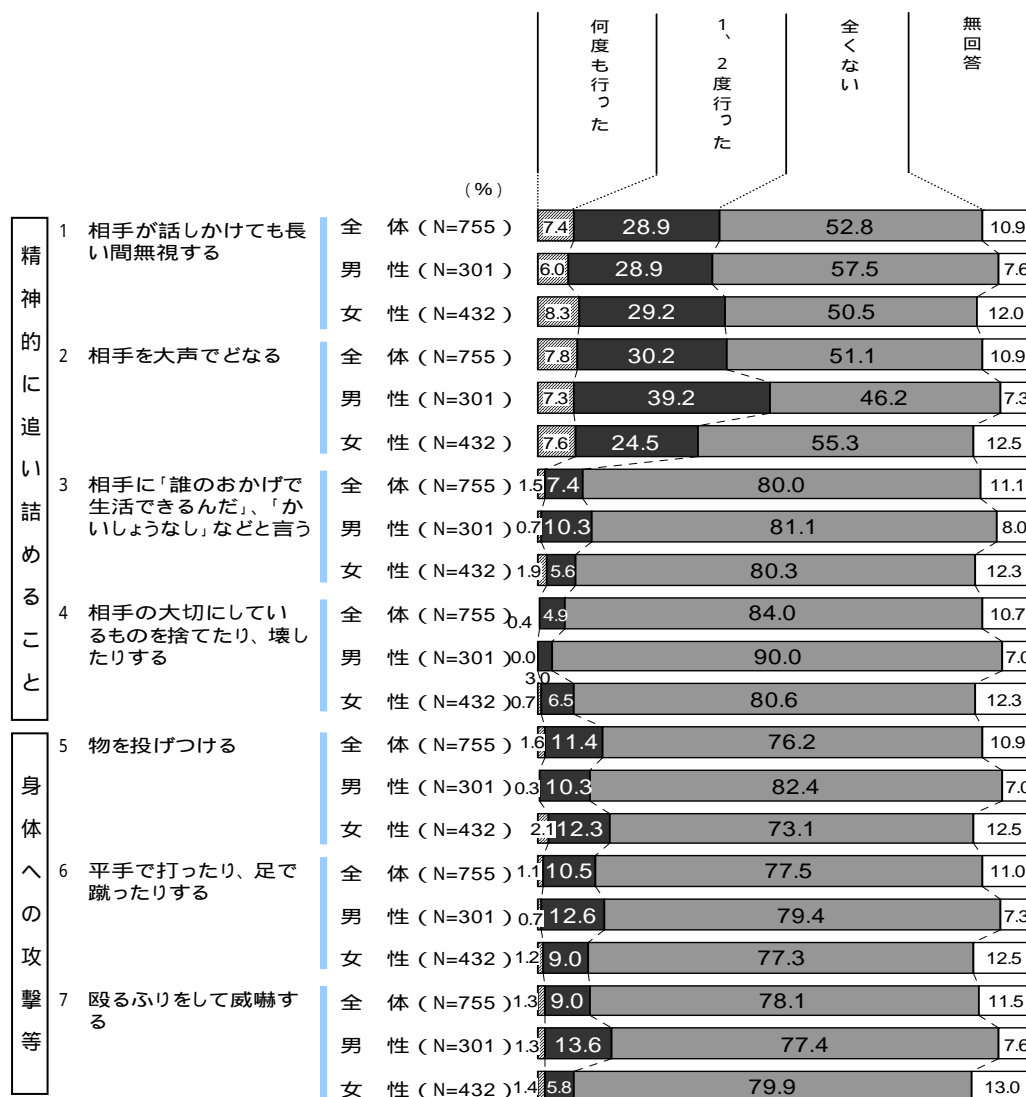
P68 より抜粋

## 4. 配偶者やパートナー間での暴力等の加害について

「相手が話しかけても長い間無視する」、「相手を大声でどなる」の加害経験は、男女とも3割を超える。「相手の意に反して性行為を強要する」で男性の1割強が経験あり。

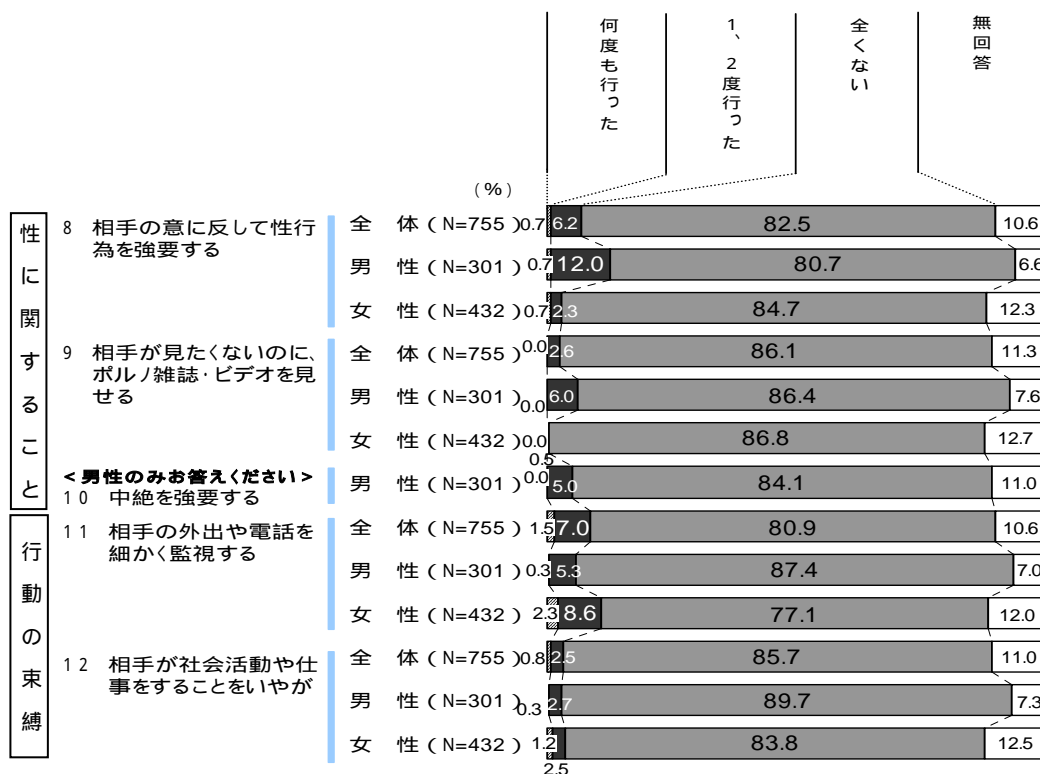
精神的に追い詰めること については、「相手が話しかけても長い間無視する」と「相手を大声でどなる」で、「何度も行った」と「1、2度行った」をあわせた『行った』が3~4割となっており、特に「相手を大声でどなる」では『行った』と回答した人が男性で5割近くにのぼっている。

身体への攻撃等 については、いずれの行為でも約1割の人が『行った』と回答している。男女別では、「平手で打ったり、足で蹴ったりする」、「殴るふりをして威嚇する」で、男性に加害経験者の割合が多い。「物を投げつける」の加害経験のある人の割合は、女性が男性を上回っている。



性に関すること については、〔相手の意に反して性行為を強要する〕で男性の1割強が『行った』と回答している。

行動の束縛 については、〔相手の外出や電話を細かく監視する〕で女性の約1割が『行った』と回答し、男性を上回っている。

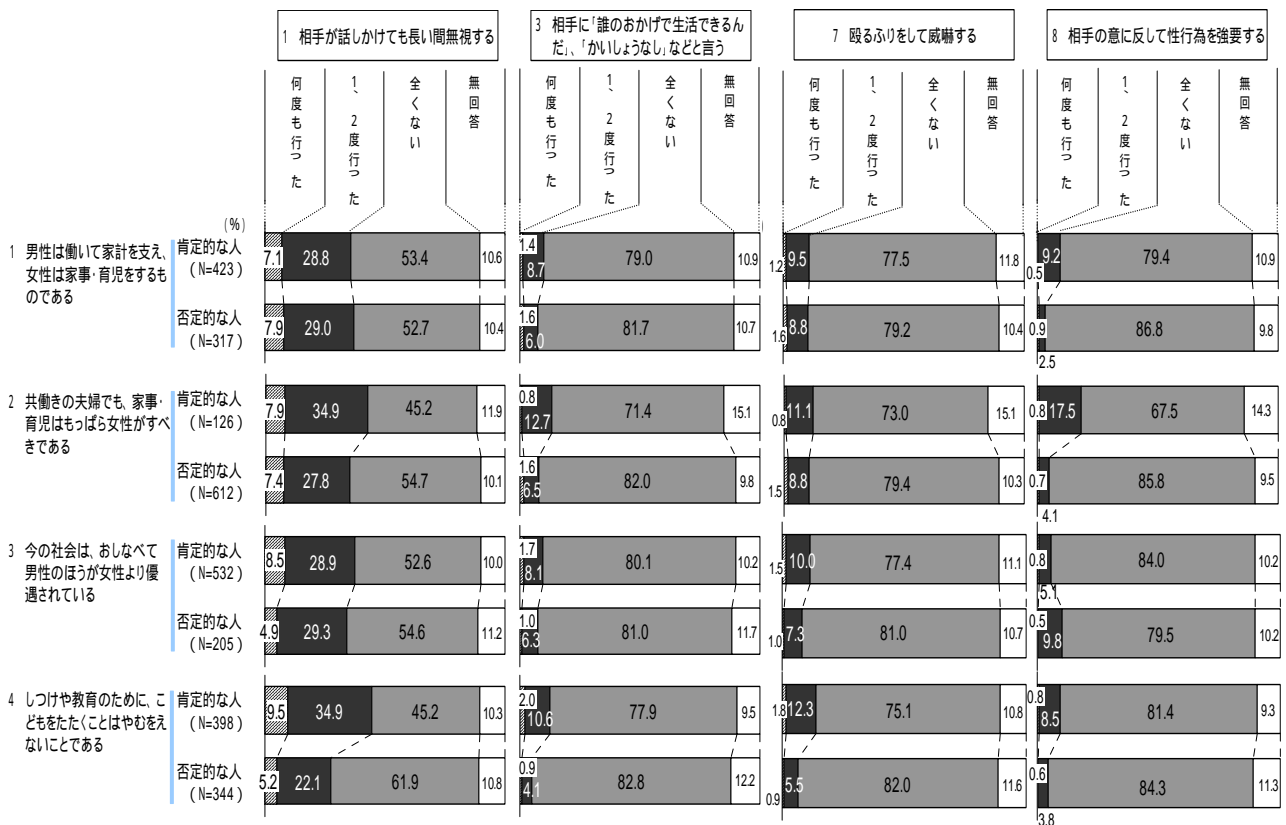


「しつけや教育のために、子どもをたたくことはやむをえないことである」という考え方に、肯定的な人と否定的な人とでは、暴力等のほとんどで加害経験に差がみられる。

また、男女の固定的な役割分担についての意識差により、「『誰のおかげで生活できるんだ』『かいしょうなし』などと言う」などの項目で加害経験に差がみられる。

暴力等の加害経験を男女の役割意識等別でみると、男性は働いて家計を支え、女性は家事・育児をするものである、共働きの夫婦でも、家事・育児はもっぱら女性がすべきであるという考え方について、『肯定的な人』は『否定的な人』と比べて、〔相手に「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと言う〕や〔相手の意に反して性行為を強要する〕などにおいて加害経験が多い結果となっている。

しつけや教育のために、子どもをたたくことはやむをえないことであるという考え方では、『肯定的な人』は『否定的な人』と比べて、ほとんどの項目で加害経験が多くなっている。



P86、87、89より抜粋

**「親から大声でどなられた」経験が男女とも6割前後、「親から殴られたり、蹴られたりした」経験は男性で5割近くある。**

子どもの頃の暴力等に関する経験についてたずねたところ、「親から大声でどなられた」では、「何度もあった」と「1、2度あった」をあわせた『あった』が男女とも6割前後となっている。

〔親から殴られたり、蹴られたりした〕では男性の約5割、女性の約3割が『あった』と回答している。

また〔親が配偶者やパートナーから殴られたり、蹴られたりしたのを見た〕では、男女とも2割前後が『あった』と回答している。(P98 参照)

**子どもの頃に暴力等の被害経験がある人は、そうでない人と比べて加害経験が多い。**

暴力等の加害経験を子どもの頃の被害経験別にみると、子どもの頃の暴力等の被害で『経験あり』の人は、『経験なし』の人に比べ「加害経験あり」と回答する割合が多く、子どもの頃の経験と大人になったときの暴力等の行為との関連がうかがえる。(P99 参照)

## 5 . 今後の施策として～結論～

「DV 防止法」は比較的認知度が高い。平成 15 年に開設した「エル・ソーラ仙台」の認知度は 3 割程度にとどまるなど、施設や相談窓口などについての認知度は十分ではない。意識啓発と相談体制等の被害者支援対策の充実が大きな課題。

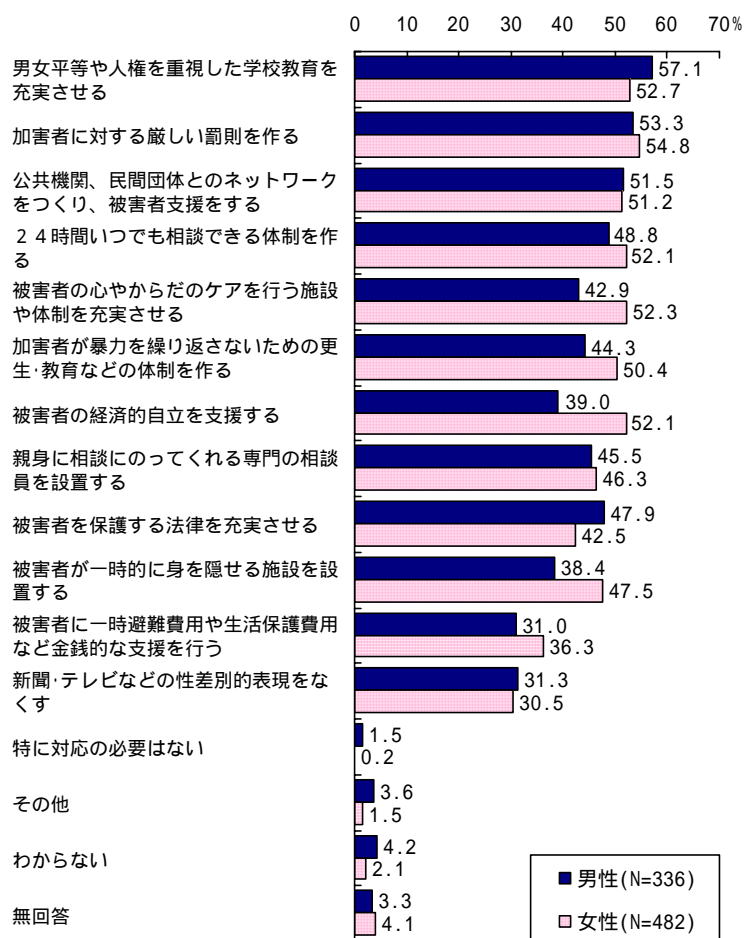
男女の役割等に関する意識を探っていくと、男女の固定的な役割分担についての意識では男女間で差がみられ、また、〔しつけや教育のため、子どもをたたくことはやむをえないことである〕という考え方については、男女とも肯定する割合が比較的高い。

さらに、配偶者やパートナー間での暴力等に対する意識をみると、〔相手が話しかけても長い間無視する〕〔相手を大声でどなる〕ことや行動の束縛を一部容認する割合は男女ともに比較的高く、〔共働きの夫婦でも、家事・育児はもっぱら女性がすべきである〕、〔しつけや教育のために、子どもをたたくことはやむをえないことである〕という考え方に『肯定的な人』は『否定的な人』と比べて、暴力的な行為を容認する傾向がやや強いことが認められる。

暴力等の経験をみても、〔相手が話しかけても長い間無視する〕〔相手を大声でどなる〕ことでは、被害・加害経験が比較的多くみられた。また、〔共働きの夫婦でも、家事・育児はもっぱら女性がすべきである〕〔しつけや教育のために、子どもをたたくことはやむをえないことである〕という考え方に『肯定的な人』は、『否定的な人』と比べて、加害経験が多くなる傾向が認められた。

以上のことから、被害経験と加害経験のいずれも、男女共同参画やしつけに関する考え方、暴力等に対する意識と相関性があることがうかがえる。また、子どもの頃に暴力の被害経験がある人は、そうでない人と比べて加害経験が多くなる傾向が認められた。

暴力等の防止や被害者支援策としては、「男女平等や人権を重視した学校教育を充実させる」ことをあげる人が最も多く、男女共同参画の意識の浸透を図るための教育や啓発をさらに進めていくことが求められている。また、女性では施設や体制の充実、経済的な支援をあげる割合が男性と比べると比較的多く、暴力等を受けた時に「離婚や別居をしたいと思った」女性の割合が男性を大きく上回っているなど、事態を深刻に受け止めている女性が男性に比べて多いことが推察できる。

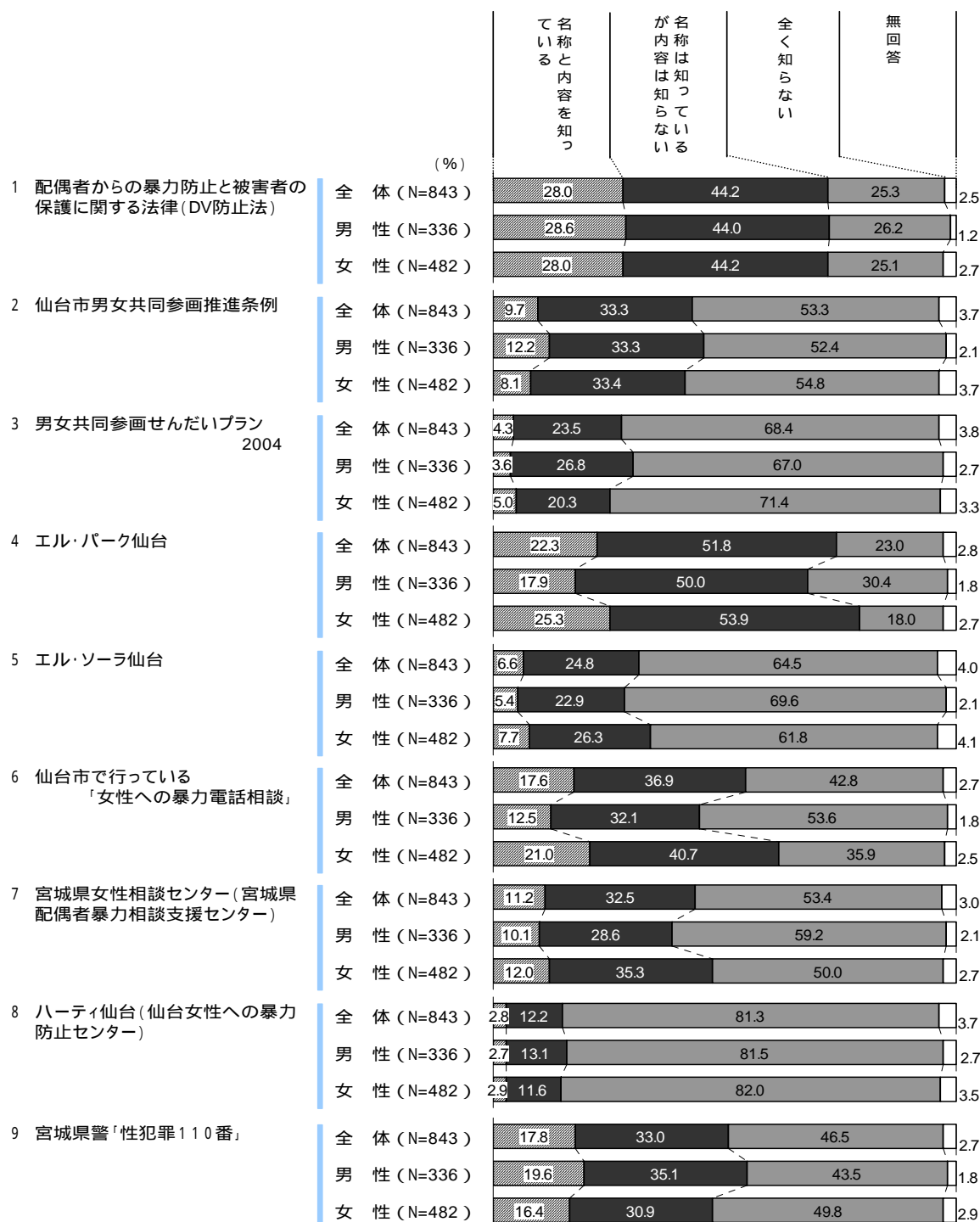


P101 より抜粋



暴力等に関する法律や施設の認知度については、「DV防止法」は比較的認知度が高いものの、平成15年に開設し、女性相談事業を行っている「エル・ソーラ仙台」の認知度は3割程度にとどまるなど、施設や相談窓口などについての認知度は十分とはいえない。

これらのことを踏まえ、今後の施策としては、男女共同参画に関する意識啓発をさらに進めるとともに、相談体制等の被害者支援策の充実が必要である。



## 調査結果の分析

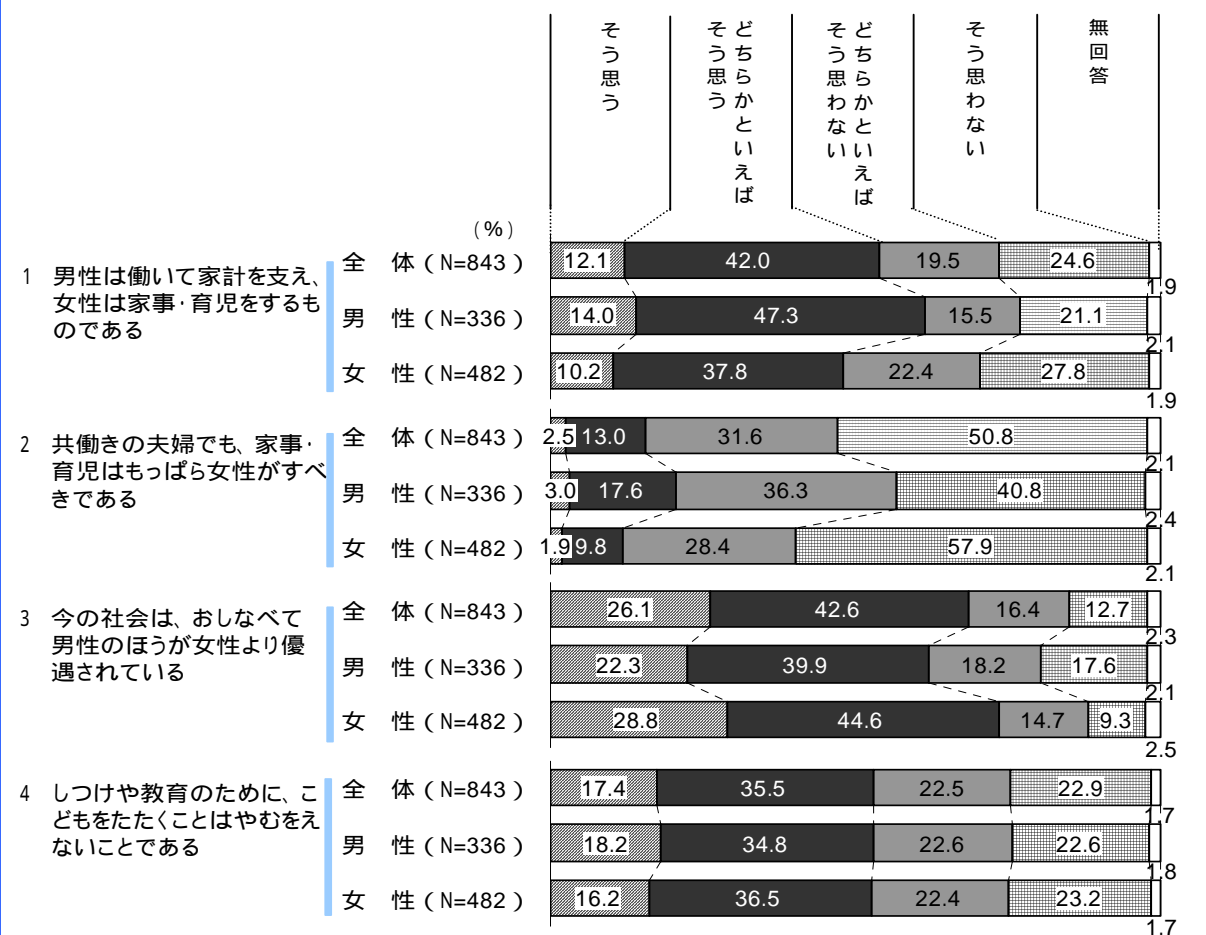
# 調査結果の分析

## 1. 男女の役割等について

### (1) 男女の役割等に関する意識

問1 次にあげる考え方について、あなたはどのように思いますか。(それぞれは1つ)

図表1-1 男女の役割意識等(男女別)



男女の役割等に関する意識についてたずねたところ、以下のようになった。

〔男性は働いて家計を支え、女性家事・育児をするものである〕という考え方については、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答した『肯定的な人』(以下同じ)が過半数を占めている。男女別にみると、男性では『肯定的な人』が6割を超えている一方、女性では「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」と回答した『否定的な人』(以下同じ)が5割を超えており、男女間で役割分担に対する意識の差がみられる。

〔共働きの夫婦でも、家事・育児はもっぱら女性がすべきである〕という考え方については、男女ともに『否定的な人』が多く、特に女性では9割弱とその割合が高くなっている。

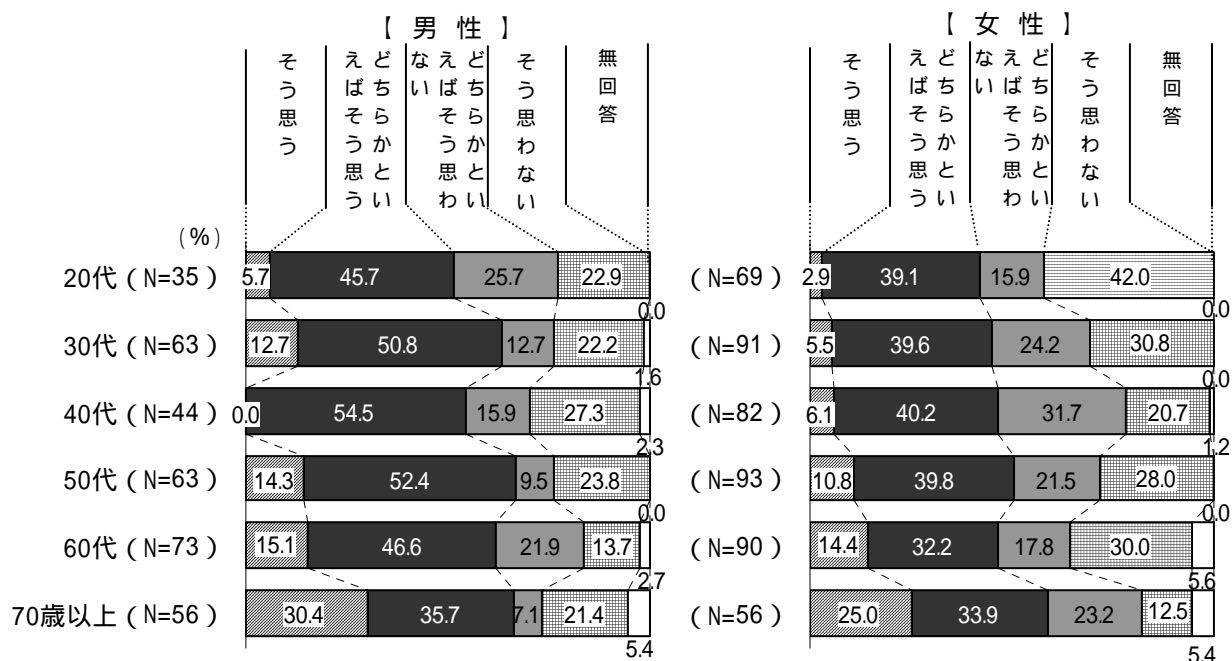
〔今の社会は、おしなべて男性のほうが女性より優遇されている〕という考え方については、男女とも『肯定的な人』が多くなっているが、女性は7割以上が肯定的で、男性に比べてその割合が高くなっている

〔しつけや教育のために、子どもをたたくことはやむをえないことである〕という考え方については、男女とも『肯定的な人』が『否定的な人』に比べて若干多くなっている。

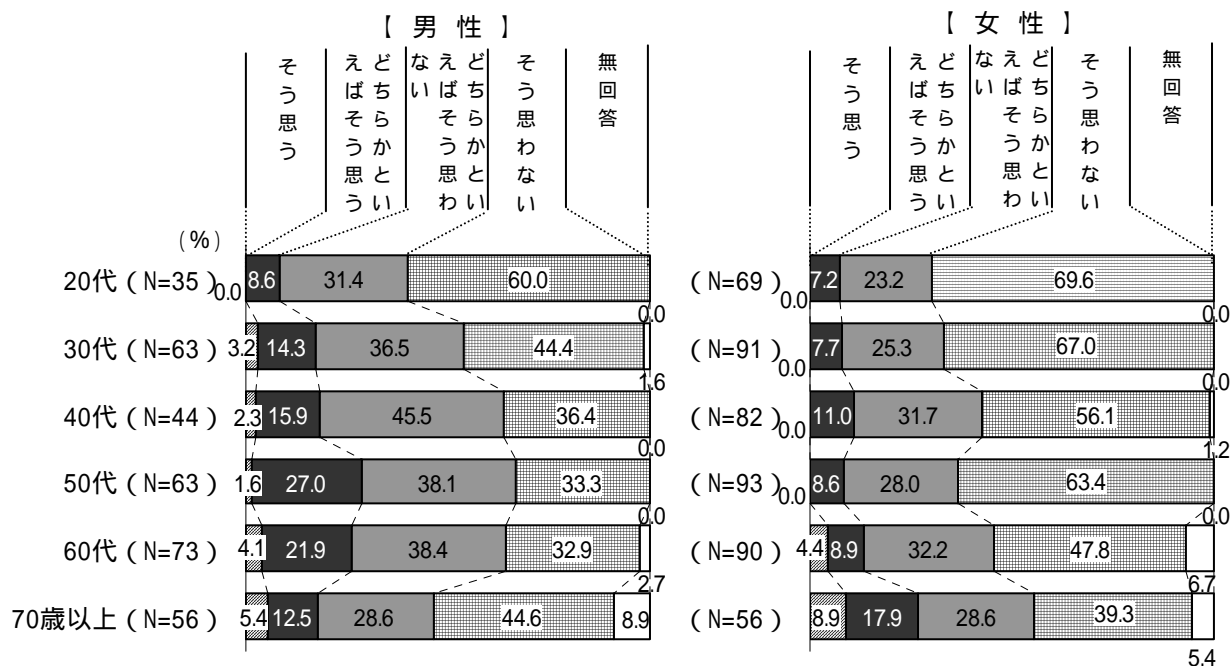
性・年代別にみると、「男性は働いて家計を支え、女性は家事・育児をするものである」については、女性の年齢が上がるにつれ「そう思う」という回答が多くなっている。また、70歳以上では男女ともに他の年代に比べてその割合が高くなっている。

〔共働きの夫婦でも、家事・育児はもっぱら女性がすべきである〕については、男女ともに20代で『否定的な人』が多い。

図表 1 - 2 男女の役割意識等 - 1 男性は働いて家計を支え、  
女性は家事・育児をするものである（性・年代別）



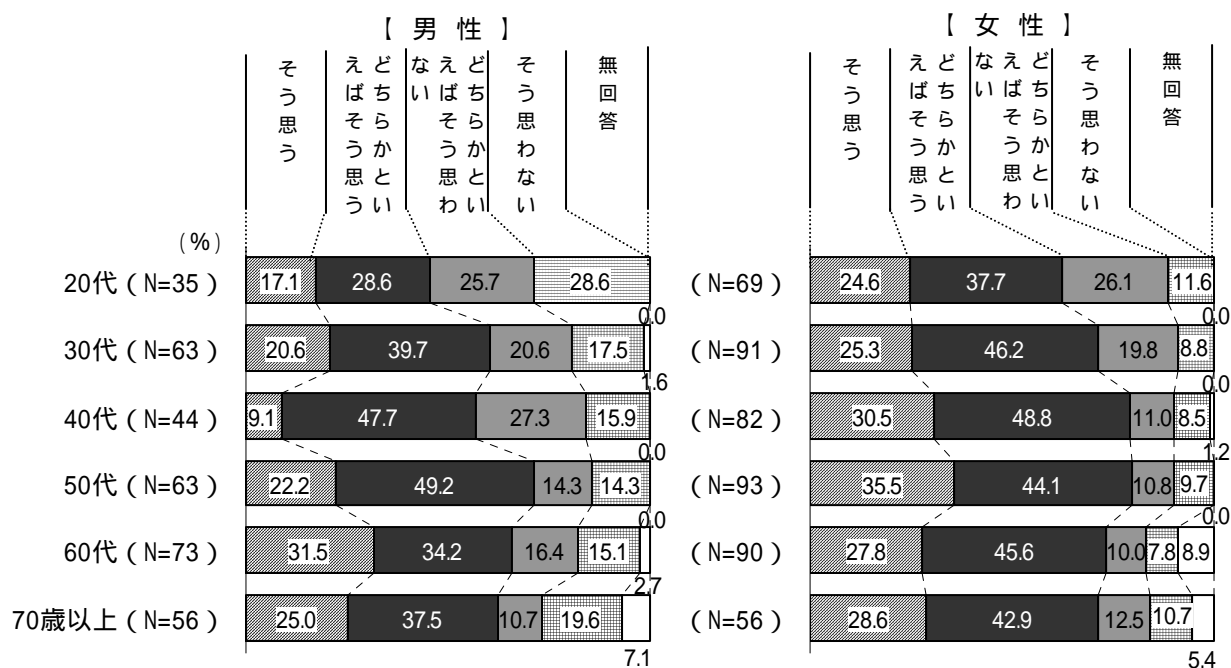
図表 1 - 3 男女の役割意識等 - 2 共働きの夫婦でも、家事・育児は  
もっぱら女性がすべきである（性・年代別）



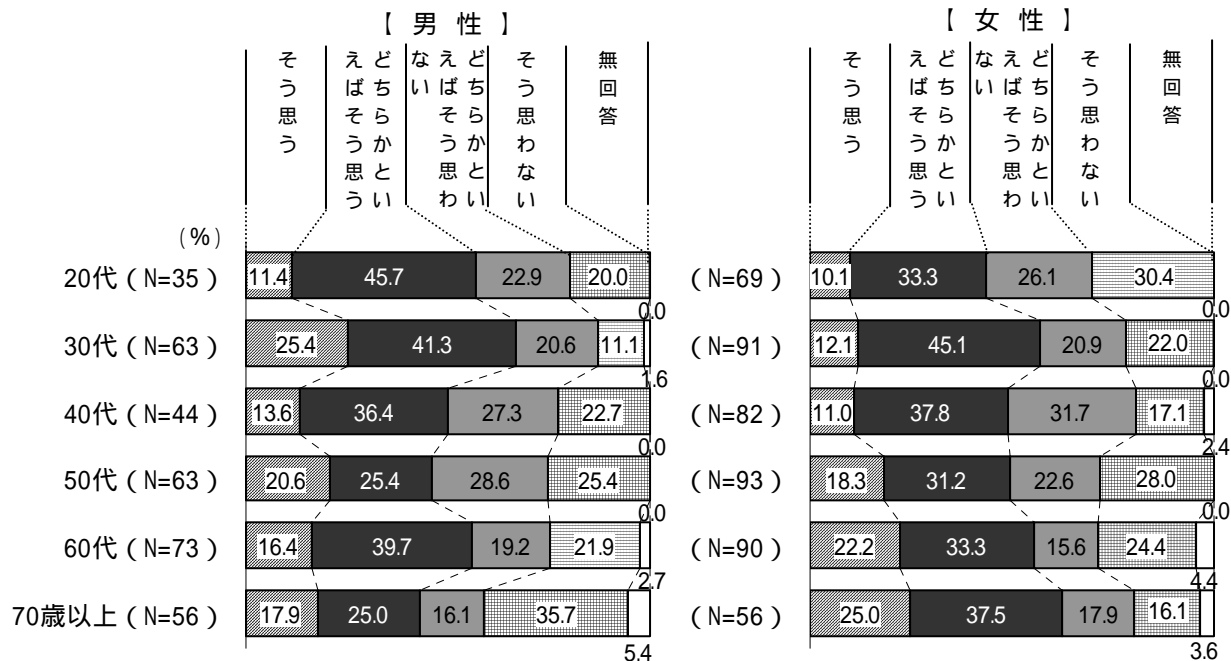
〔今の社会は、おしなべて男性のほうが女性より優遇されている〕については、男女ともに50代で『肯定的な人』が最も多くなっている。

〔しつけや教育のために、こどもをたたくことはやむをえないことである〕については、男性の20～40代と60代、女性でも30代と60代以上で『肯定的な人』が5割以上となっている。

図表 1 - 4 男女の役割意識等 - 3 今の社会は、おしなべて男性のほうが女性より優遇されている（性・年代別）



図表 1 - 5 男女の役割意識等 - 4 しつけや教育のために、こどもをたたくことはやむをえないことである（性・年代別）

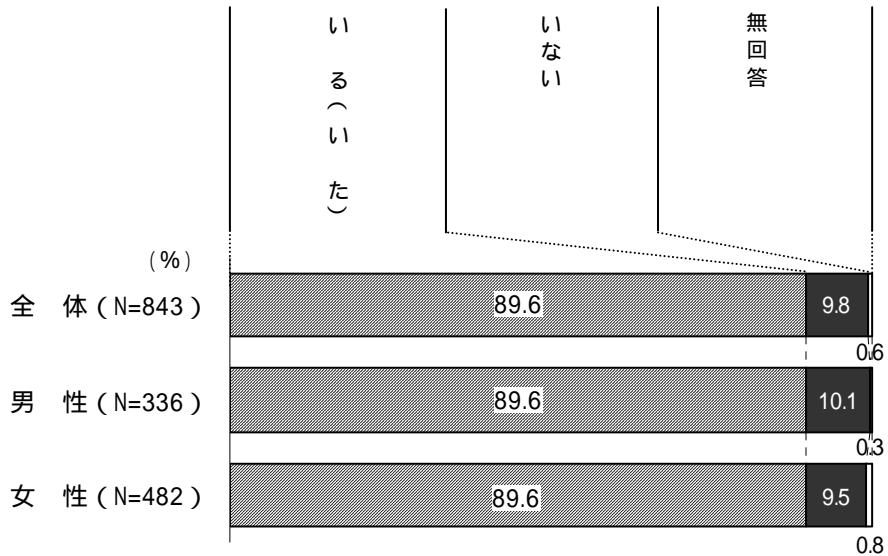


(2) 家庭内における日頃の役割

配偶者やパートナーの有無と同居の有無

問2 あなたには「配偶者やパートナー」がいますか。( は1つ)  
 配偶者やパートナーとは「夫、妻、前夫、前妻、同棲相手、恋人、元恋人」など、一定期間親密な関係のある(あった)相手をさします。

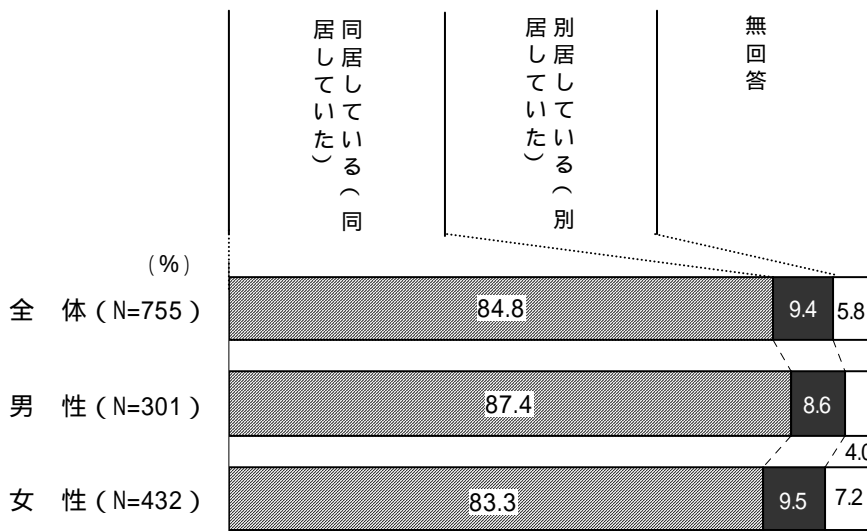
図表1-6 配偶者やパートナーの有無(男女別)



(問2で「1.いる(いた)」と答えた方のみお答えください)

問2-1 あなたはその配偶者やパートナーと同居しています(いました)か。( は1つ)

図表1-7 配偶者やパートナーとの同居の有無(男女別)

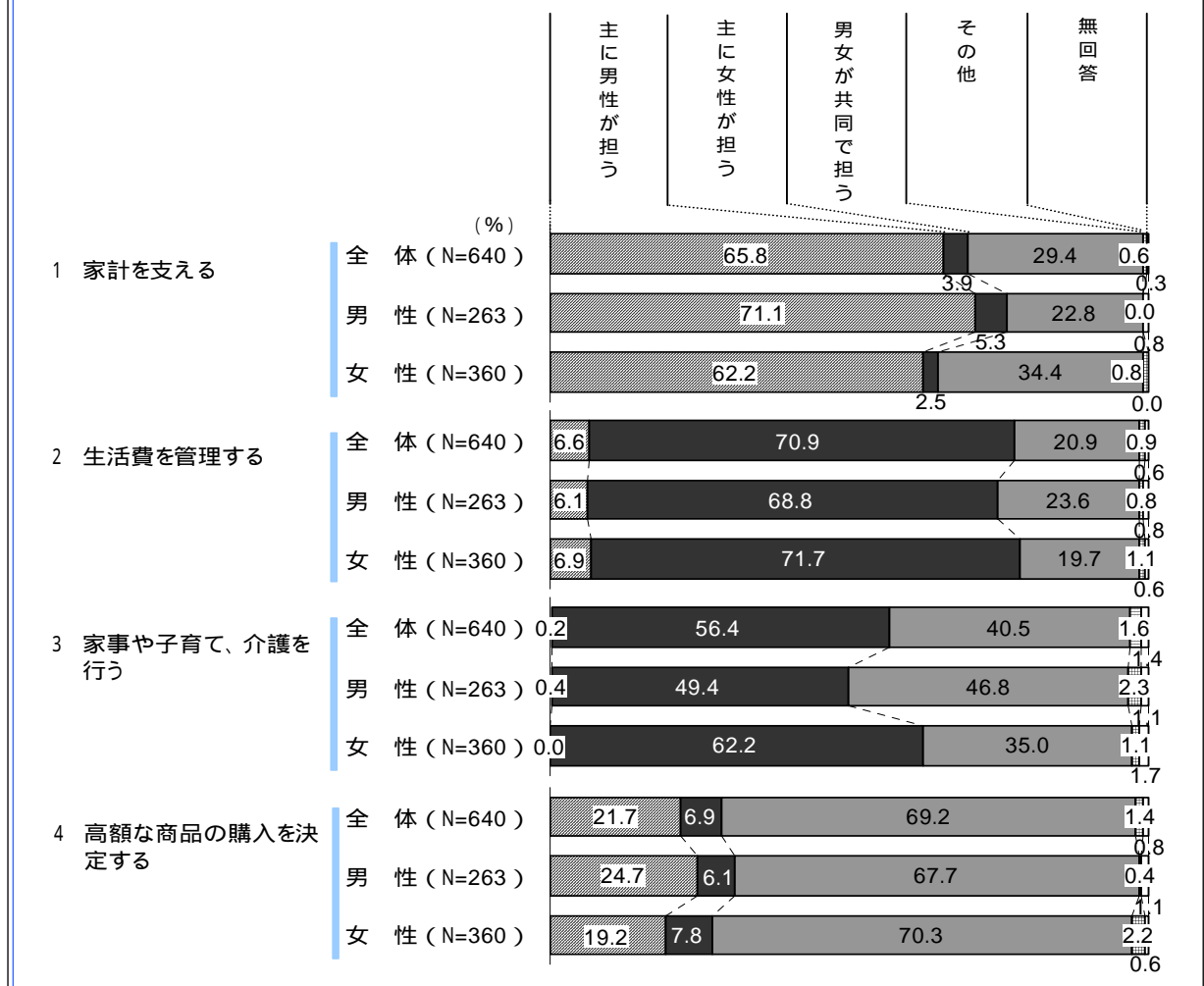


現在もしくは過去に、配偶者やパートナーがいる(いた)かどうかをたずねたところ、約9割が「いる(いた)」と答えており、そのうち「同居している(同居していた)」が8割以上となっている。

## 同居している配偶者やパートナーとの役割分担

(問2 - 1で「1.同居している(同居していた)」と答えた方のみお答えください)  
 問2 - 2 次にあげる項目について、配偶者やパートナー間の役割をどうなさっています(いました)か。(それぞれは1つ)

図表1-8 同居している配偶者やパートナーとの役割分担の現状(男女別)



配偶者やパートナーと同居している(いた)人に、家庭内での役割分担をたずねたところ、以下ようになった。

〔家計を支える〕については、4つの項目の中で「主に男性が担う」という回答が男女ともに最も多く、男性(71.1%)のほうが女性(62.2%)より多くなっている。

〔生活費を管理する〕については、「主に女性が担う」が4つの項目の中で最も多く、男女ともに7割前後となっている。

〔家事や子育て、介護を行う〕については、男女ともに「主に女性が担う」が最も多いが、男性(49.4%)と女性(62.2%)で差が出ている。

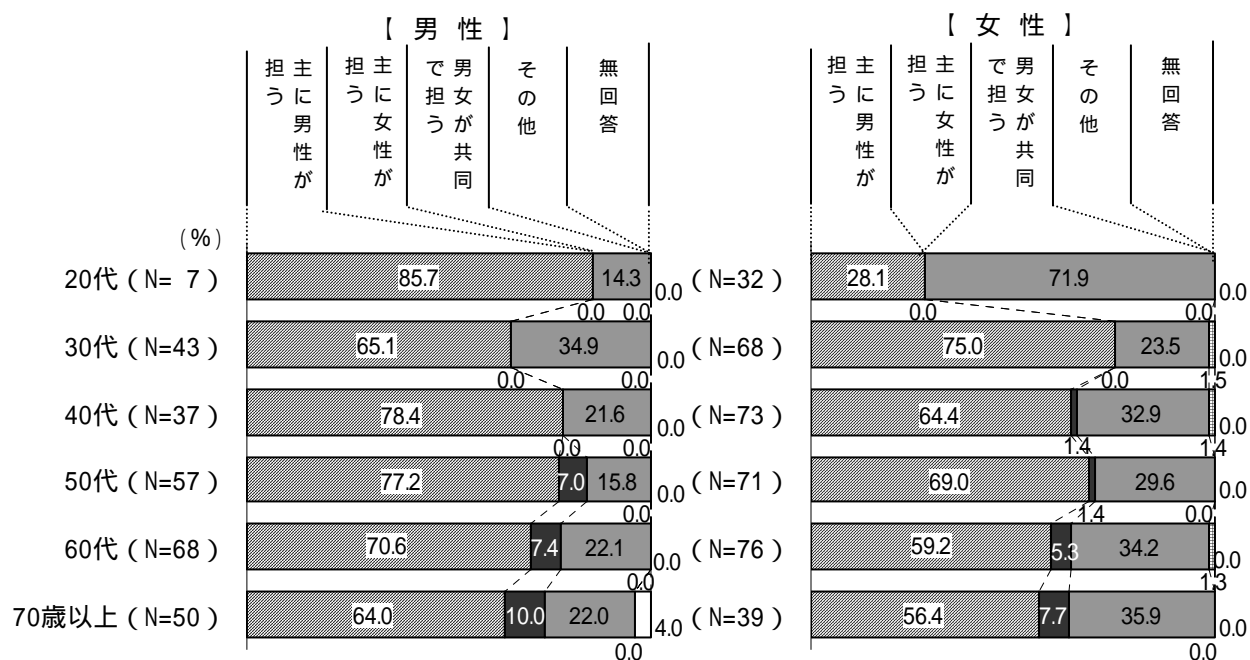
〔高額な商品の購入を決定する〕については、「男女が共同で担う」が男女ともに7割前後を占め、4つの項目の中で最も多くなっている。

性・年代別にみると、以下のようになった。

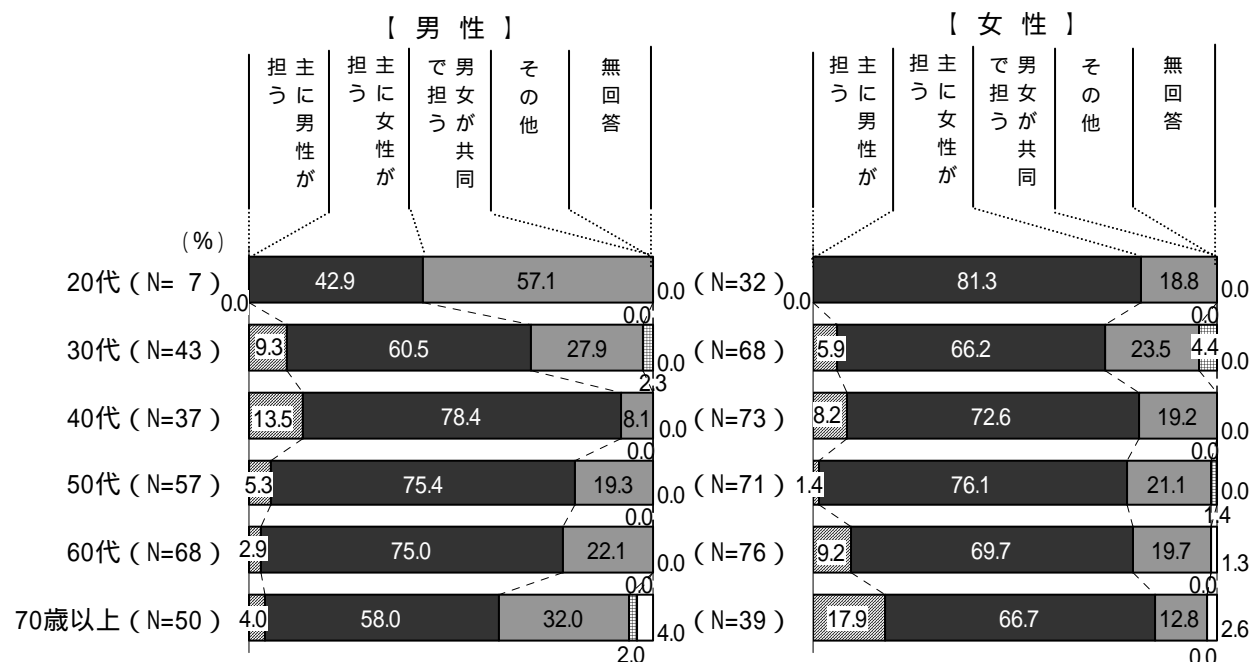
〔家計を支える〕については、男性の40、50代で「主に男性が担う」が8割近くと多くなっている一方、50代からは「主に女性が担う」との回答も出はじめ、70歳以上では1割にまでなっている。また、女性は男性に比べて「男女が共同で担う」が多くなっており、20代では7割強、40代以上の年代では3割前後となっている。

〔生活費を管理する〕については、20代の男性を除き、男女ともに全ての年代で「主に女性が担う」が多くなっている。

図表 1 - 9 役割分担の現状 - 1 家計を支える (性・年代別)



図表 1 - 10 役割分担の現状 - 2 生活費を管理する (性・年代別)

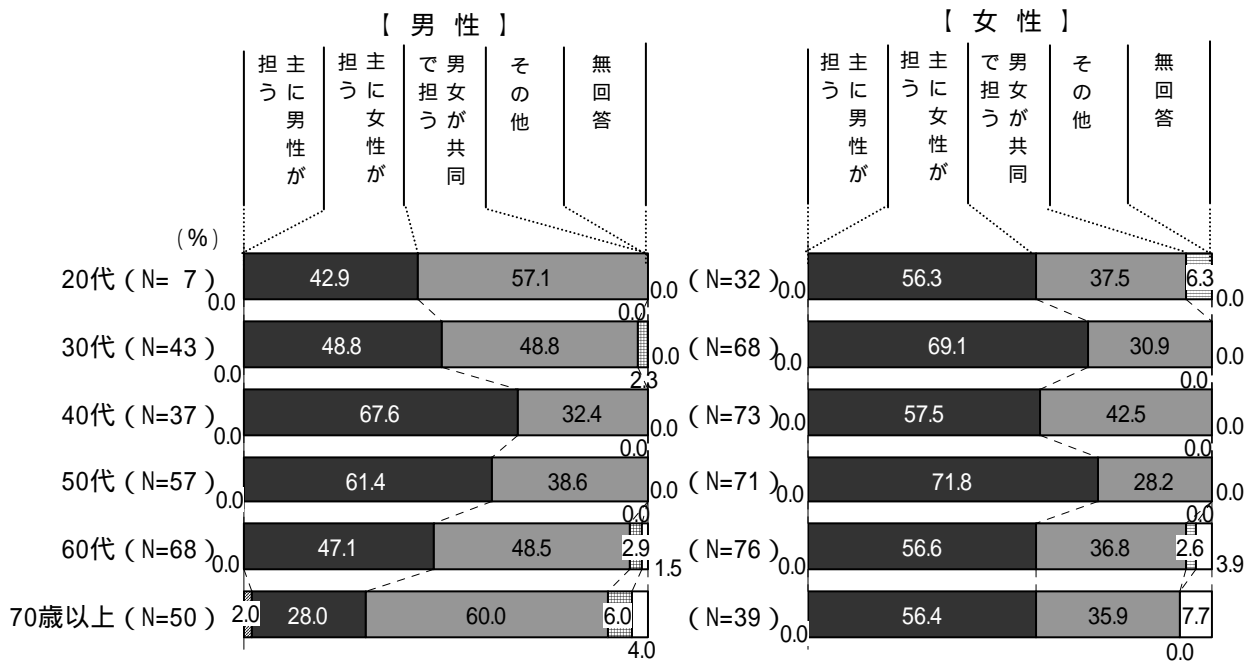




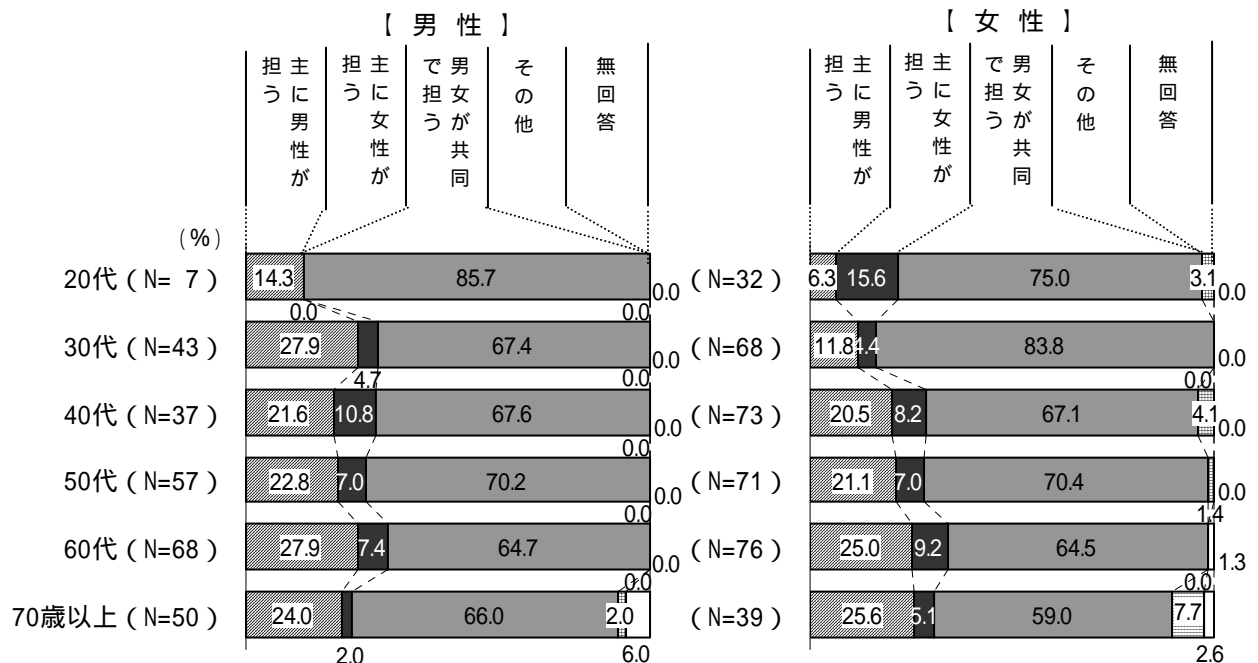
〔家事や子育て、介護を行う〕については、男性の40、50代で「主に女性が担う」が多くなっているが、他の年代では「男女が共同で担う」のほうが多くなっている。女性については、どの年代も5割以上が「主に女性が担う」となっており、特に50代では7割を超えている。

〔高額な商品の購入を決定する〕については、男女ともにどの年代でも「男女が共同で担う」が多くなっている。

図表 1 - 11 役割分担の現状 - 3 家事や子育て、介護を行う（性・年代別）



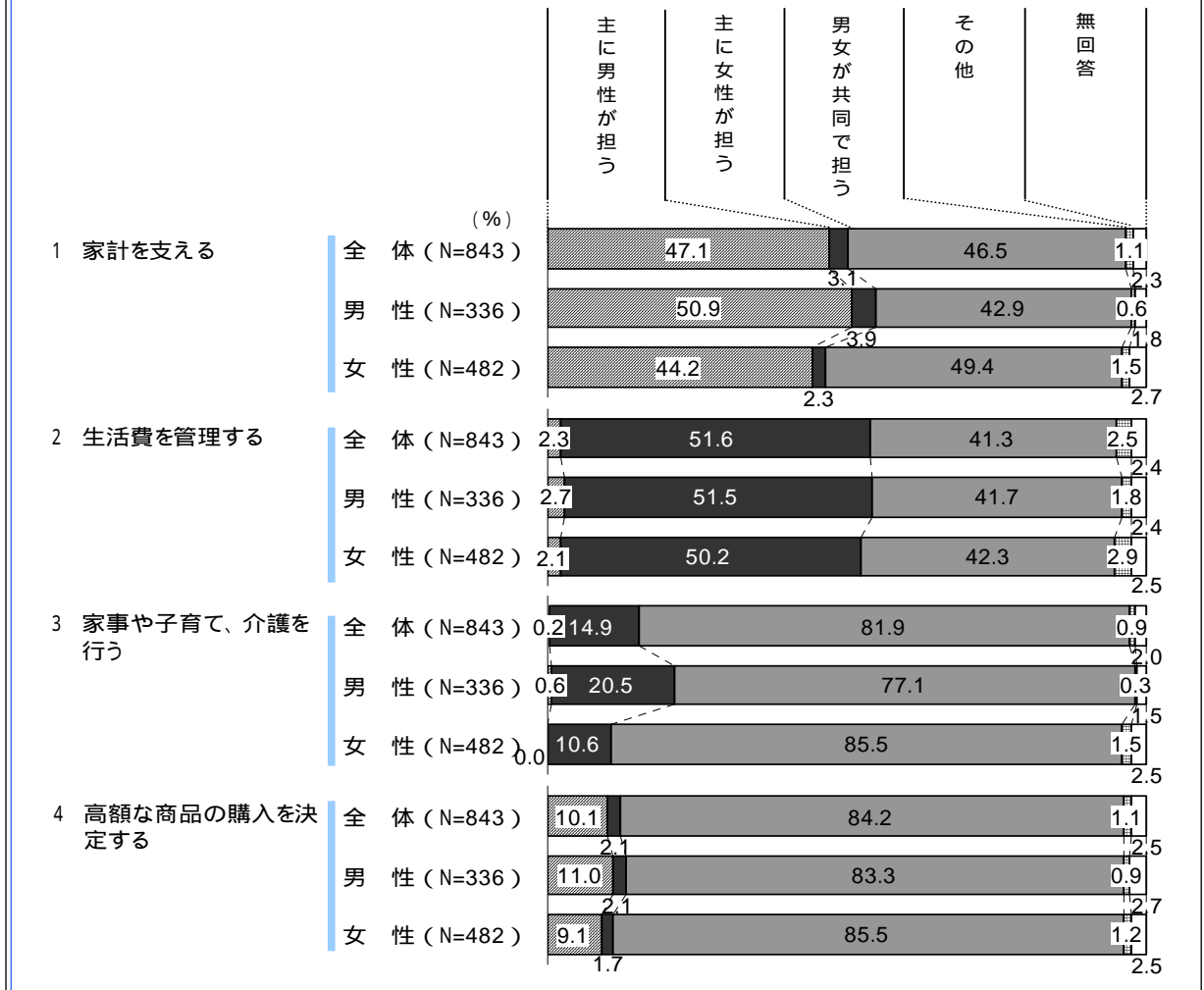
図表 1 - 12 役割分担の現状 - 4 高額な商品の購入を決定する（性・年代別）



### (3) 配偶者やパートナー間の役割についての理想

問3 あなたの理想としては次にあげる項目について、配偶者やパートナー間の役割をどのようにするのが良いと思いますか。(それぞれは1つ)

図表1-13 配偶者やパートナーとの役割分担の理想(男女別)



配偶者やパートナー間での役割についての理想をたずねたところ、以下ようになった。

〔家計を支える〕について、男性では「主に男性が担う」、女性では「男女が共同で担う」との回答が5割前後となっている。

〔生活費を管理する〕については、男女ともに「主に女性が担う」が5割、「男女が共同で担う」が4割となっている。

〔家事や子育て、介護を行う〕については、男女ともに「男女が共同で担う」が最も多くなっているが、「主に女性が担う」も1~2割となっている。

〔高額な商品の購入を決定する〕でも、「男女が共同で担う」が8割以上と最も多くなっているが、「主に男性が担う」も1割と「主に女性が担う」と比較すると多くなっている。

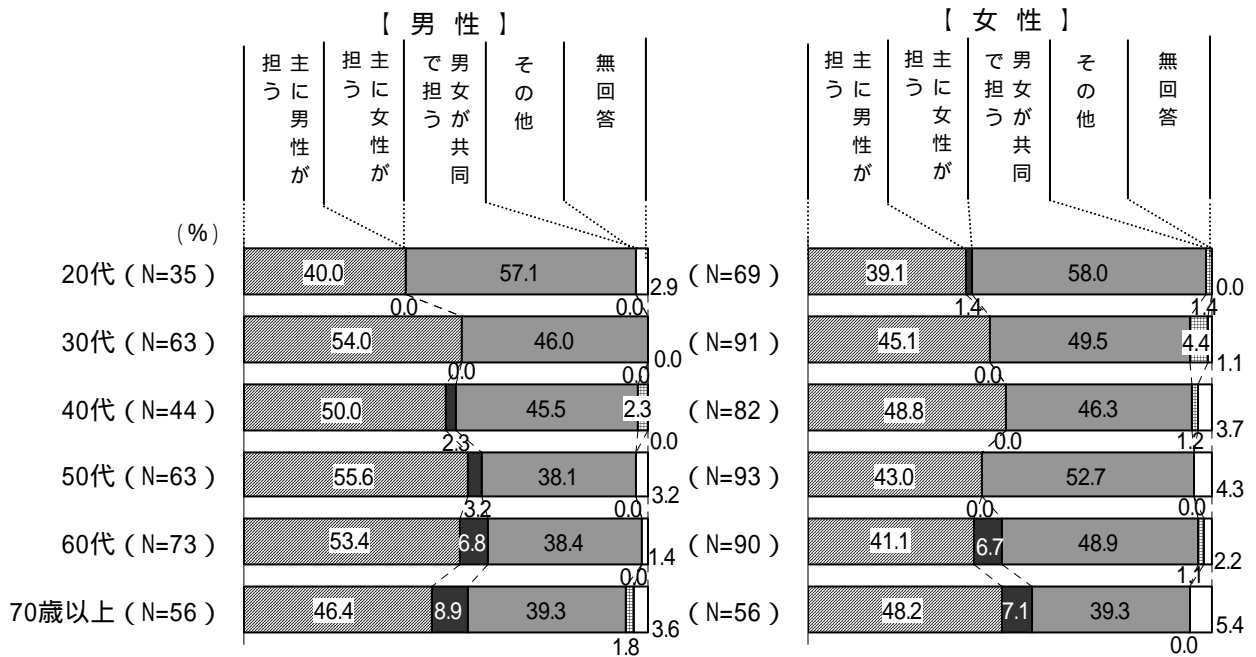
全般的に役割分担の現状(問2-2)では男女いずれかに偏っていたが、理想では「男女が共同で担う」との回答が多く、特に〔家事や子育て、介護を行う〕についてはその傾向が強く出ている。

性・年代別にみると、以下のようになった。

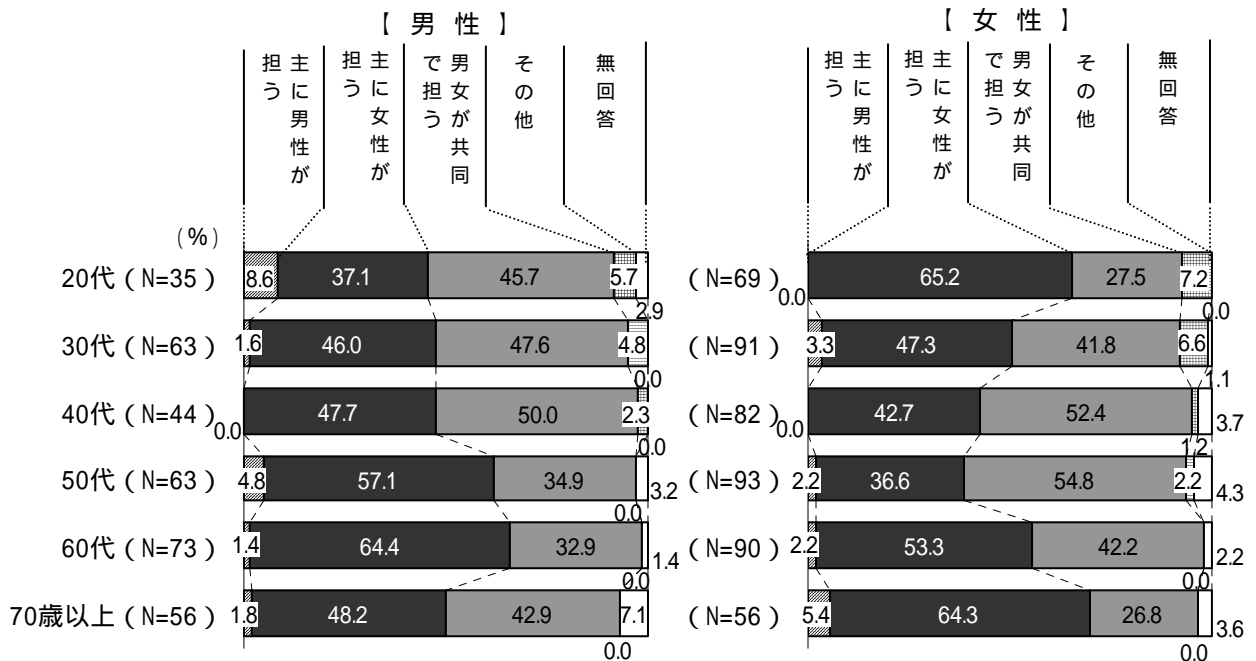
〔家計を支える〕については、男女ともにどの年代でも「主に男性が担う」、「男女が共同で担う」が多くなっているが、60代と70歳以上で「主に女性が担う」という回答が出てきている。

〔生活費を管理する〕については、男性の50、60代で「主に女性が担う」が6割前後となっている。一方、女性は40、50代で「男女が共同で担う」が「主に女性が担う」を上回り、他の年代では「主に女性が担う」が多くなっている。

図表 1 - 14 役割分担の理想 - 1 家計を支える（性・年代別）



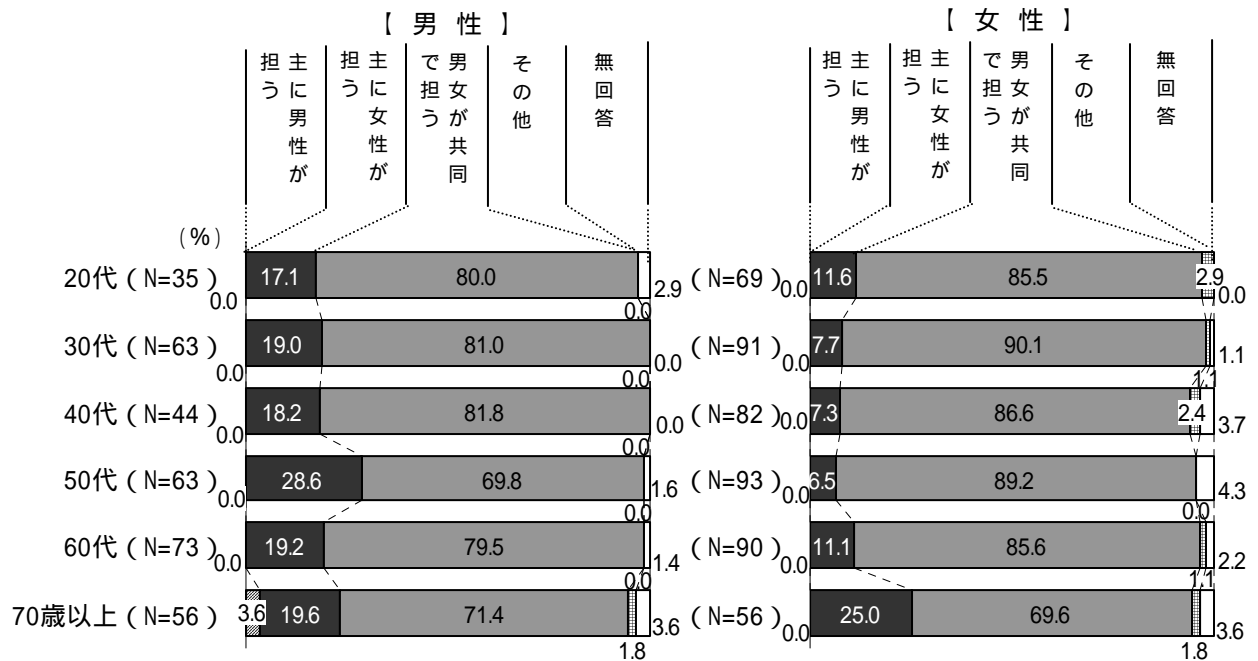
図表 1 - 15 役割分担の理想 - 2 生活費を管理する（性・年代別）



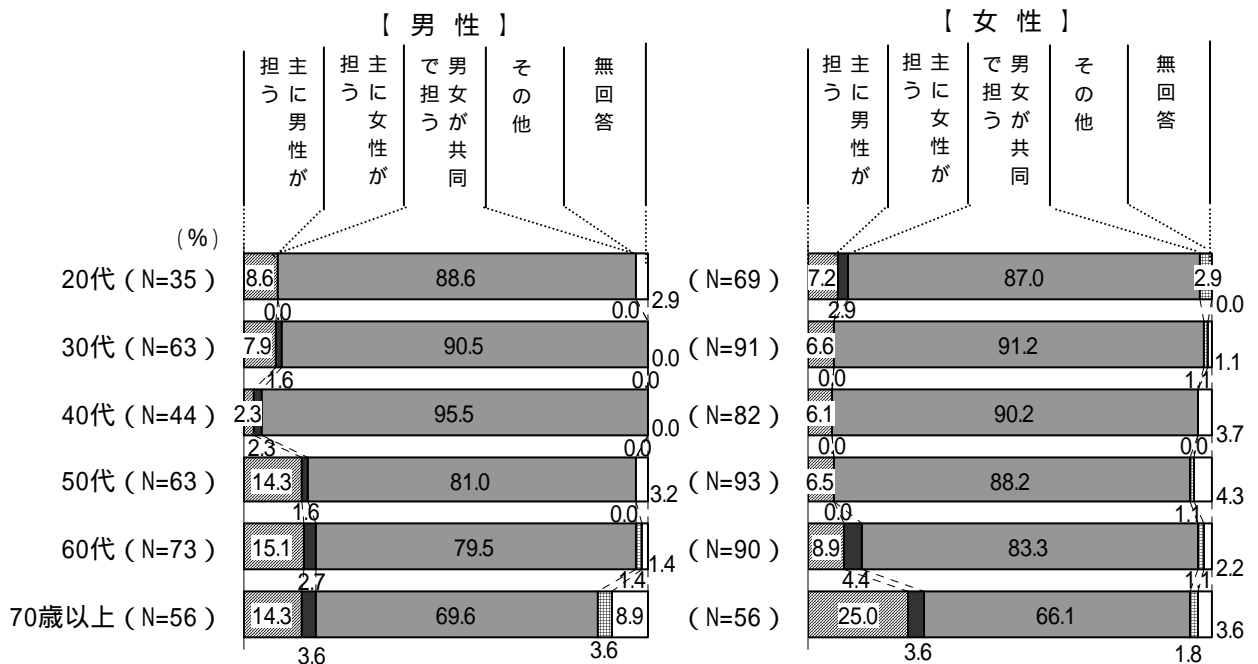
〔家事や子育て、介護を行う〕については、男女とも各年代で「男女が共同で担う」が最も多くなっているが、50代の男性では「主に女性が担う」が3割弱となっている。

〔高額な商品の購入を決定する〕でも、「男女が共同で担う」が約8割と最も多くなっている。

図表 1 - 16 役割分担の理想 - 3 家事や子育て、介護を行う（性・年代別）



図表 1 - 17 役割分担の理想 - 4 高額な商品の購入を決定する（性・年代別）



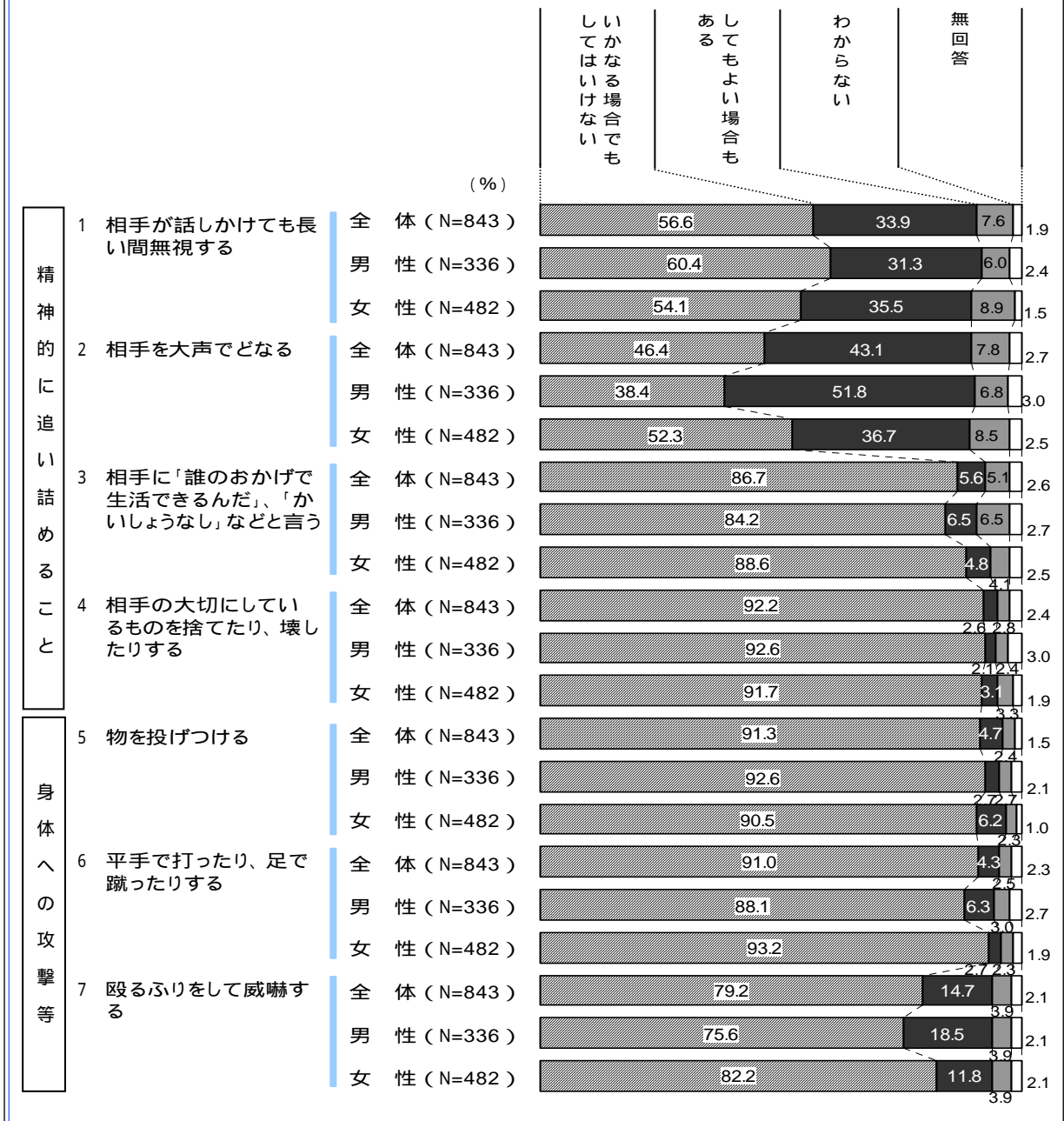
## 2. 配偶者やパートナー間での暴力等の意識や経験について

### (1) 配偶者やパートナー間での暴力等に関する意識

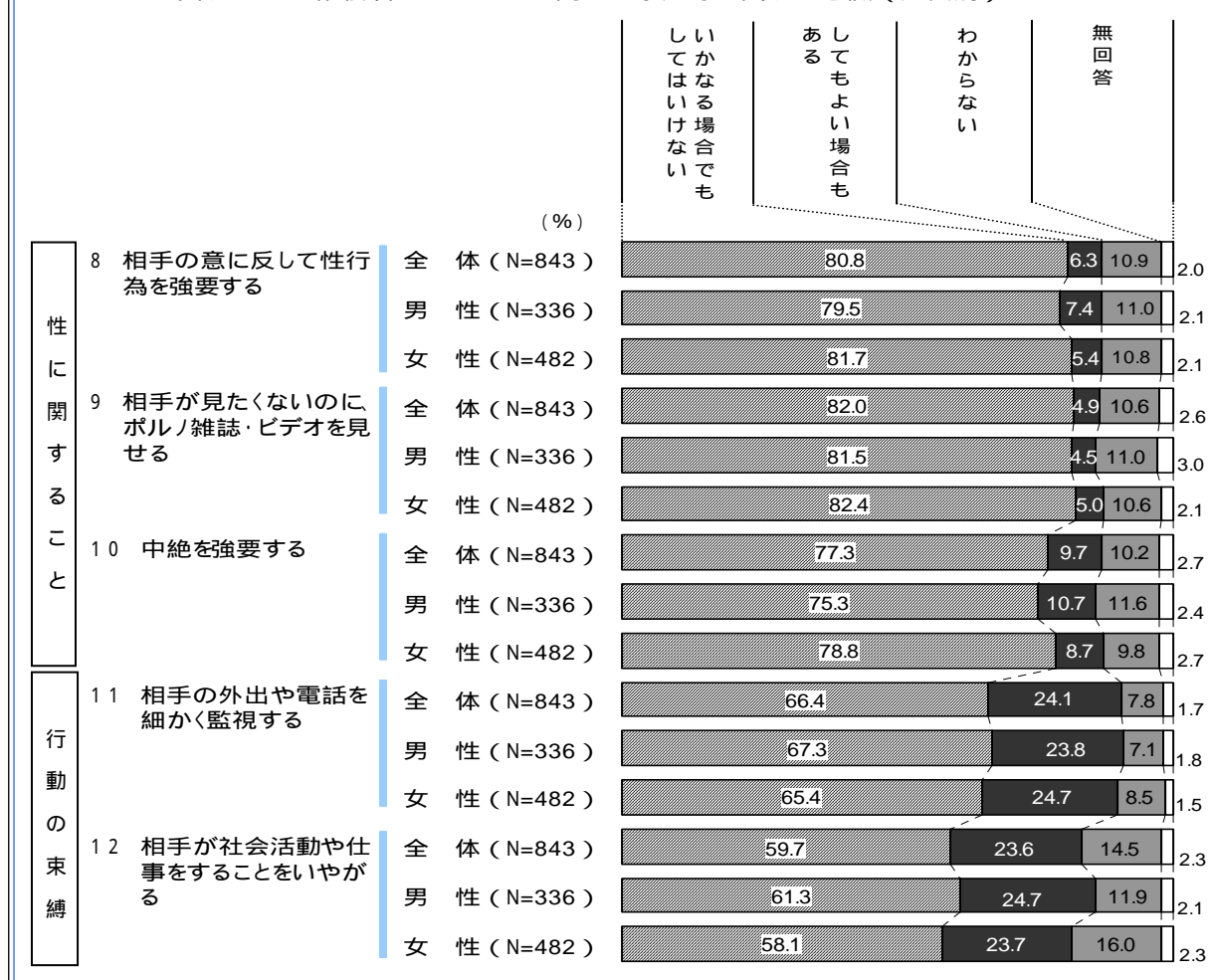
問4 「配偶者やパートナー」間で行われる次のような行為について、あなたはどのように思いますか。(それぞれは1つ)

配偶者やパートナーとは「夫、妻、前夫、前妻、同棲相手、恋人、元恋人」など、一定期間親密な関係のある(あった)相手をさします。配偶者やパートナーがいない場合は、いると仮定してお答え下さい。

図表2-1 配偶者やパートナー間での暴力等に関する意識(男女別)



図表 2-2 配偶者やパートナー間での暴力等に関する意識（男女別）



配偶者やパートナー間での暴力等に関する意識についてたずねたところ、以下のようになった。

精神的に追い詰めること については、〔相手が話しかけても長い間無視する〕と〔相手を大声でどなる〕で「してもよい場合もある」と回答する人が3割を超え、特に〔相手を大声でどなる〕では、男性の5割強が「してもよい場合もある」と回答している。一方、〔相手に「誰のおかげで生活できるんだ」、「かいしょうなし」などと言う〕、〔相手の大切にしているものを捨てたり、壊したりする〕では「いかなる場合でもしてはいけない」が8~9割となっている。

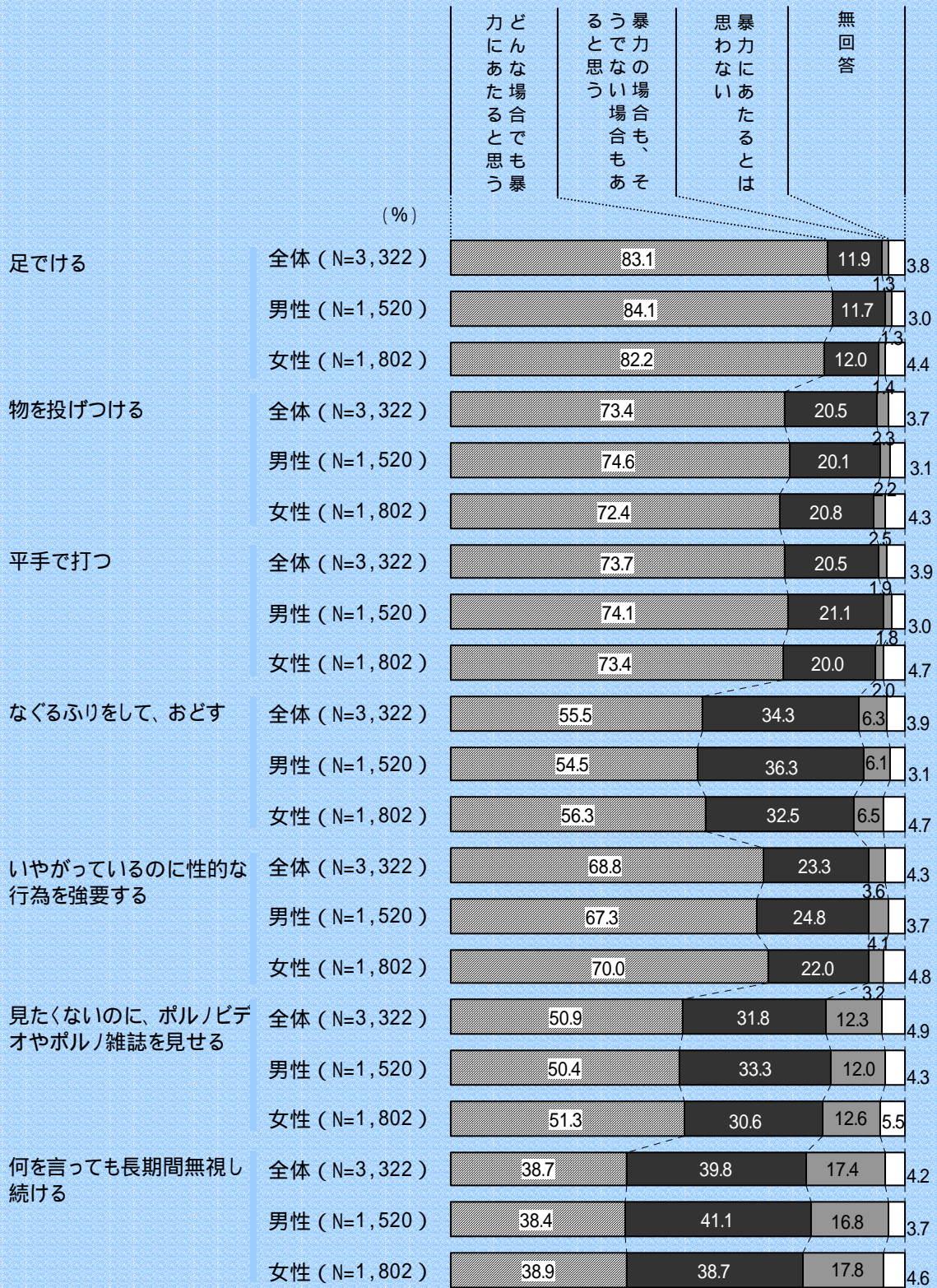
身体への攻撃等 については、〔物を投げつける〕、〔平手で打ったり、足で蹴ったりする〕で「いかなる場合でもしてはいけない」が9割前後となっているが、〔殴るふりをして威嚇する〕では「してもよい場合もある」が男性で2割弱となっている。

性に関すること については、いずれの項目でも「いかなる場合でもしてはいけない」が7割以上となっているが、「してもよい場合もある」との回答も見られ、〔中絶を強要する〕では「してもよい場合もある」とする人が男女ともに1割前後いる。

行動の束縛 については、いずれの項目でも男女ともに「してもよい場合もある」と回答する人が2割以上となっている。

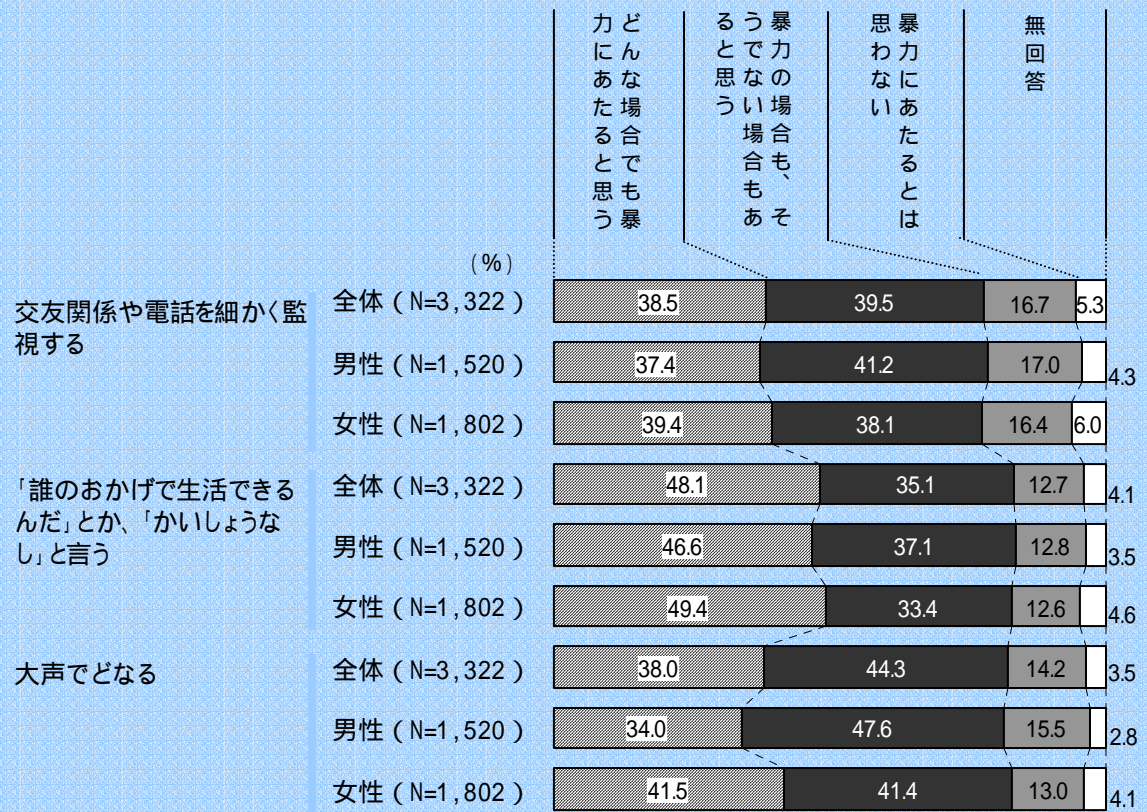
〔参 考〕 平成 15 年 4 月 内閣府調査より

あなたは、次のようなことが夫婦の間で行われた場合、それを暴力だと思えますか。



一部抜粋

〔参 考〕 平成 15 年 4 月 内閣府調査より 続き



一部抜粋

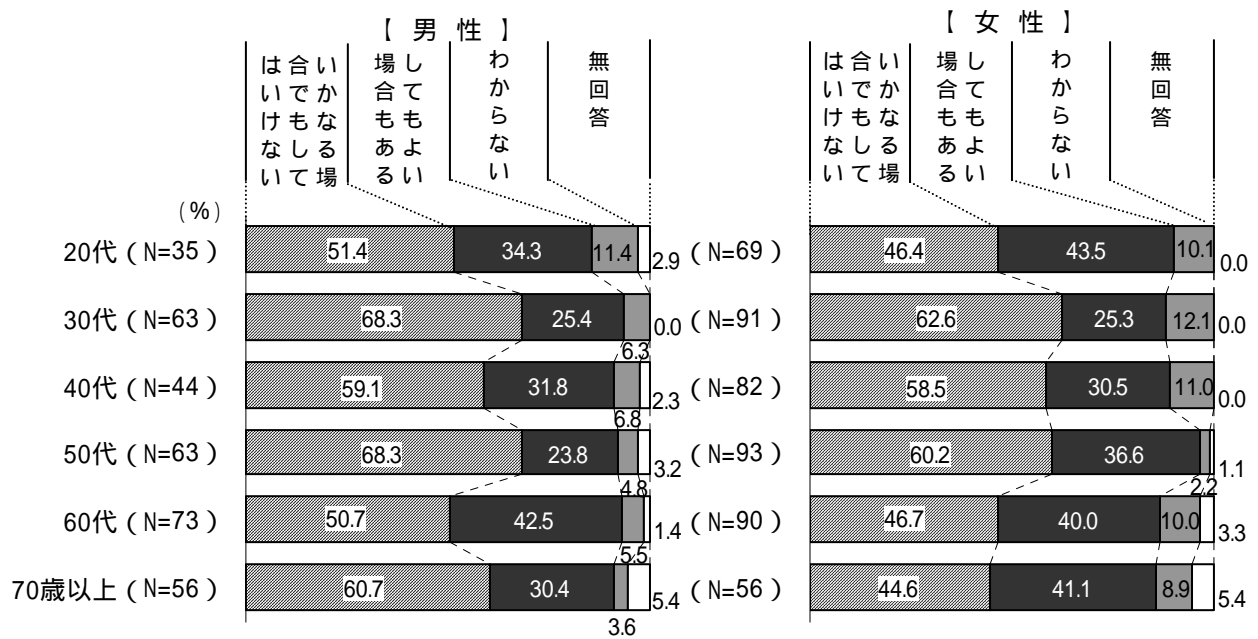


性・年代別でみると、以下のようになった。

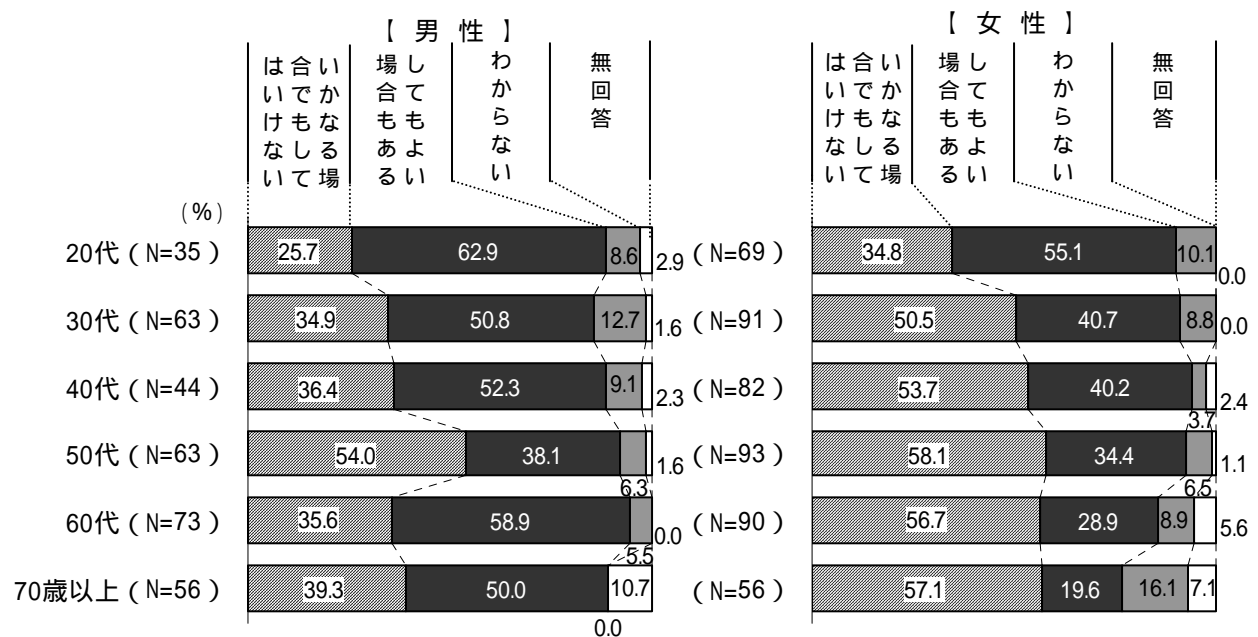
〔相手が話しかけても長い間無視する〕では、男女とも年代別にほぼ同傾向だが、20代と70歳以上の女性及び60代の男女で「してもよい場合もある」が4割以上となっている。

〔相手を大声でどなる〕では、50代を除いた男性の5割以上が「してもよい場合もある」と回答している。女性は20代で「してもよい場合もある」が5割を超えているが、年代が上がるに連れてその割合は減っている。

図表 2 - 3 暴力等の意識 - 1 相手が話しかけても長い間無視する（性・年代別）



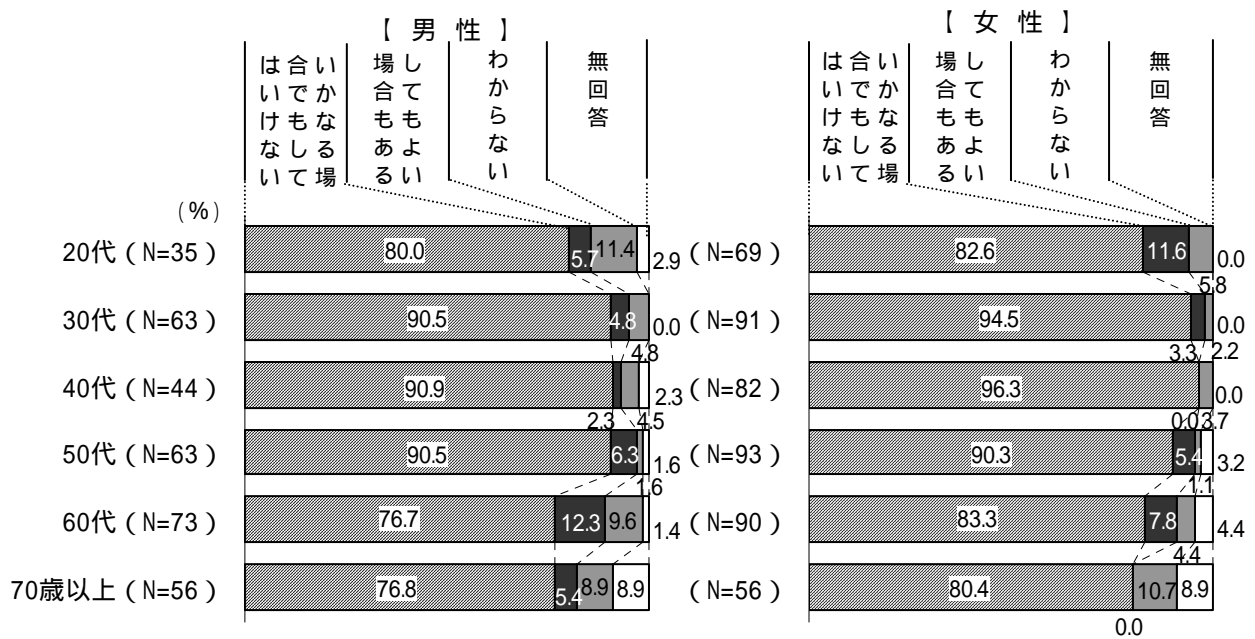
図表 2 - 4 暴力等の意識 - 2 相手を大声でどなる（性・年代別）



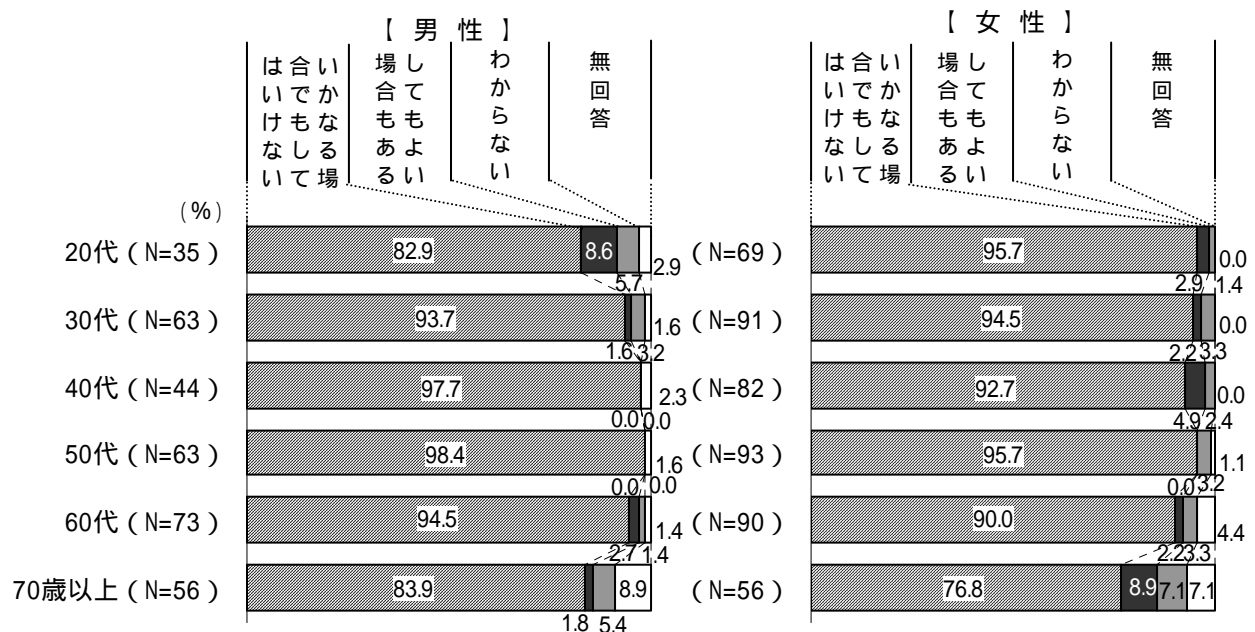
〔相手に「誰のおかげで生活できるんだ」、「かいしょうなし」などと言う〕では、20代の女性と60代の男性で「してもよい場合もある」が1割強となっている。

〔相手の大切にしているものを捨てたり、壊したりする〕では、男性の20代、女性の70歳以上で「してもよい場合もある」が1割弱となっている。

図表 2 - 5 暴力等の意識 - 3 相手に「誰のおかげで生活できるんだ」、「かいしょうなし」などと言う (性・年代別)

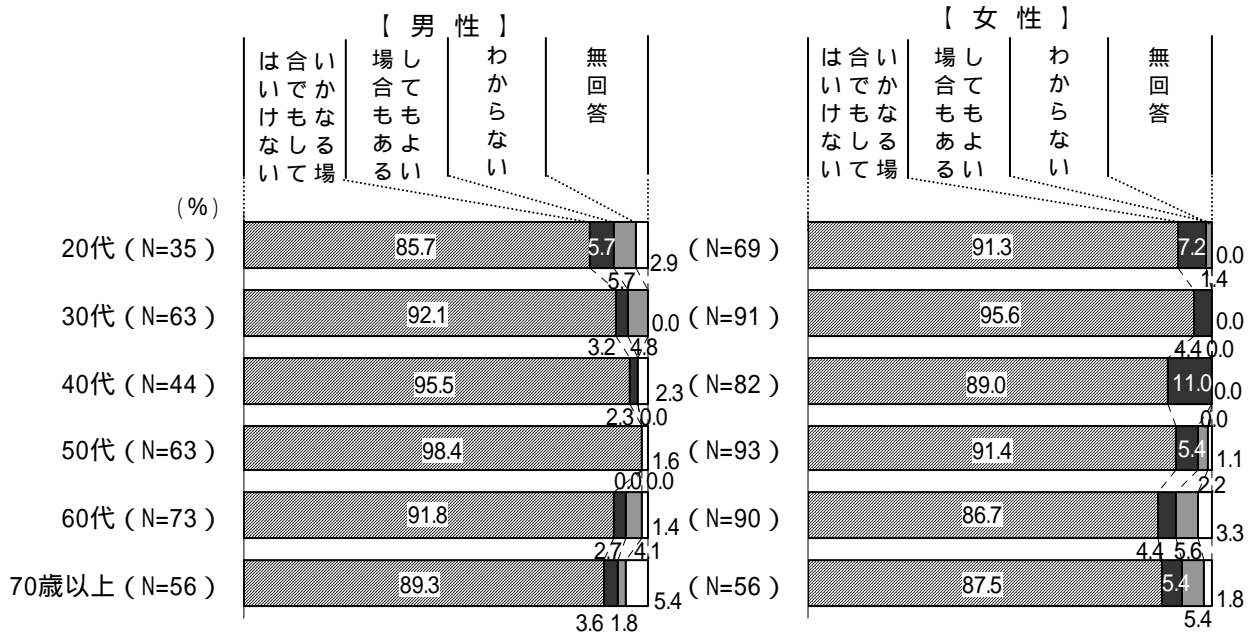


図表 2 - 6 暴力等の意識 - 4 相手の大切にしているものを捨てたり、壊したりする (性・年代別)

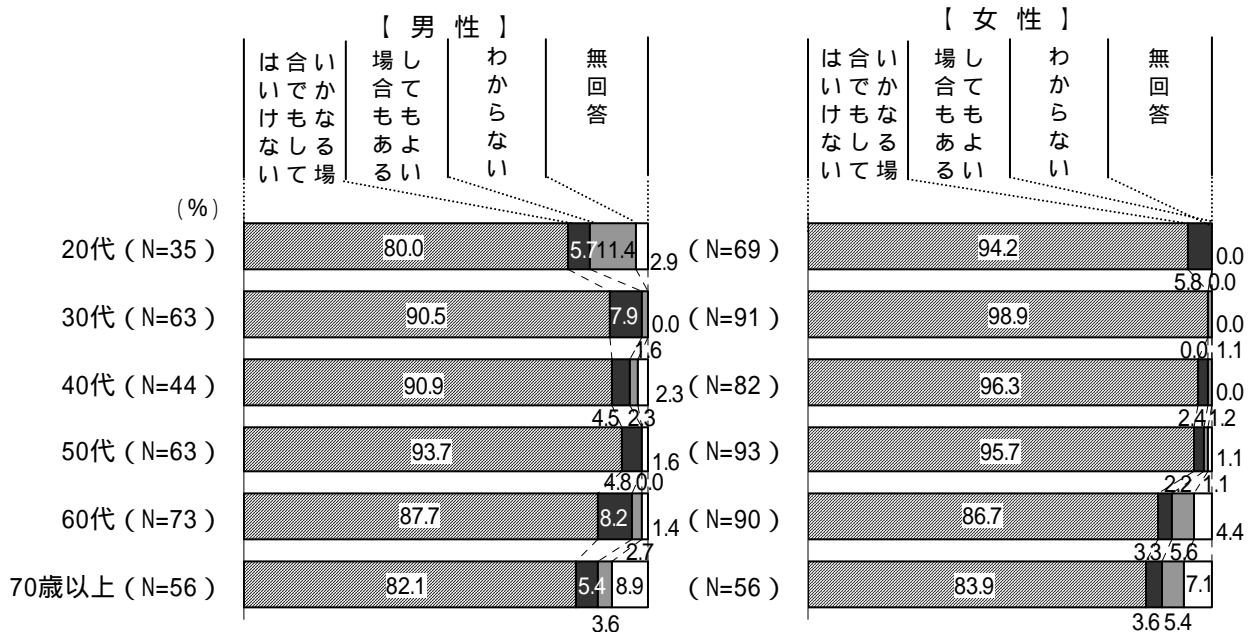


〔物を投げつける〕では、女性の40代で「してもよい場合もある」が1割強となっている。  
 〔平手で打ったり、足で蹴ったりする〕では、男女ともに全ての年代で「いかなる場合でもしてはいけない」が8~9割となっている。

図表 2 - 7 暴力等の意識 - 5 物を投げつける (性・年代別)



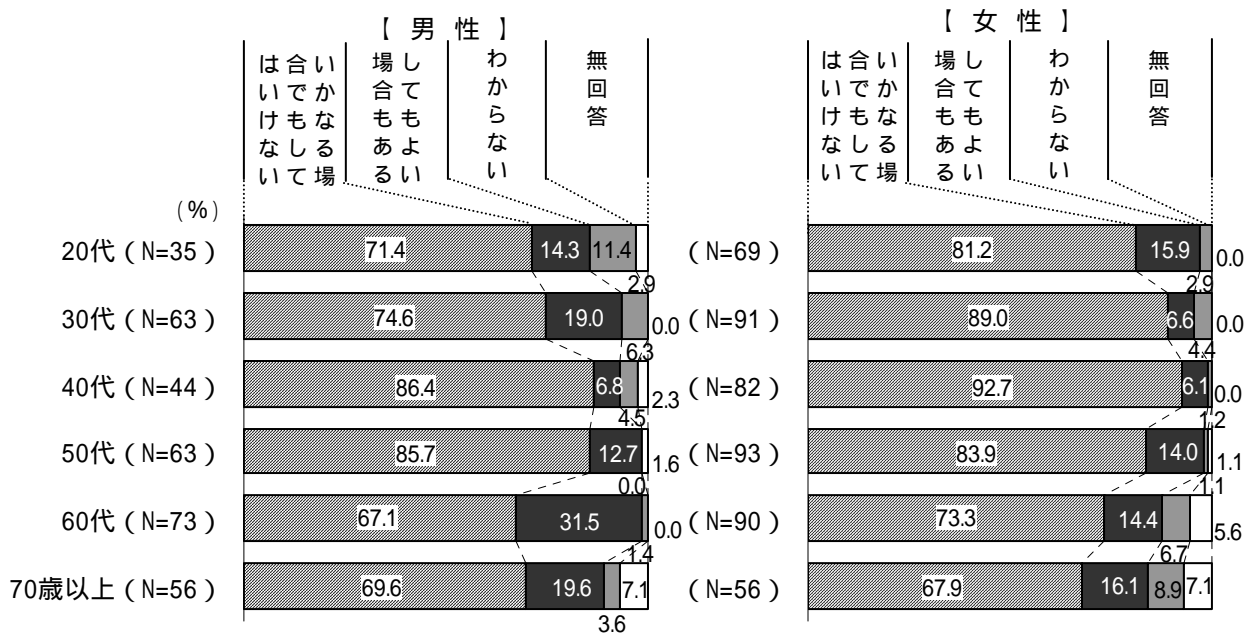
図表 2 - 8 暴力等の意識 - 6 平手で打ったり、足で蹴ったりする (性・年代別)



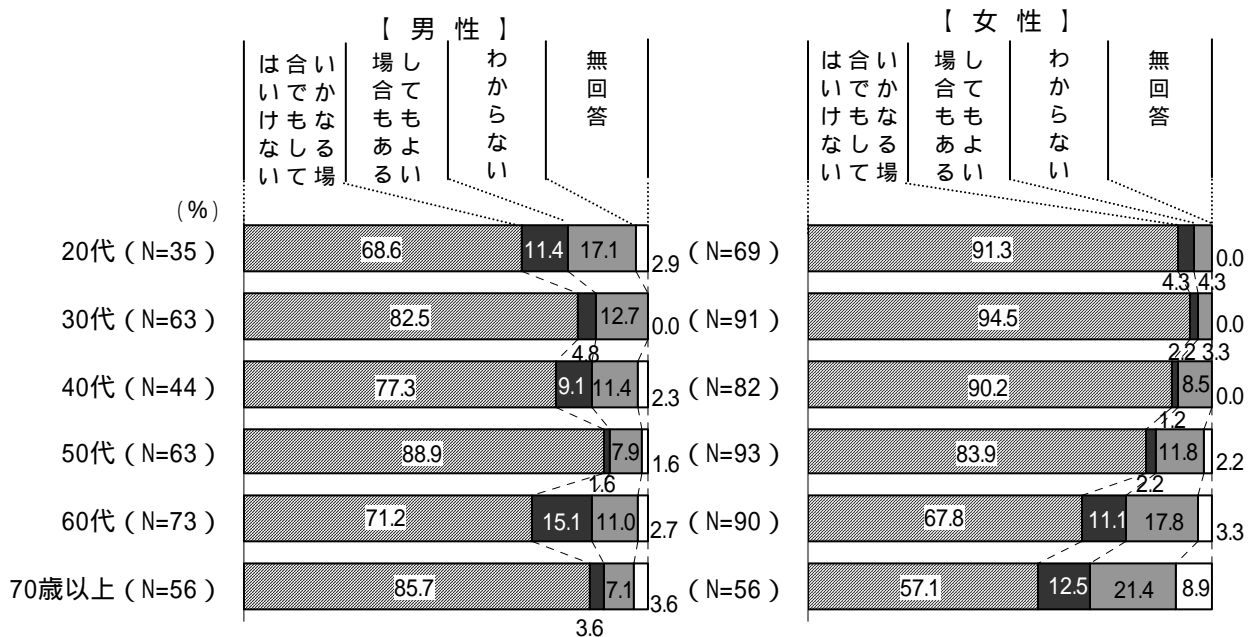
〔殴るふりをして威嚇する〕では、男性の40代を除いた全ての年代で「してもよい場合もある」との回答が1割以上となっており、特に60代では3割を超えている。女性は、30、40代以外の世代で「してもよい場合もある」が1割強となっている。

〔相手の意に反して性行為を強要する〕では、男性の20、40、60代で1割前後が「してもよい場合もある」と回答しており、女性でも60代以上で1割以上となっている。

図表 2 - 9 暴力等の意識 - 7 殴るふりをして威嚇する（性・年代別）



図表 2 - 10 暴力等の意識 - 8 相手の意に反して性行為を強要する（性・年代別）

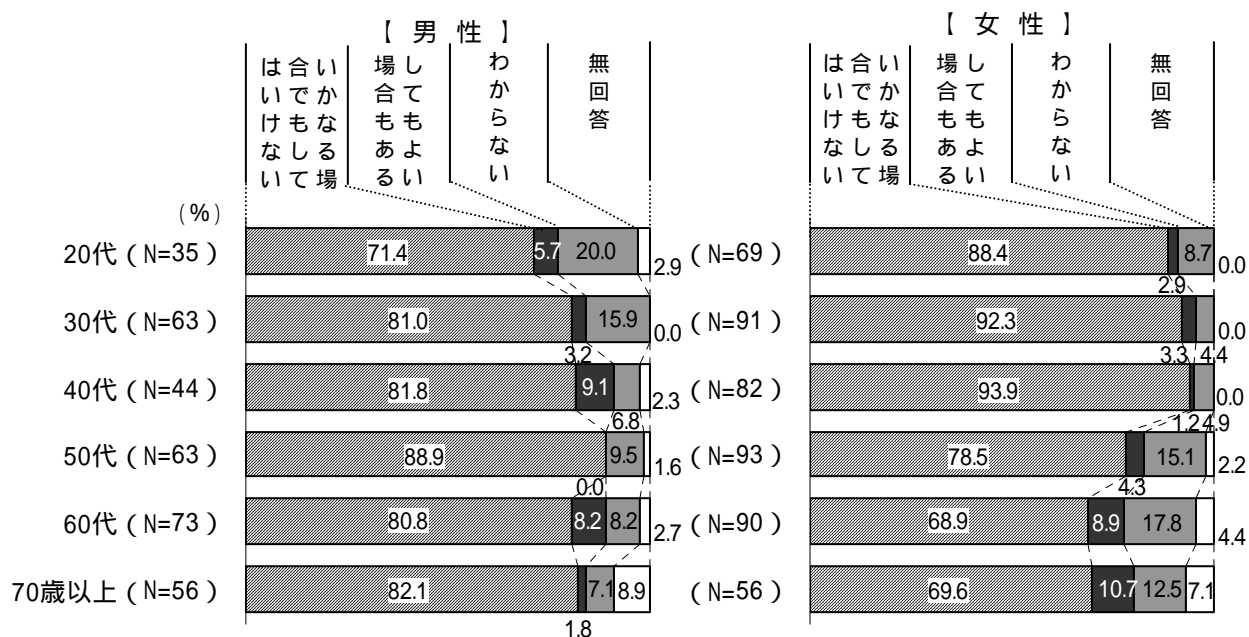


〔相手が見たくないのにポルノ雑誌・ビデオを見せる〕では、男性の各年代で7~8割、女性の30、40代で9割以上が「いかなる場合でもしてはいけない」と回答している。

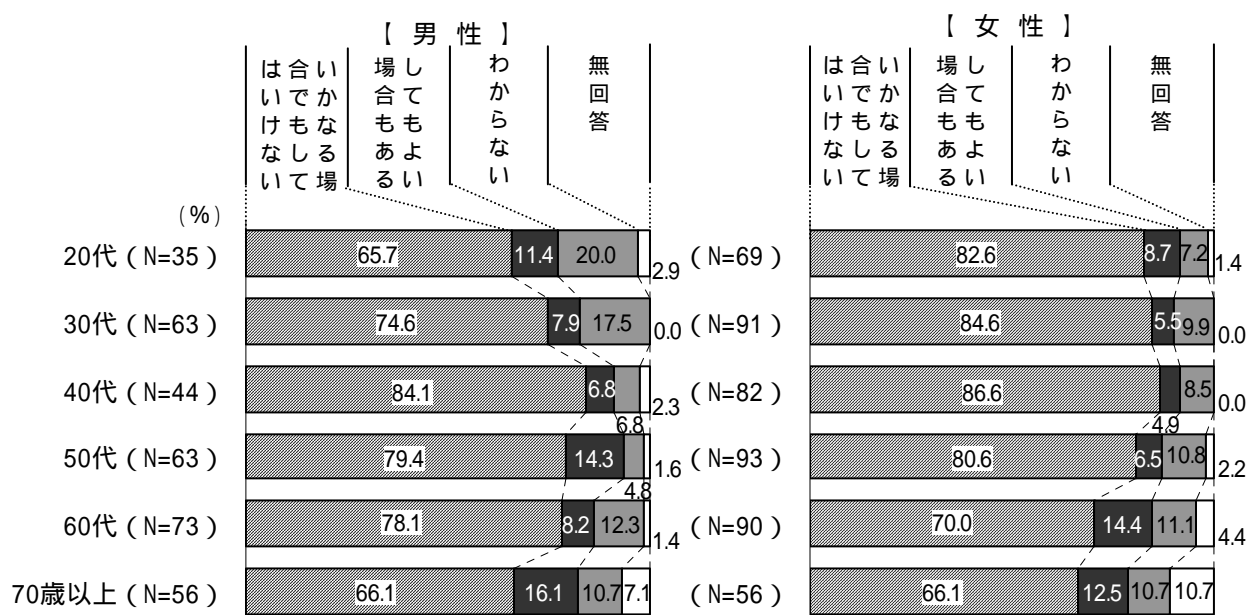
〔中絶を強要する〕では、男女ともに各年代で1割前後が「してもよい場合もある」と回答している。

図表 2 - 11 暴力等の意識 - 9 相手が見たくないのに

ポルノ雑誌・ビデオを見せる（性・年代別）



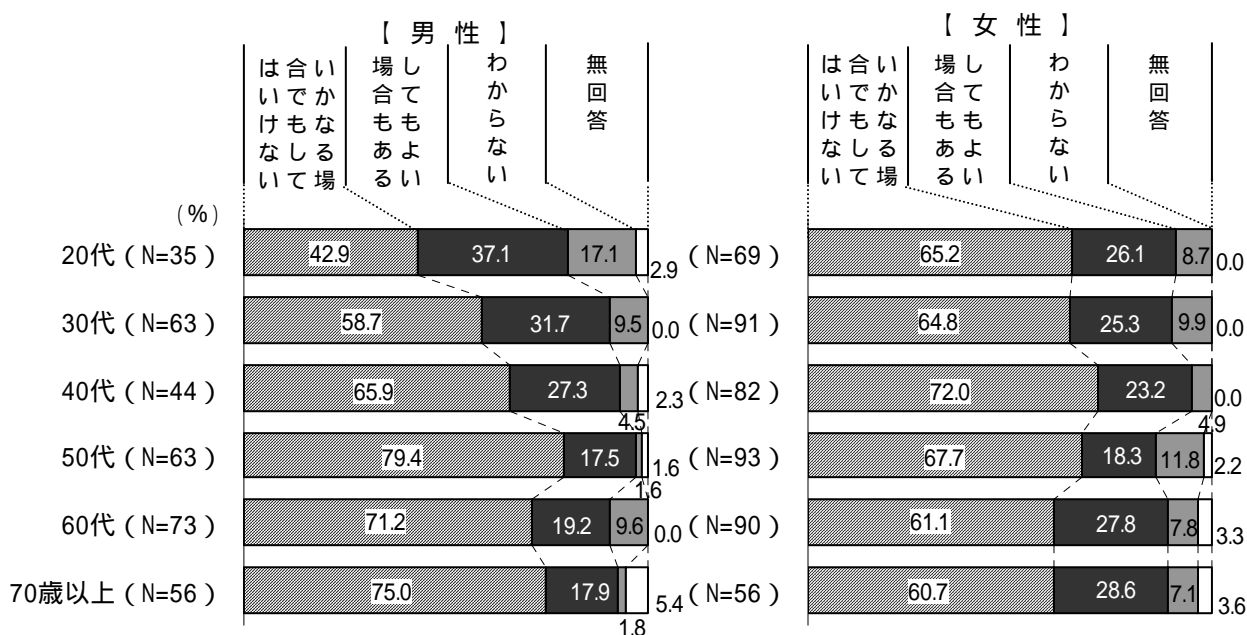
図表 2 - 12 暴力等の意識 - 10 中絶を強要する（性・年代別）



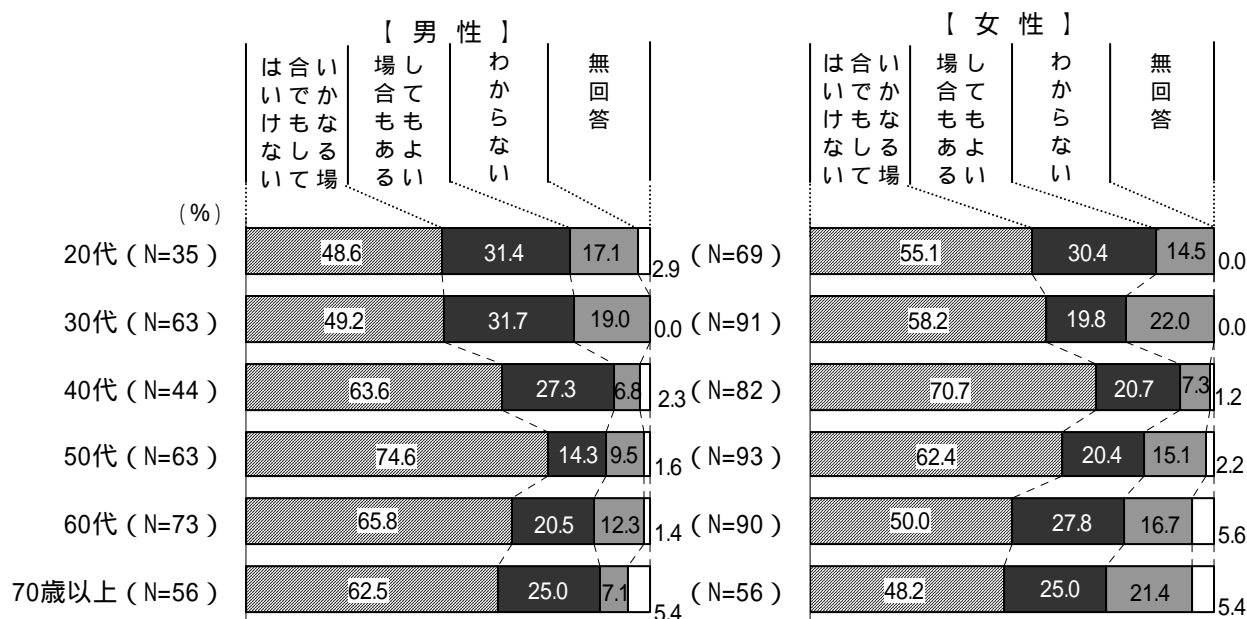
〔相手の外出や電話を細かく監視する〕では、男性の20、30代で「してもよい場合もある」が3割以上となっており、女性はどの年代でも2割～3割程度が「してもよい場合もある」と回答している。

〔相手が社会活動や仕事をすることをいやがる〕では、男性の20、30代、女性の20代で「してもよい場合もある」が3割以上となっている。

図表2-13 暴力等の意識 - 1 1 相手の外出や電話を細かく監視する（性・年代別）



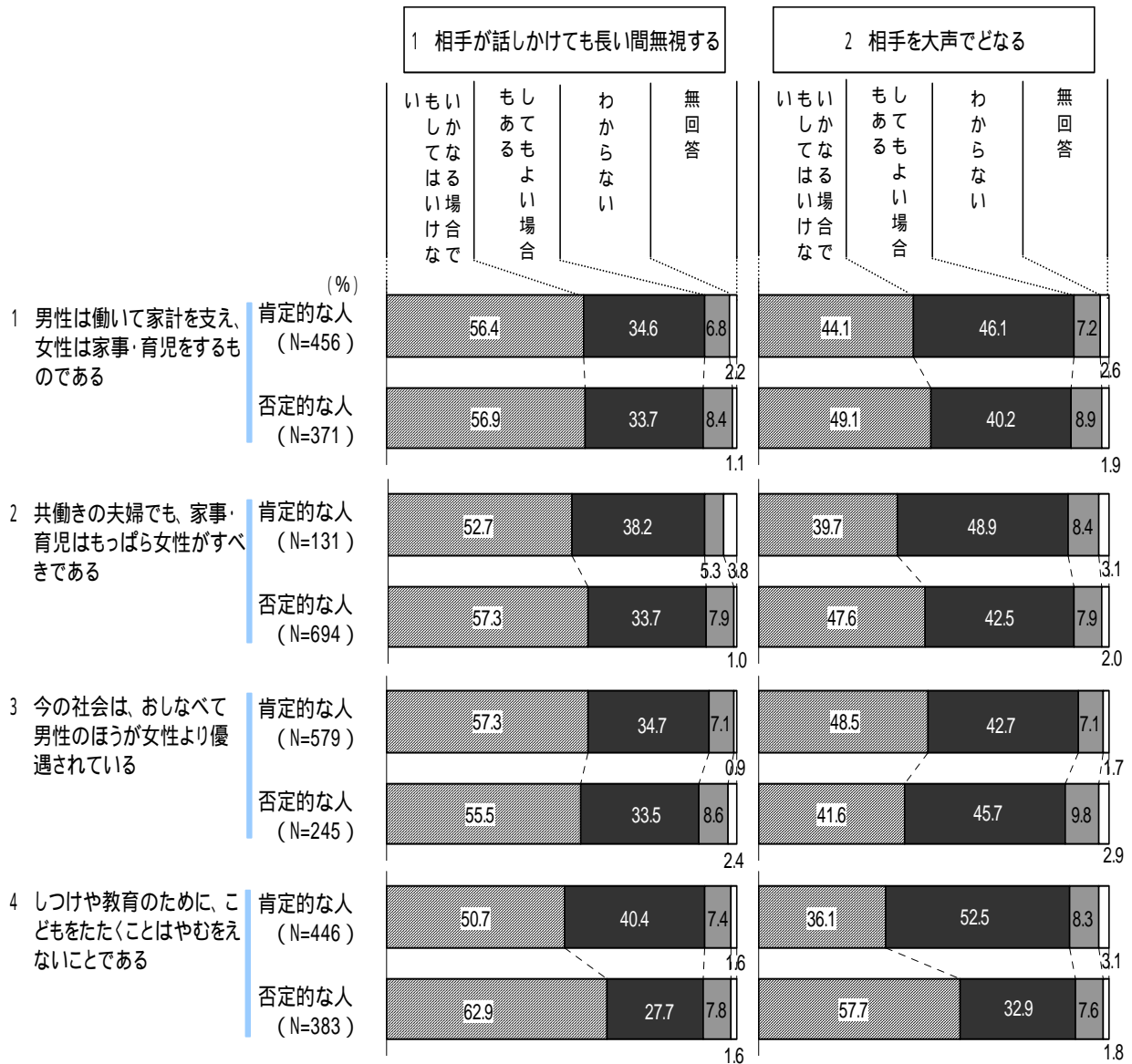
図表2-14 暴力等の意識 - 1 2 相手が社会活動や仕事をすることをいやがる（性・年代別）



暴力等に関する意識を男女の役割意識等別でみると、以下のようになった。

男性は働いて家計を支え、女性は家事・育児をするものである、共働きの夫婦でも、家事・育児はもっぱら女性がすべきである、しつけや教育のために、子どもをたたくことはやむをえないことであるという考え方に『肯定的な人』は『否定的な人』と比べて、いずれの項目についても「してもよい場合もある」と回答する人の割合がやや高くなっている。

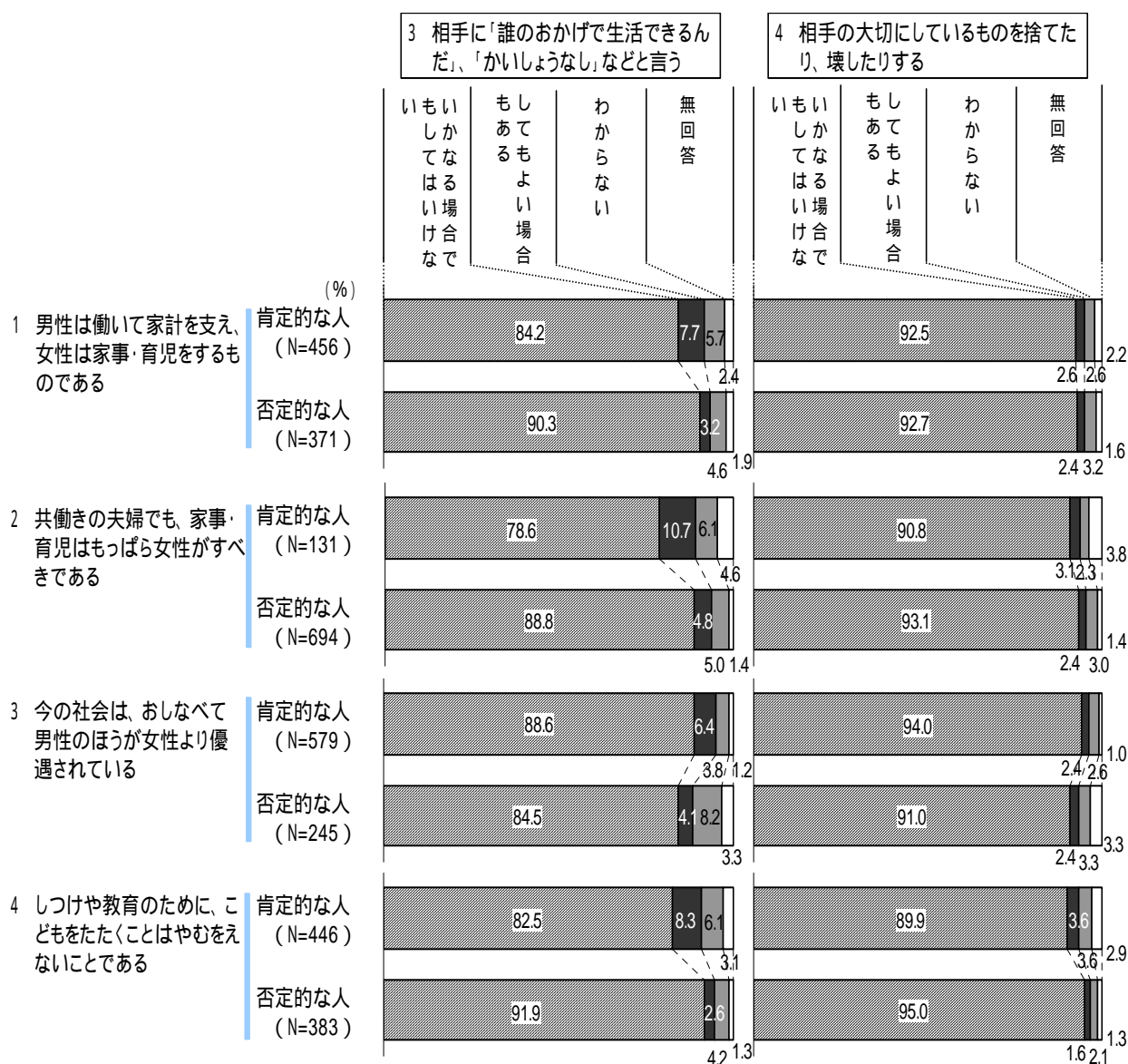
図表 2 - 15 暴力等の意識（男女の役割意識等別）



今の社会は、おしなべて男性のほうが女性より優遇されている という考え方に『否定的な人』は、『肯定的な人』と比べて〔相手の外出や電話を細かく監視する〕〔相手が社会活動や仕事をするのをいやがる〕において、「してもよい場合もある」と回答する人の割合が高くなっている。

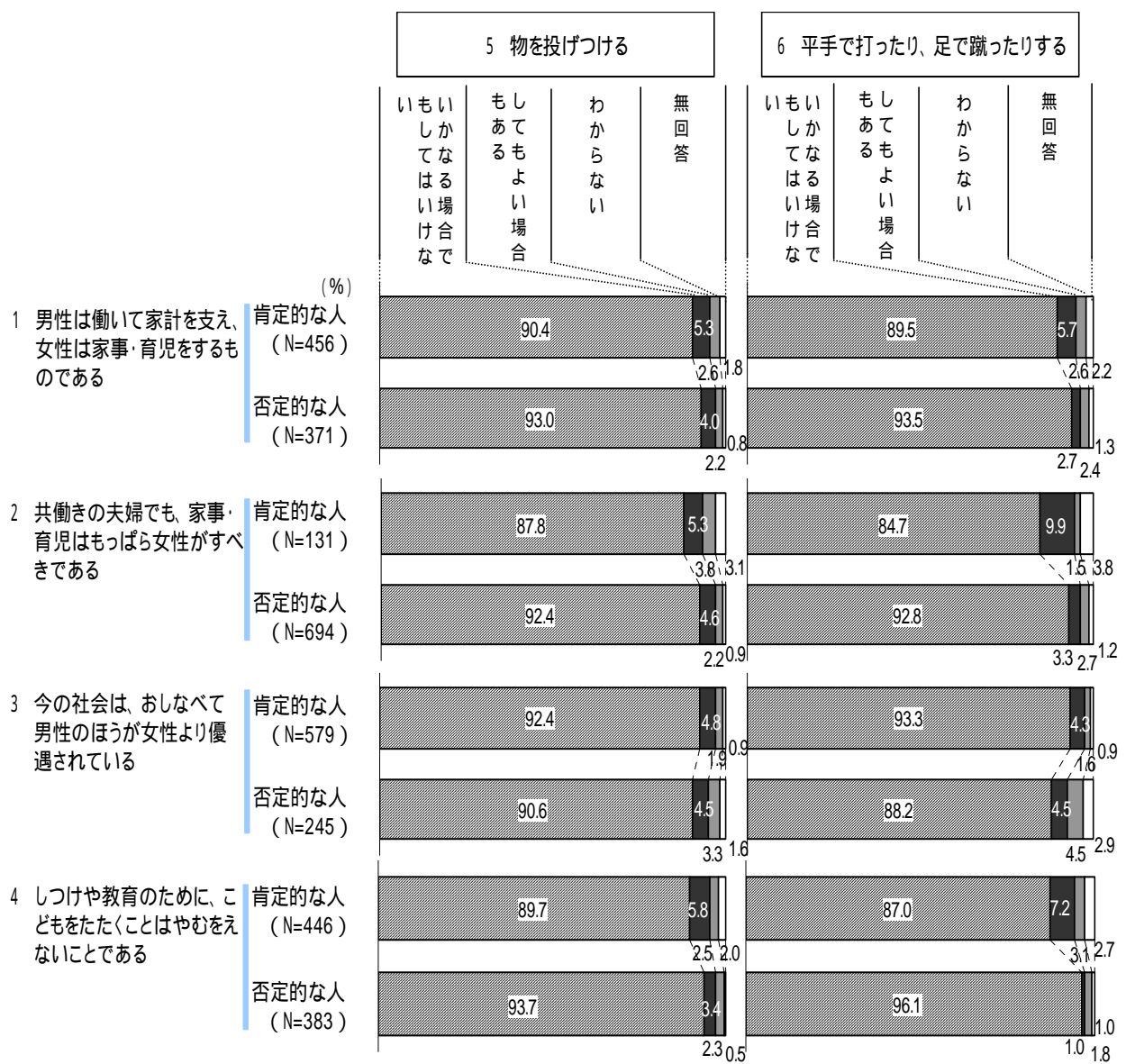
しつけや教育のために、子どもをたたくことはやむをえないことである という考え方に『肯定的な人』は、『否定的な人』と比べて全ての項目において、「してもよい場合もある」が多くなっている。特に、〔相手を大声でどなる〕〔相手が話しかけても長い間無視する〕〔殴るふりをして威嚇する〕では、『肯定的な人』と『否定的な人』で「してもよい場合もある」とする回答に 10 ポイント以上の開きがみられた。

図表 2 - 16 暴力等の意識 (男女の役割意識等別)

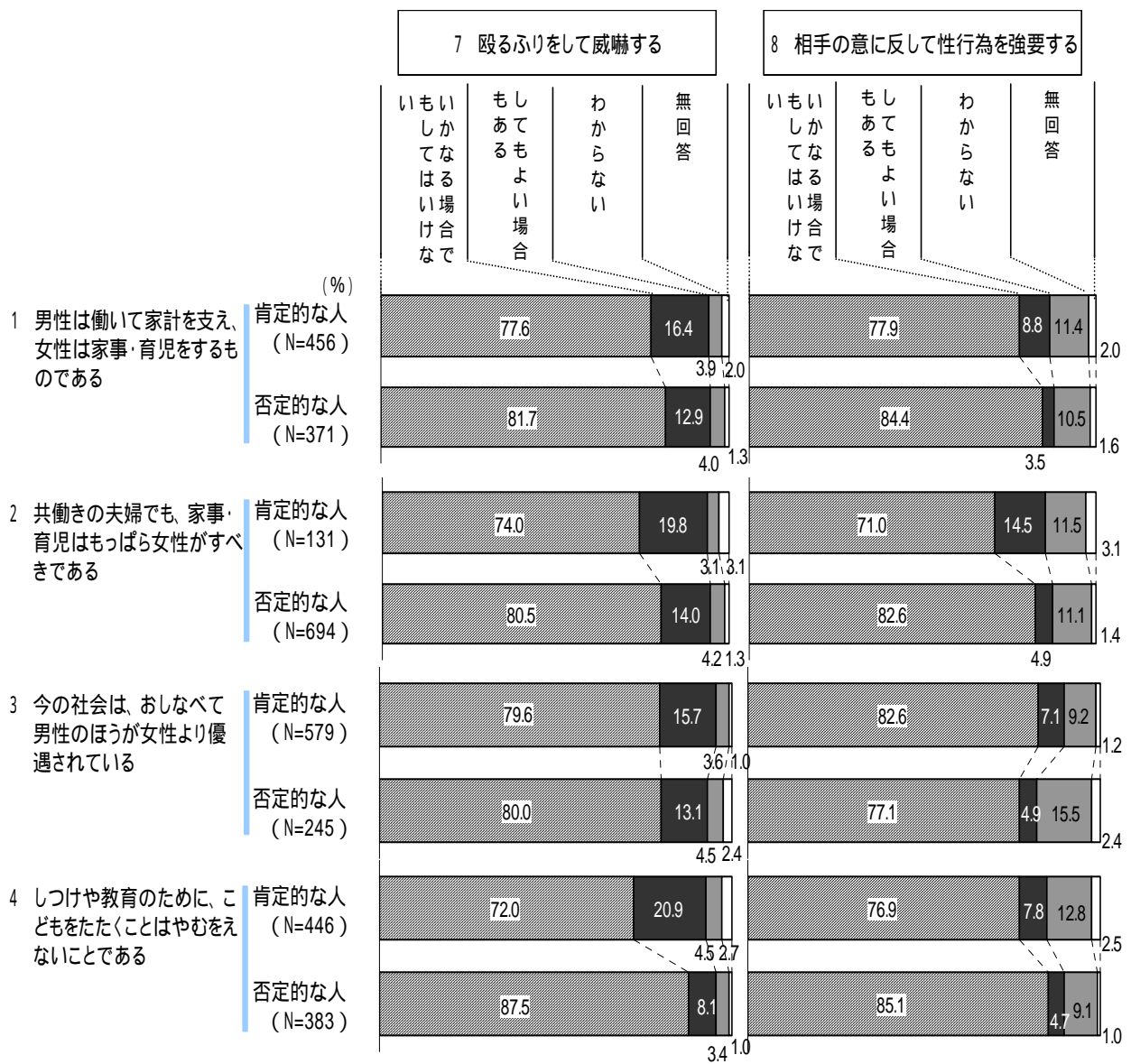




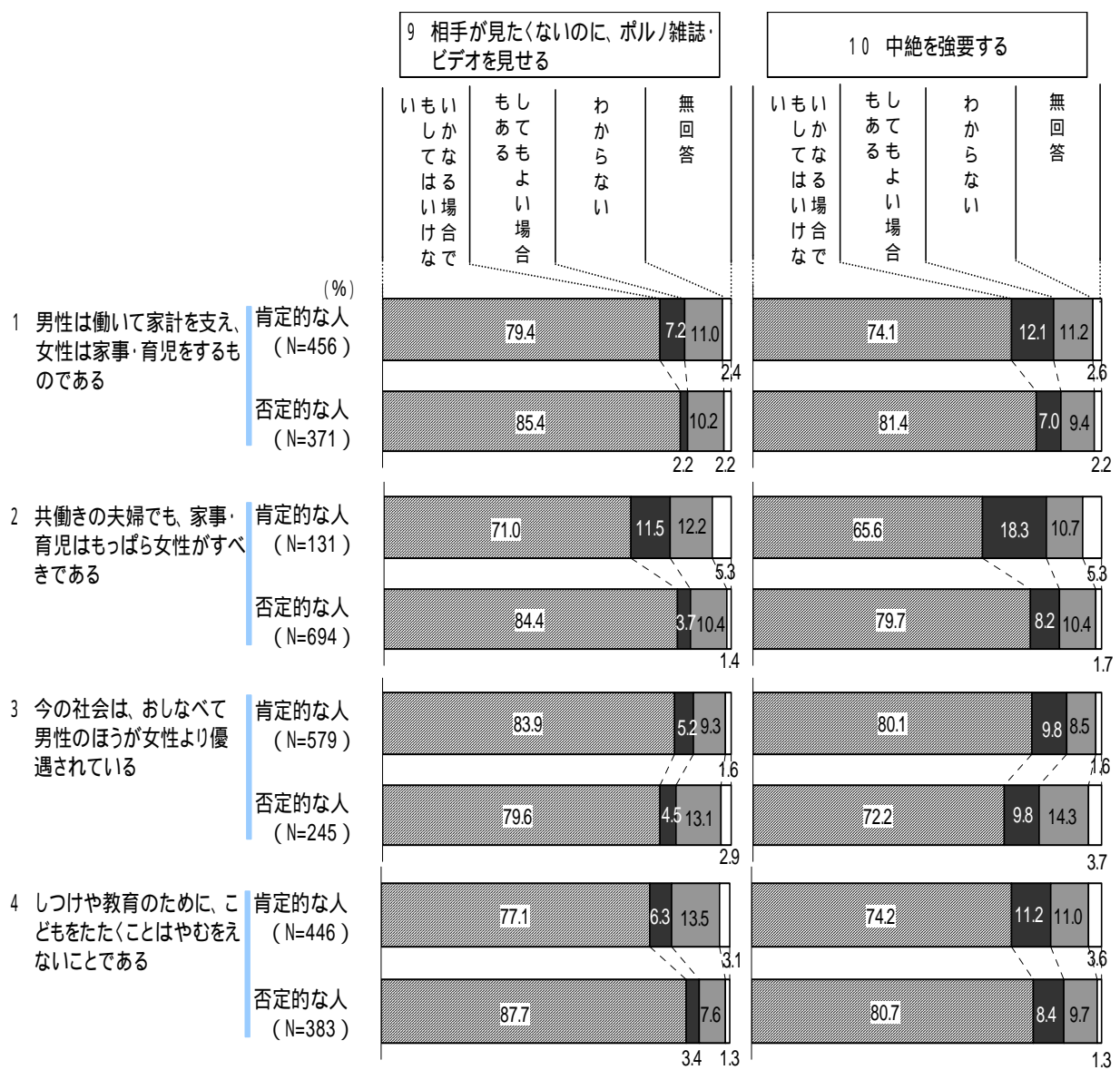
図表 2 - 17 暴力等の意識（男女の役割意識等別）



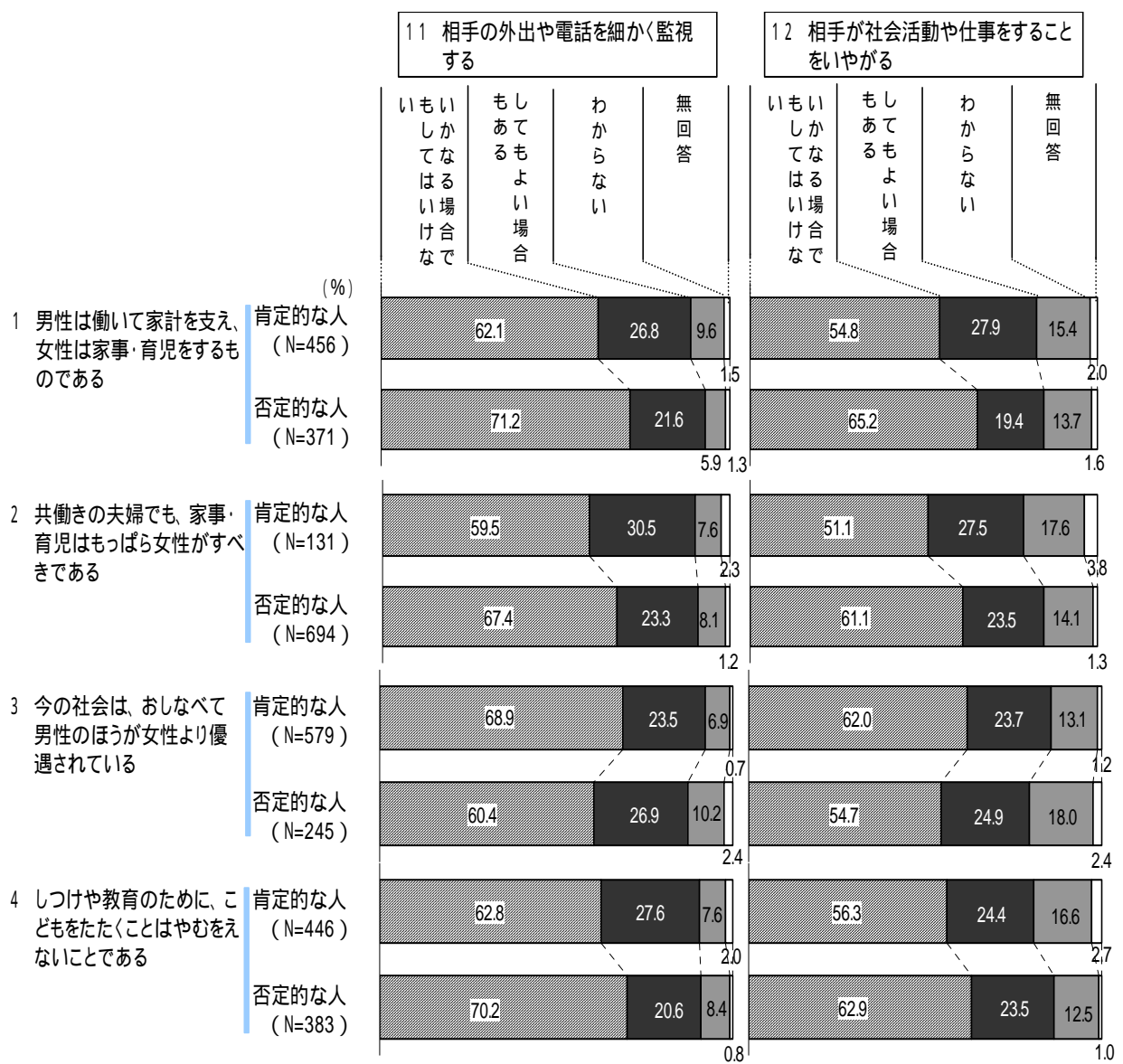
図表 2 - 18 暴力等の意識（男女の役割意識等別）



図表 2 - 19 暴力等の意識（男女の役割意識等別）



図表 2 - 20 暴力等の意識（男女の役割意識等別）

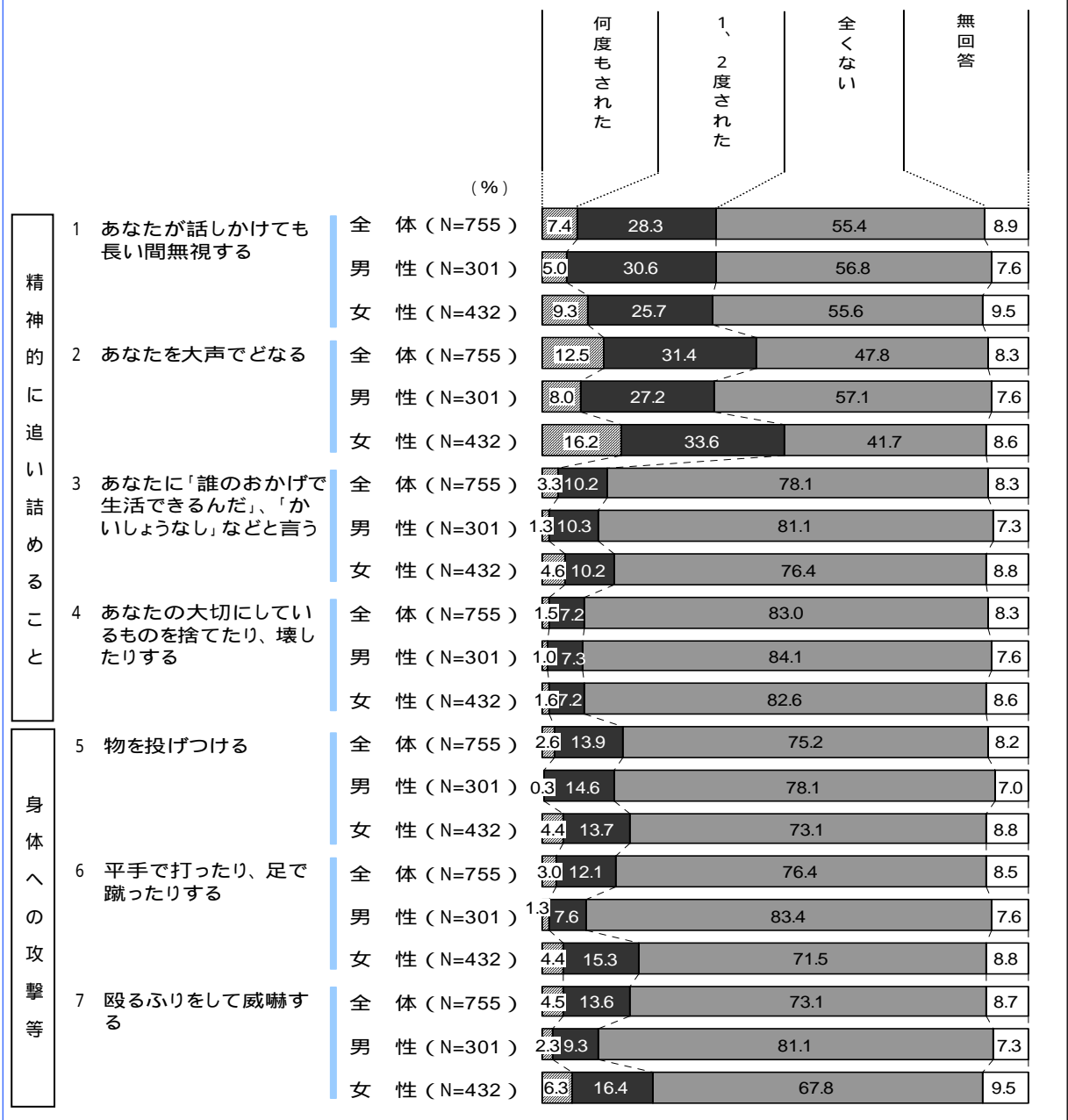


(2) 配偶者やパートナー間での暴力等を受けた経験

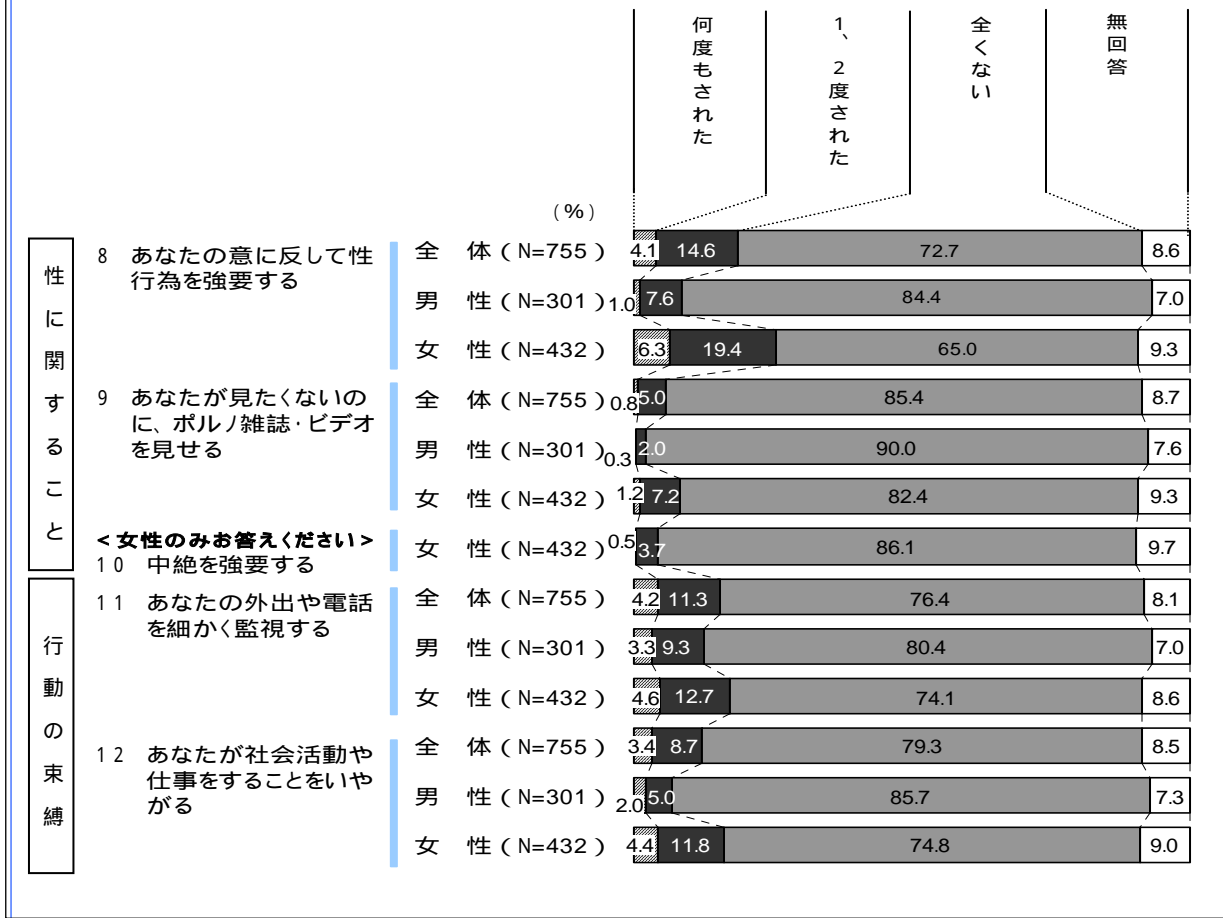
問5 あなたは「配偶者やパートナー」から次のような行為をされたことがありますか。  
(それぞれは1つ)

配偶者やパートナーとは「夫、妻、前夫、前妻、同棲相手、恋人、元恋人」など、  
一定期間親密な関係のある(あった)相手をさします。

図表2-21 配偶者やパートナー間での暴力等の被害経験(男女別)



図表 2 - 22 配偶者やパートナー間での暴力等の被害経験（男女別）



配偶者やパートナー間における暴力等の被害経験についてたずねたところ、以下のようになった。

精神的に追い詰めること については、〔あなたが話しかけても長い間無視する〕と〔あなたを大声でどなる〕で、「何度もされた」と「1、2度された」をあわせた『された』（以下同じ）が3割以上となっており、他の項目と比較して際立って多い。特に、〔あなたを大声でどなる〕では、『された』という女性が5割近くいる。

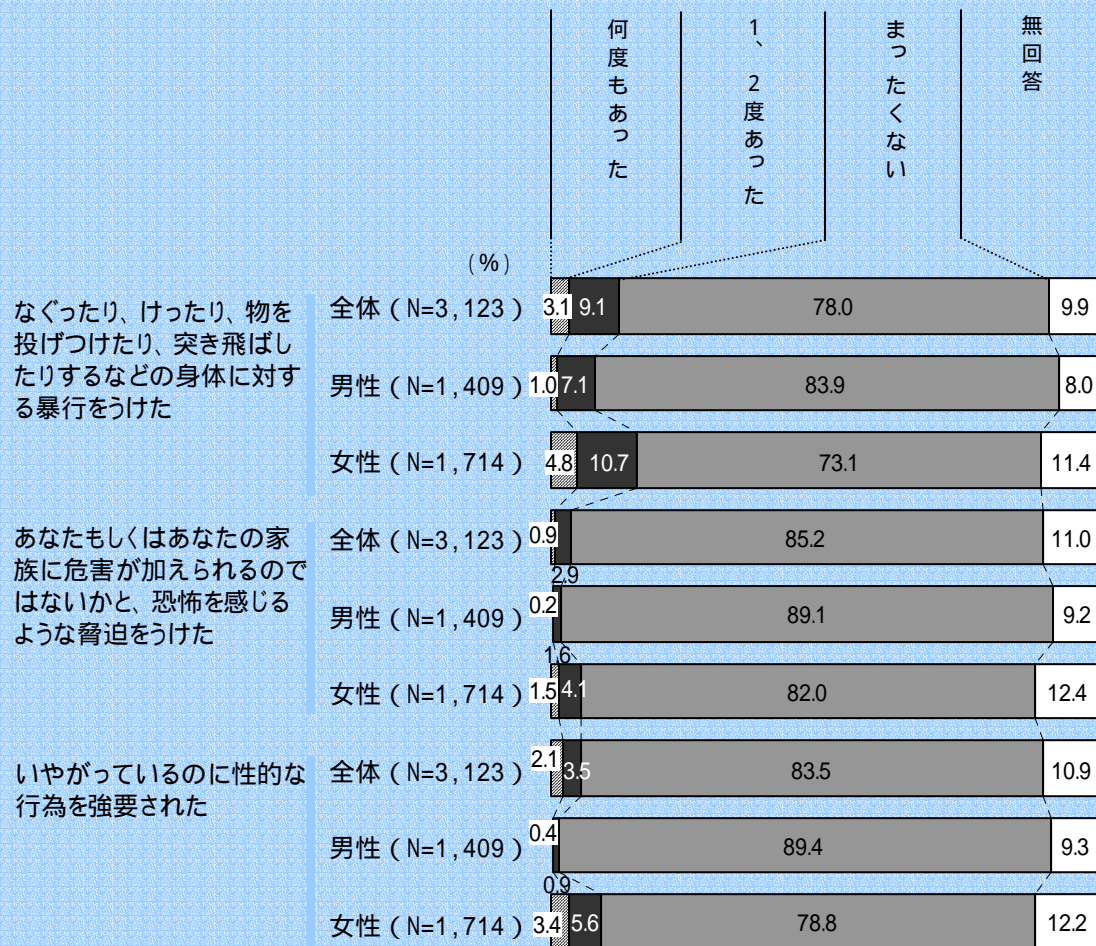
身体への攻撃等 については、各項目で女性の2割前後が『された』と回答しており、〔平手で打ったり、足で蹴ったりする〕、〔殴るふりをして威嚇する〕では男性の2倍以上の被害経験となっている。

性に関すること については、〔あなたの意に反して性行為を強要する〕で女性の2割強が『された』と回答している。また〔中絶を強要する〕でも女性の4.2%が『された』と回答している。

行動の束縛 についても、各項目で女性の被害経験が男性を上回っている。

〔参 考〕 平成 15 年 4 月 内閣府調査より

あなたはこれまでに、あなたの配偶者や恋人関係にあった者から次のようなことをされたことがありますか。

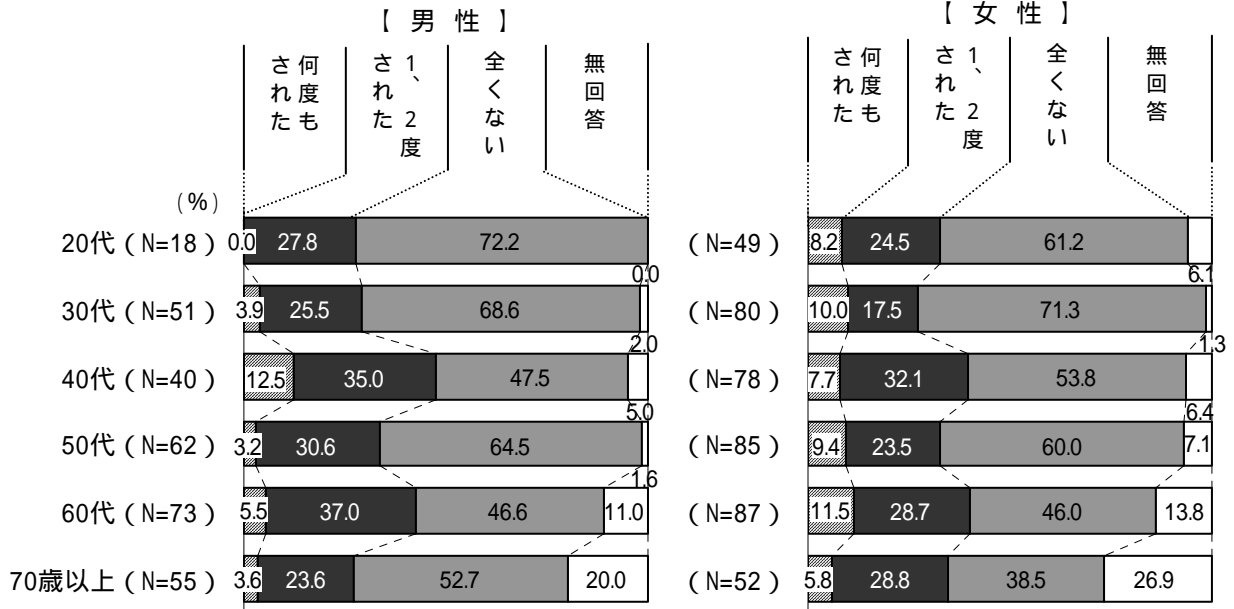


一部抜粋

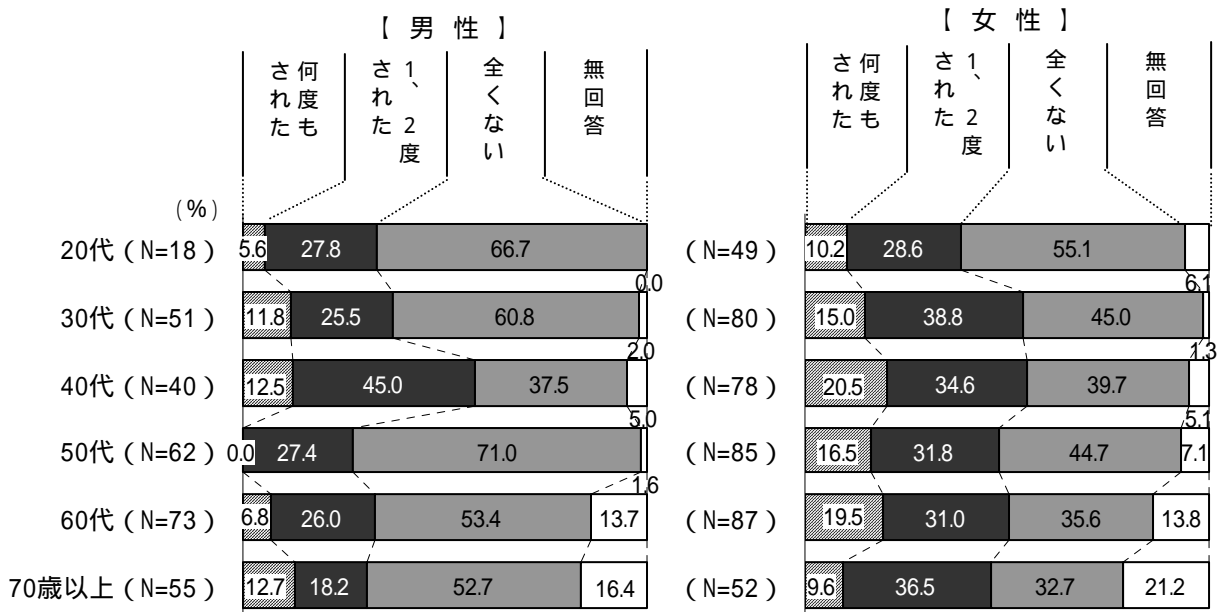
性・年代別にみると、以下のようになった。

〔あなたを大声でどなる〕では、男女とも40代での被害経験が最も多く、5割以上が『された』と回答している。

図表2-23 暴力等の被害経験 - 1 あなたが話しかけても長い間無視する（性・年代別）



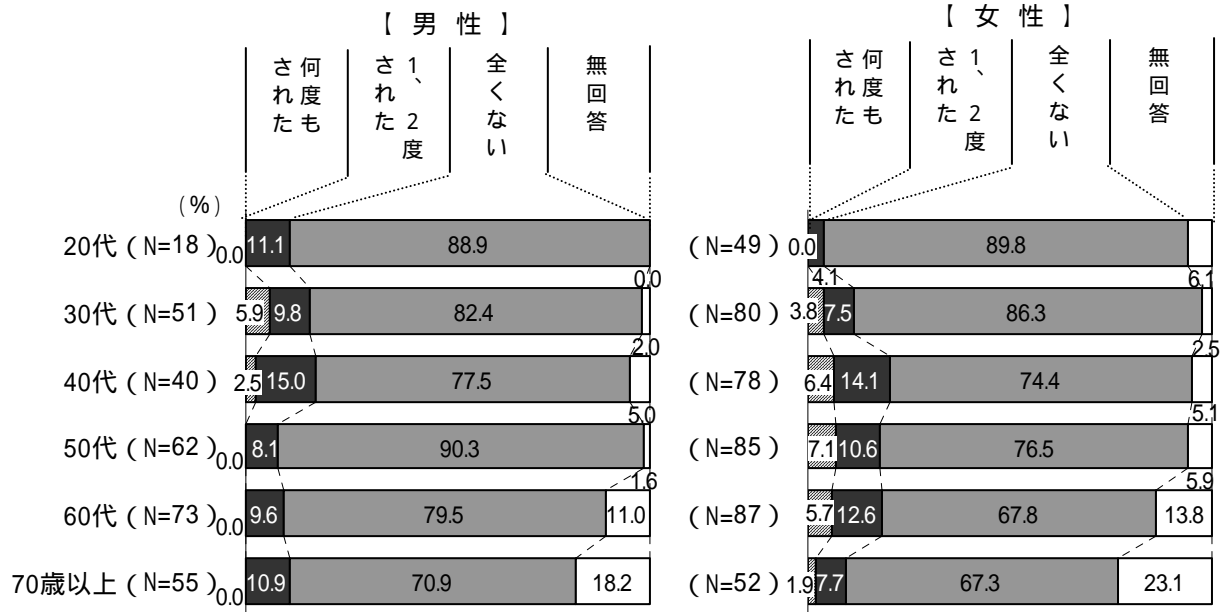
図表2-24 暴力等の被害経験 - 2 あなたを大声でどなる（性・年代別）



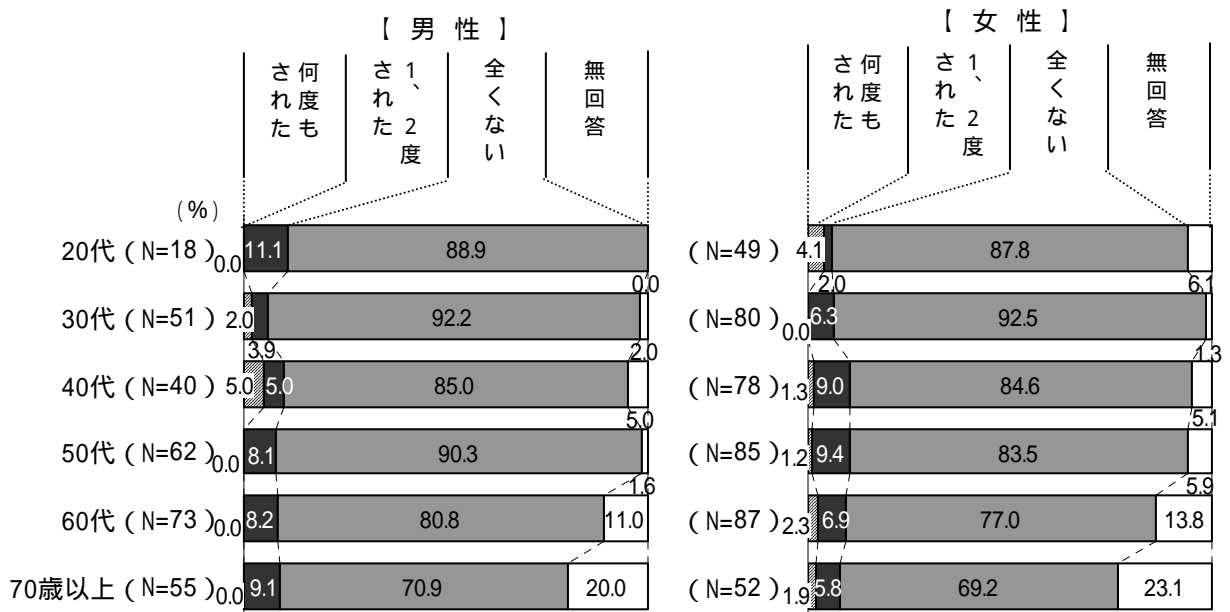


〔あなたに「誰のおかげで生活できるんだ」、「かいしょうなし」などと言う〕では、女性の40～60代で『された』との回答が2割前後となっている。

図表 2 - 25 暴力等の被害経験 - 3 あなたに「誰のおかげで生活できるんだ」、「かいしょうなし」などと言う (性・年代別)

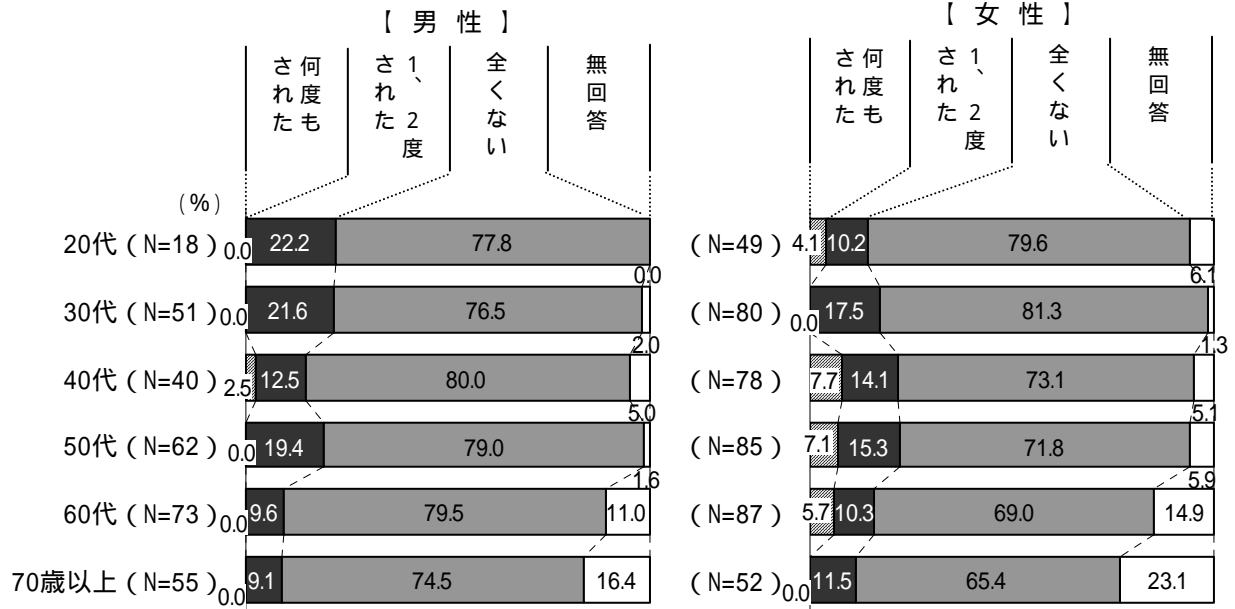


図表 2 - 26 暴力等の被害経験 - 4 あなたの大切にしているものを捨てたり、壊したりする (性・年代別)

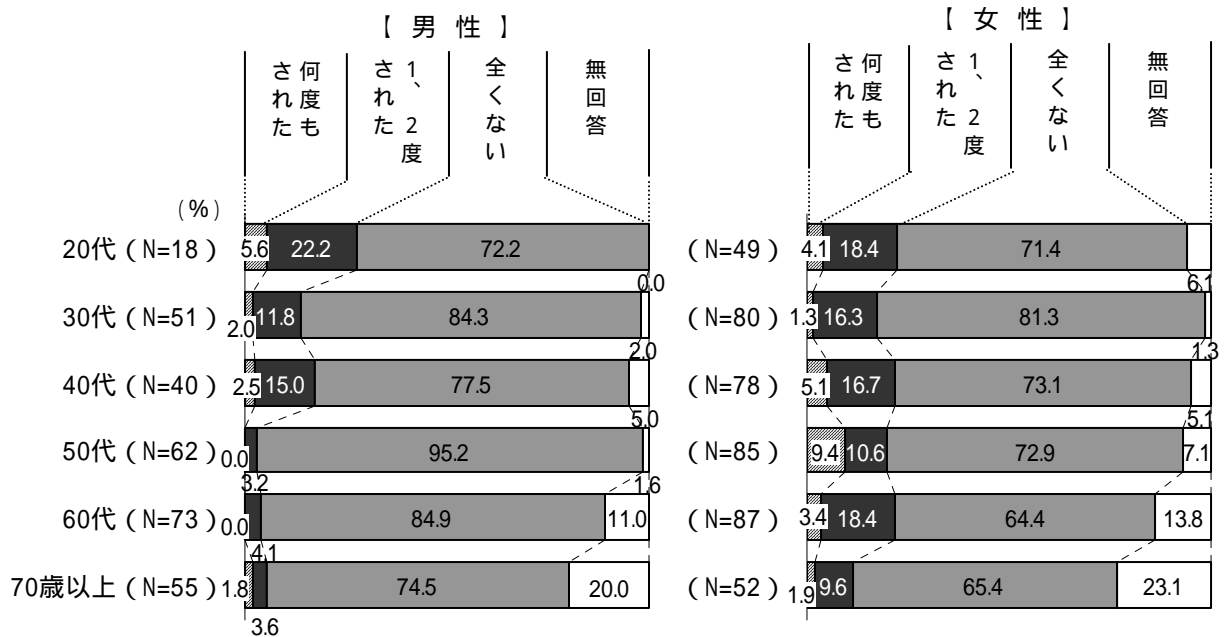


〔物を投げつける〕〔平手で打ったり、足で蹴ったりする〕では、男性の20～40代で被害経験が2割前後となっている。一方、女性では〔物を投げつける〕で40、50代が、〔平手で打ったり、足で蹴ったりする〕では20～60代で2割前後が『された』と回答している。

図表 2 - 27 暴力等の被害経験 - 5 物を投げつける（性・年代別）

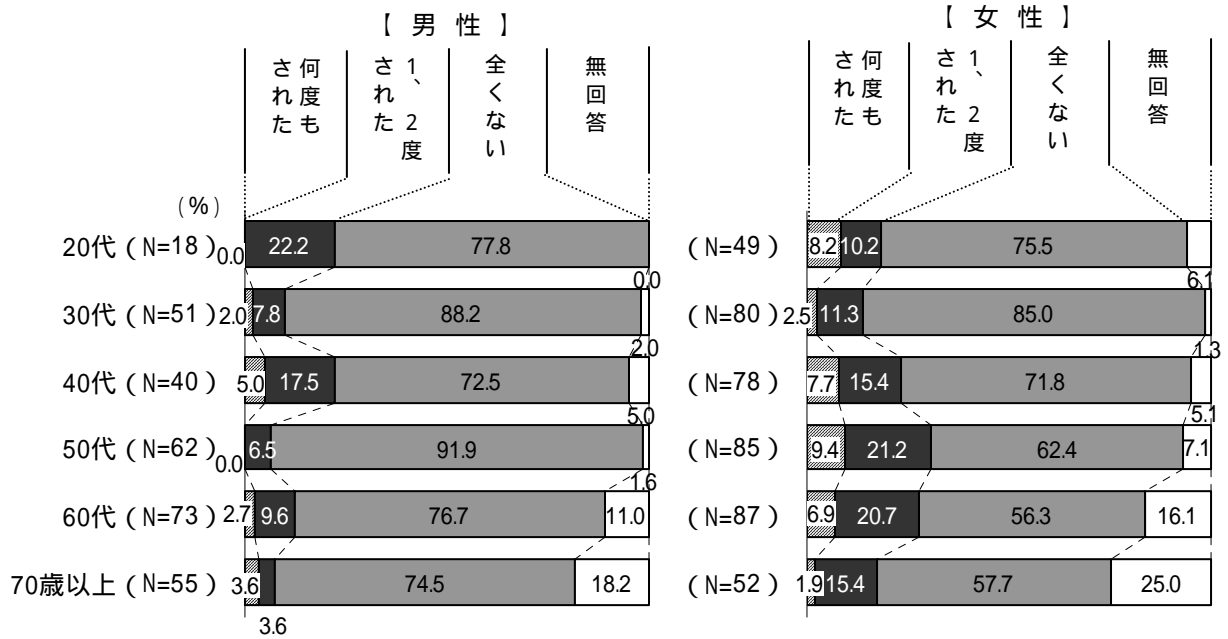


図表 2 - 28 暴力等の被害経験 - 6 平手で打ったり、足で蹴ったりする（性・年代別）

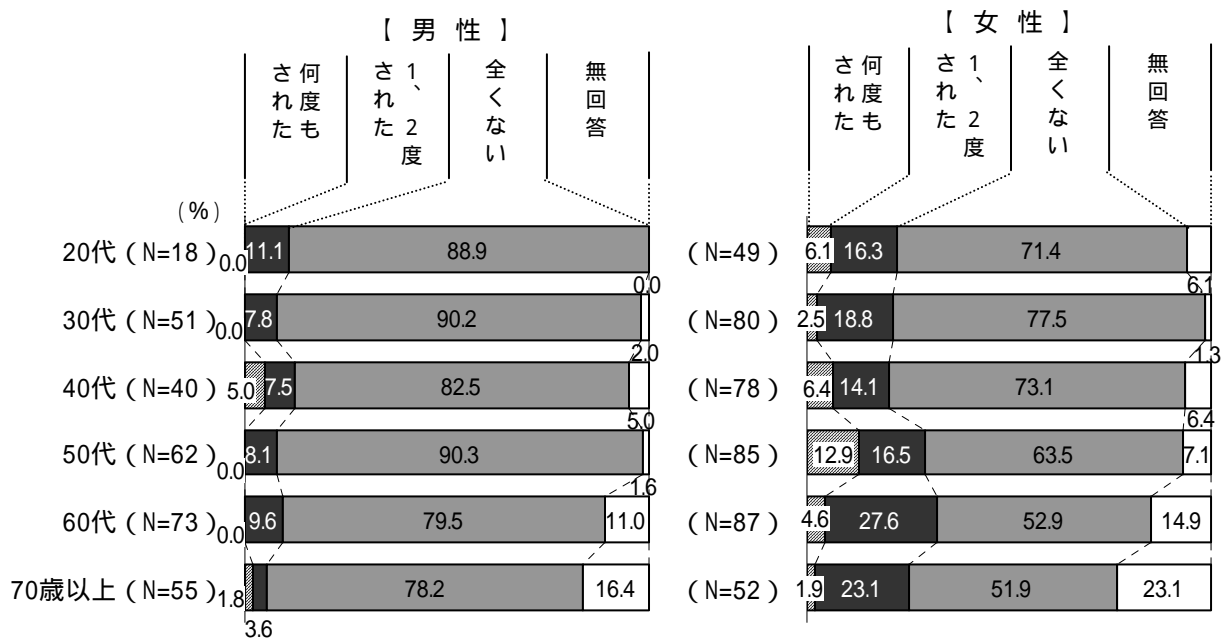


〔殴るふりをして威嚇する〕では、女性の被害経験が40～60代で2割以上となっている。  
 〔あなたの意に反して性行為を強要する〕では、女性に2割以上の被害経験が出ている。  
 特に50、60代は3割前後と高くなっている。

図表2-29 暴力等の被害経験 - 7 殴るふりをして威嚇する（性・年代別）

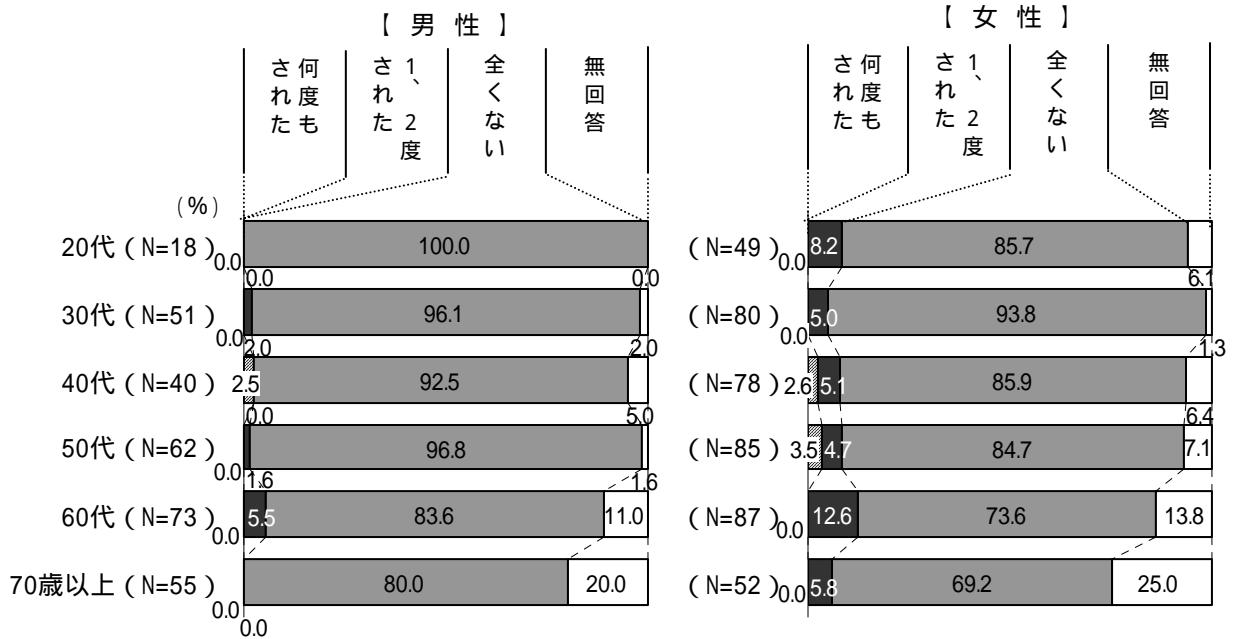


図表2-30 暴力等の被害経験 - 8 あなたの意に反して性行為を強要する（性・年代別）

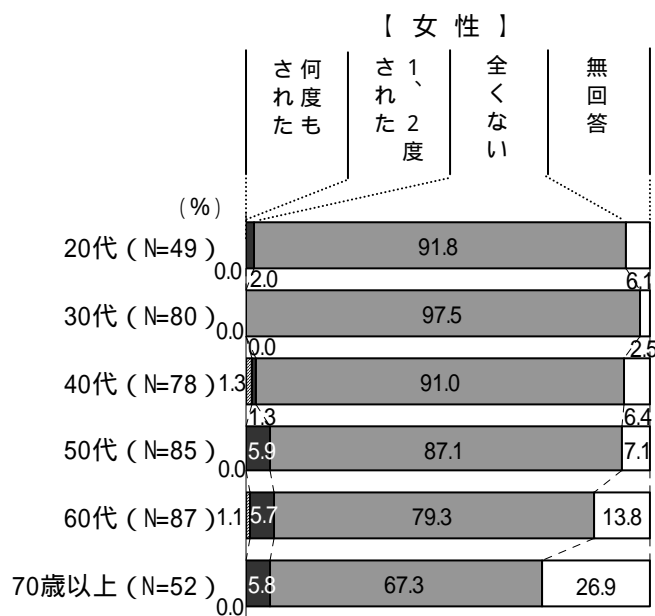


〔中絶を強要する〕では、50代以上の世代で『された』との回答が5~6%台となっている。

図表 2 - 31 暴力等の被害経験 - 9 あなたが見たくないのに  
ポルノ雑誌・ビデオを見せる（性・年代別）



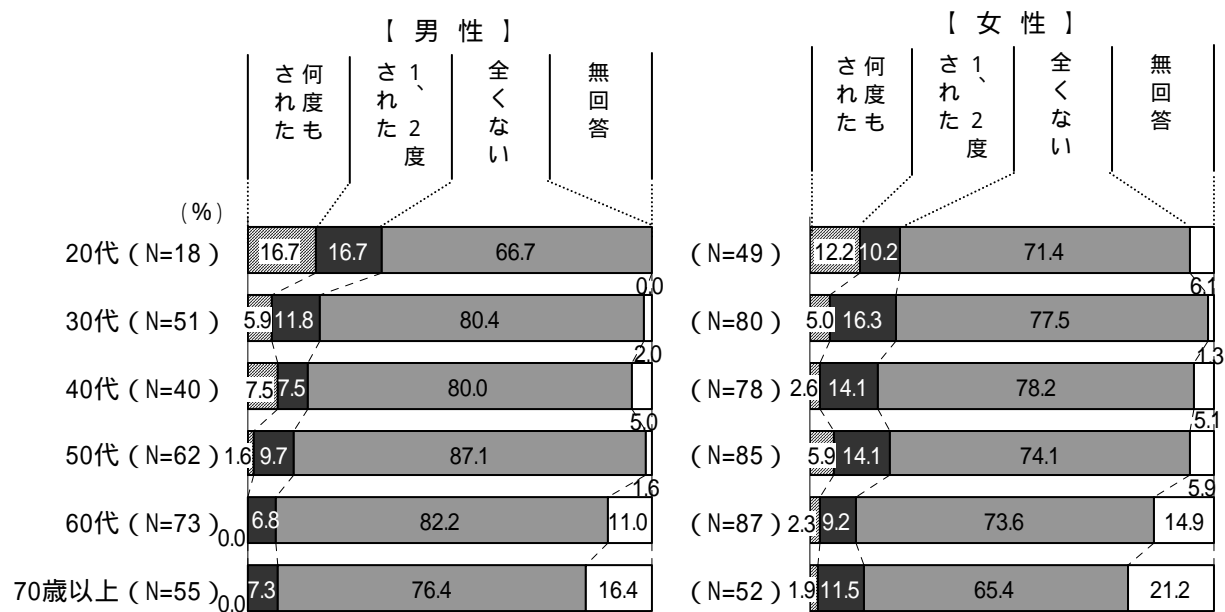
図表 2 - 32 暴力等の被害経験 - 10 中絶を強要する 女性のみ（性・年代別）



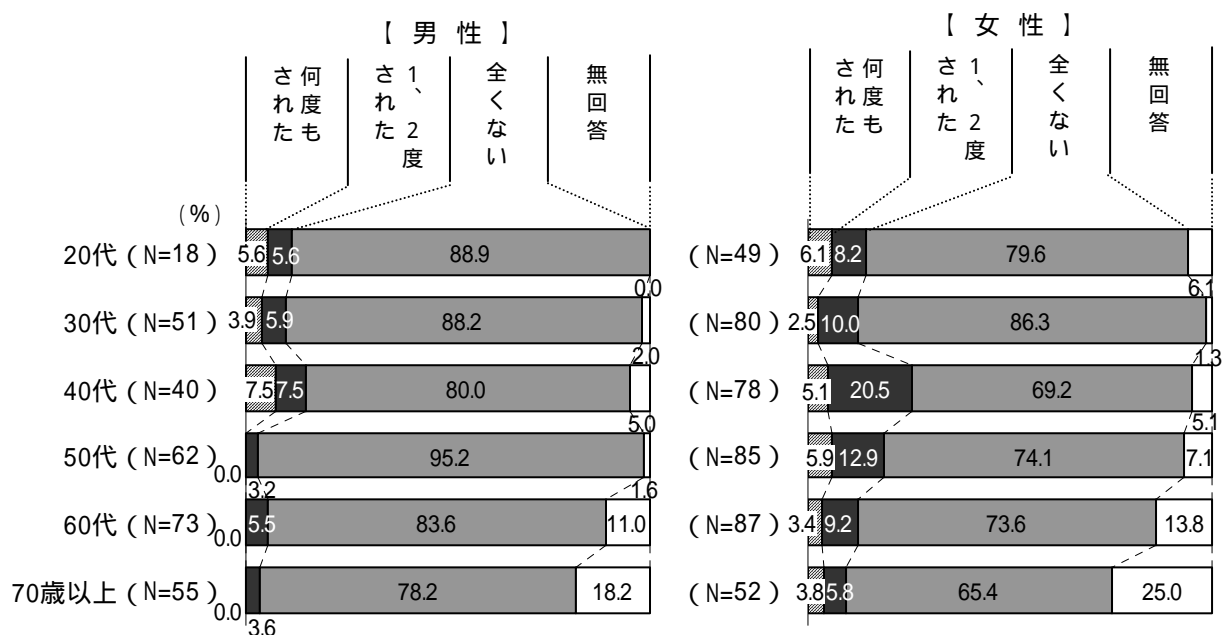
〔あなたの外出や電話を細かく監視する〕では、男性の20代で被害経験が3割以上となっており、女性の被害経験は20～50代で2割前後となっている。

〔あなたが社会活動や仕事をすることをいやがる〕では、女性の40代（25.6%）の被害経験が最も多くなっている。

図表 2 - 33 暴力等の被害経験 - 1 1 あなたの外出や電話を細かく監視する（性・年代別）



図表 2 - 34 暴力等の被害経験 - 1 2 あなたが社会活動や仕事をすることをいやがる（性・年代別）



暴力等の被害の重複をみると、「精神的に追い詰めることの被害のみ」(20.3%)が最も多いが、「精神的に追い詰めることと身体への攻撃等の被害」(9.3%)、「精神的に追い詰めることと性に関することの被害」(4.0%)、「精神的に追い詰めることと行動の束縛の被害」(4.0%)が続き、精神的に追い詰めることを中心に被害が複合的になっている。

また、「全ての被害の重複」(7.7%)もみられる。

男女別にみると、「精神的に追い詰められることの被害のみ」で男性が女性よりも多く、「全ての暴力の重複」では女性が男性よりも多く、差がみられる。

図表 2 - 35 暴力等の被害の重複 (男女別)

上段：件数 下段：%	調査数	精神的に追い詰めることの被害のみ	身体への攻撃等の被害のみ	性に関することの被害のみ	行動の束縛の被害のみ	精神的に追い詰めることと身体への攻撃等の被害	精神的に追い詰めることと性に関することの被害	精神的に追い詰めることと行動の束縛の被害	精神的に追い詰めることと身体への攻撃等の被害と性に関することの被害	身体への攻撃等と行動の束縛の被害	性に関することと行動の束縛の被害
全 体	755	153	7	12	11	70	30	30	0	3	2
	100.0	20.3	0.9	1.6	1.5	9.3	4.0	4.0	0.0	0.4	0.3
男 性	301	76	1	3	6	27	5	12	0	3	1
	100.0	25.2	0.3	1.0	2.0	9.0	1.7	4.0	0.0	1.0	0.3
女 性	432	71	6	9	5	41	24	18	0	0	1
	100.0	16.4	1.4	2.1	1.2	9.5	5.6	4.2	0.0	0.0	0.2

の等こ精 被・と神 害性・的 に身に 関て追 すへい るの詰 こ攻め と撃る	害とこ精 ・と神 行・的 動・性 にに の追 束関 縛す の詰 め被 こる	害等こ精 ・と神 行・的 動・身 にに の追 束へ い詰 め被 撃る	のに身 束関 縛す るの 被こ 害撃 ・行 ・動 性	全 ての 被 害 の 重 複	全 く な い	無 回 答
37	15	38	0	58	231	58
4.9	2.0	5.0	0.0	7.7	30.6	7.7
7	2	15	0	10	114	19
2.3	0.7	5.0	0.0	3.3	37.9	6.3
30	12	22	0	46	111	36
6.9	2.8	5.1	0.0	10.6	25.7	8.3

### (3) 暴力等を受けた原因

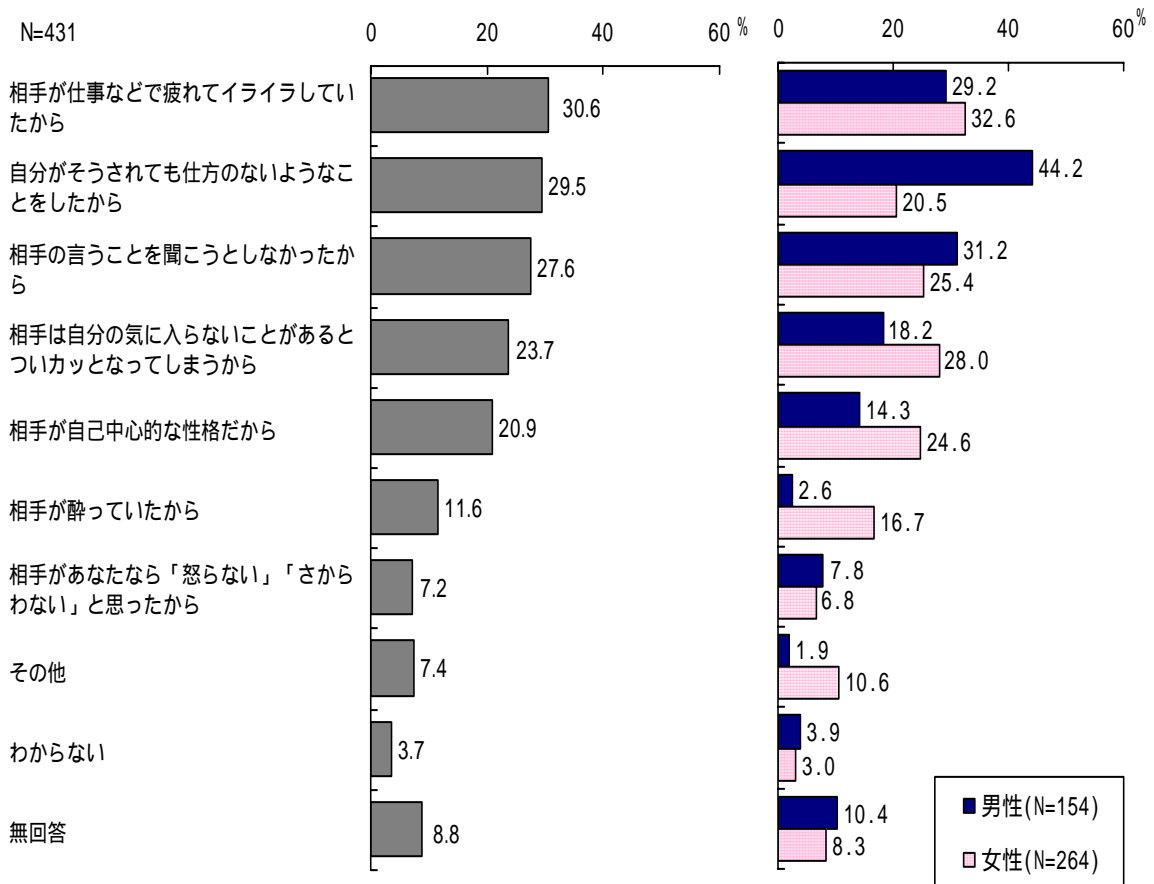
#### 「精神的に追い詰めること」を受けた原因

問6 問5における行為をされた原因は何だと思えますか。

それぞれ、問6-1~3にお答えください。

問6-1 問5で『精神的に追い詰めること』の項目で「何度もされた」、「1、2度された」のいずれかに1つでもつけた方は、その原因を何だと思えますか。  
(はいくつでも)

図表2-36 「精神的に追い詰めること」を受けた原因(男女別)



精神的に追い詰めることを受けた原因をたずねたところ、「相手が仕事などで疲れてイライラしていたから」(30.6%)が最も多く、次いで「自分がそうされても仕方がないようなことをしたから」(29.5%)となっている。

男女別にみると、男性は「自分がそうされても仕方がないようなことをしたから」(44.2%)が最も多く、次に「相手の言うことを聞こうとしなかったから」(31.2%)となっている。女性は、「相手が仕事などで疲れてイライラしていたから」(32.6%)が最も多く、「相手は自分の気に入らないことがあるとついカッとなってしまふから」(28.0%)が続いている。

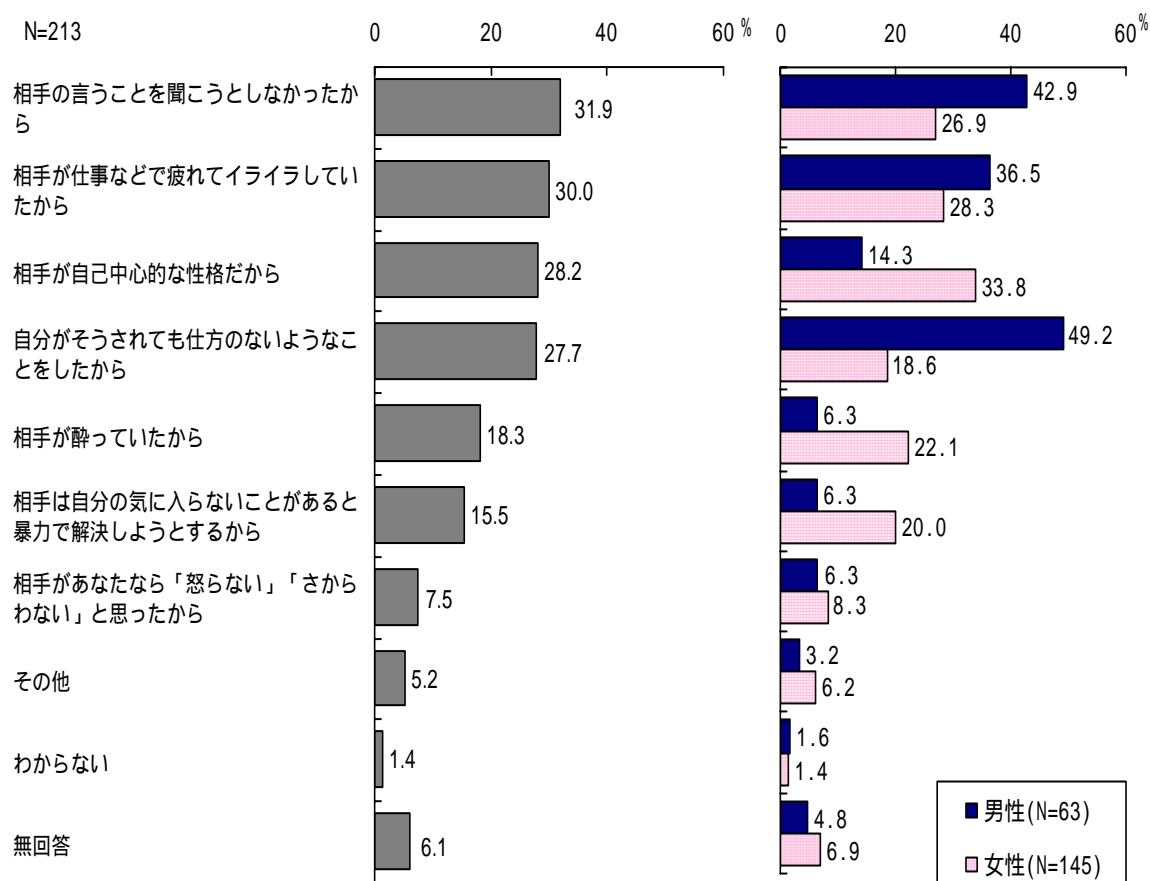
また、「自分がそうされても仕方がないようなことをしたから」、「相手が酔っていたから」、「相手が自己中心的な性格だから」では男女で10~23ポイントの差がみられる。

全体的に、男性は自分の態度、女性は相手の状態を原因とする回答が多い。

## 「身体への攻撃等」を受けた原因

問6 - 2 問5で『身体への攻撃等』の項目で「何度もされた」、「1、2度された」いずれかに1つでもつけた方は、その原因を何だと思えますか。  
(はいくつでも)

図表2 - 37 「身体への攻撃等」を受けた原因(男女別)



身体への攻撃等を受けた原因をたずねたところ、「相手の言うことを聞こうとしなかったから」(31.9%)が最も多く、次いで「相手が仕事などで疲れてイライラしていたから」(30.0%)となっている。

男女別にみると、男性は「自分がそうされても仕方のないようなことをしたから」(49.2%)が最も多く、女性との差は30ポイントになっている。次に「相手の言うことを聞こうとしなかったから」(42.9%)、「相手が仕事などで疲れてイライラしていたから」(36.5%)となっている。

女性では、「相手が自己中心的な性格だから」(33.8%)が最も多く、男性との差は20ポイント近い。次に「相手が仕事などで疲れてイライラしていたから」(28.3%)、「相手の言うことを聞こうとしなかったから」(26.9%)となっている。

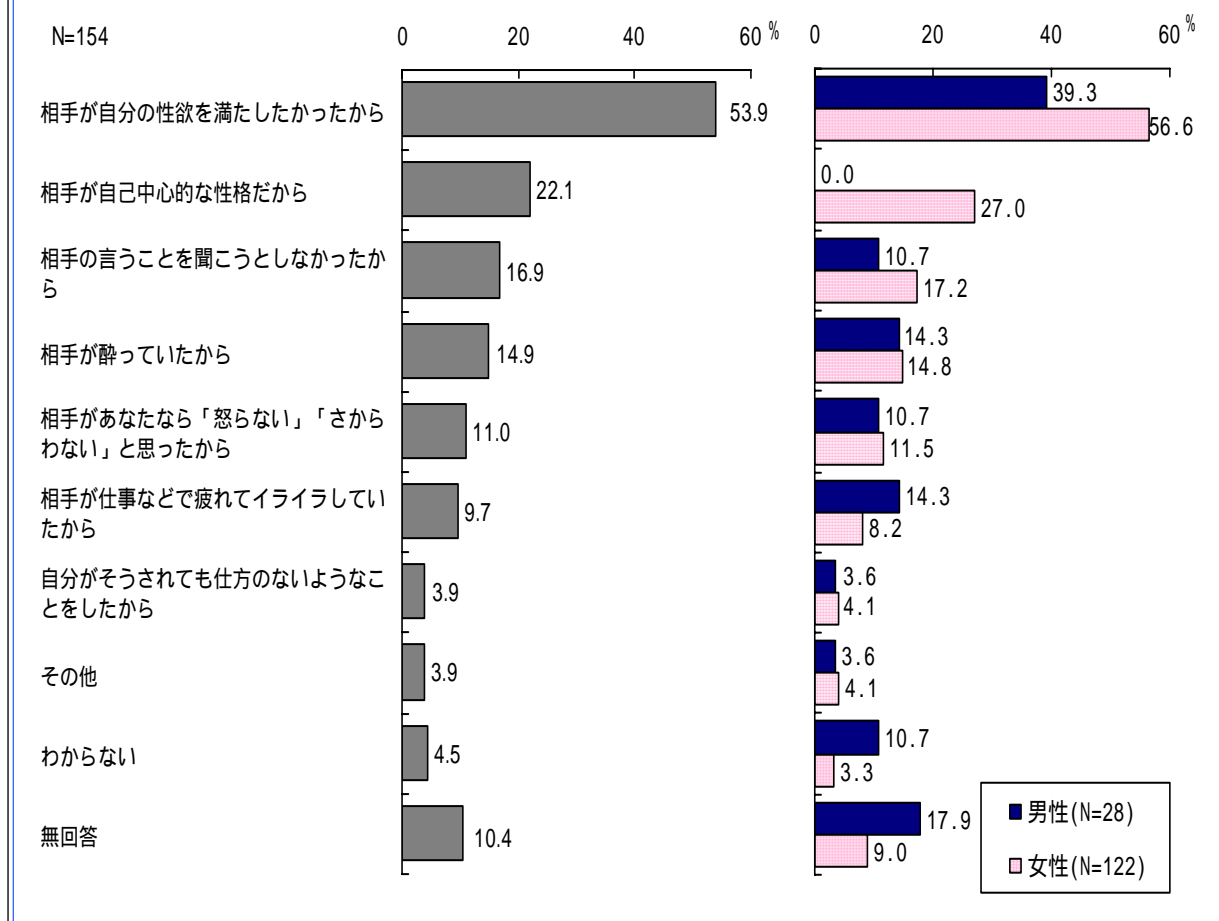
また、「相手が酔っていたから」、「相手は自分の気に入らないことがあると暴力で解決しようとするから」でも男女で10ポイント以上の差がみられた。



## 「性に関すること」を受けた原因

問6 - 3 問5で『性に関すること』の項目で「何度もされた」、「1、2度された」のいずれかに1つでもつけた方は、その原因を何だと思えますか。  
(はいくつでも)

図表2 - 38 「性に関すること」を受けた原因(男女別)



性に関することを受けた原因をたずねたところ、「相手が自分の性欲を満たしたかったから」(53.9%)が最も多く、次いで「相手が自己中心的な性格だから」(22.1%)、「相手の言うことを聞こうとしなかったから」(16.9%)が2割前後となっている。

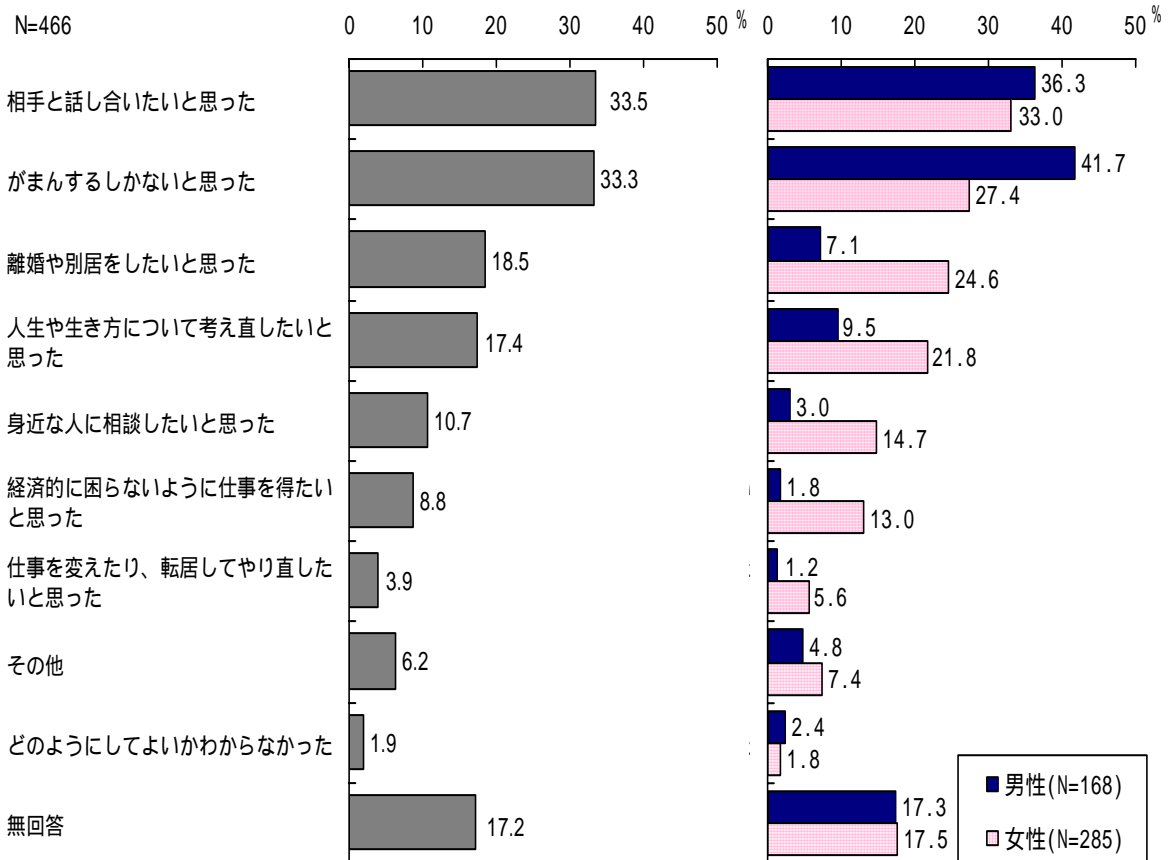
男女ともに「相手が自分の性欲を満たしたかったから」(男性39.3%、女性56.6%)が最も多いが、女性では「相手が自己中心的な性格だから」(27.0%)が次に多くなっており、男性との差は27ポイントになっている。

#### (4) 暴力等を受けた時の対応

##### 暴力等を受けた時の対応

問7 あなたは問5における行為をされたとき、どのようにしたいと思いましたか。(はいいくつでも)

図表2-39 暴力等を受けた時の対応(男女別)



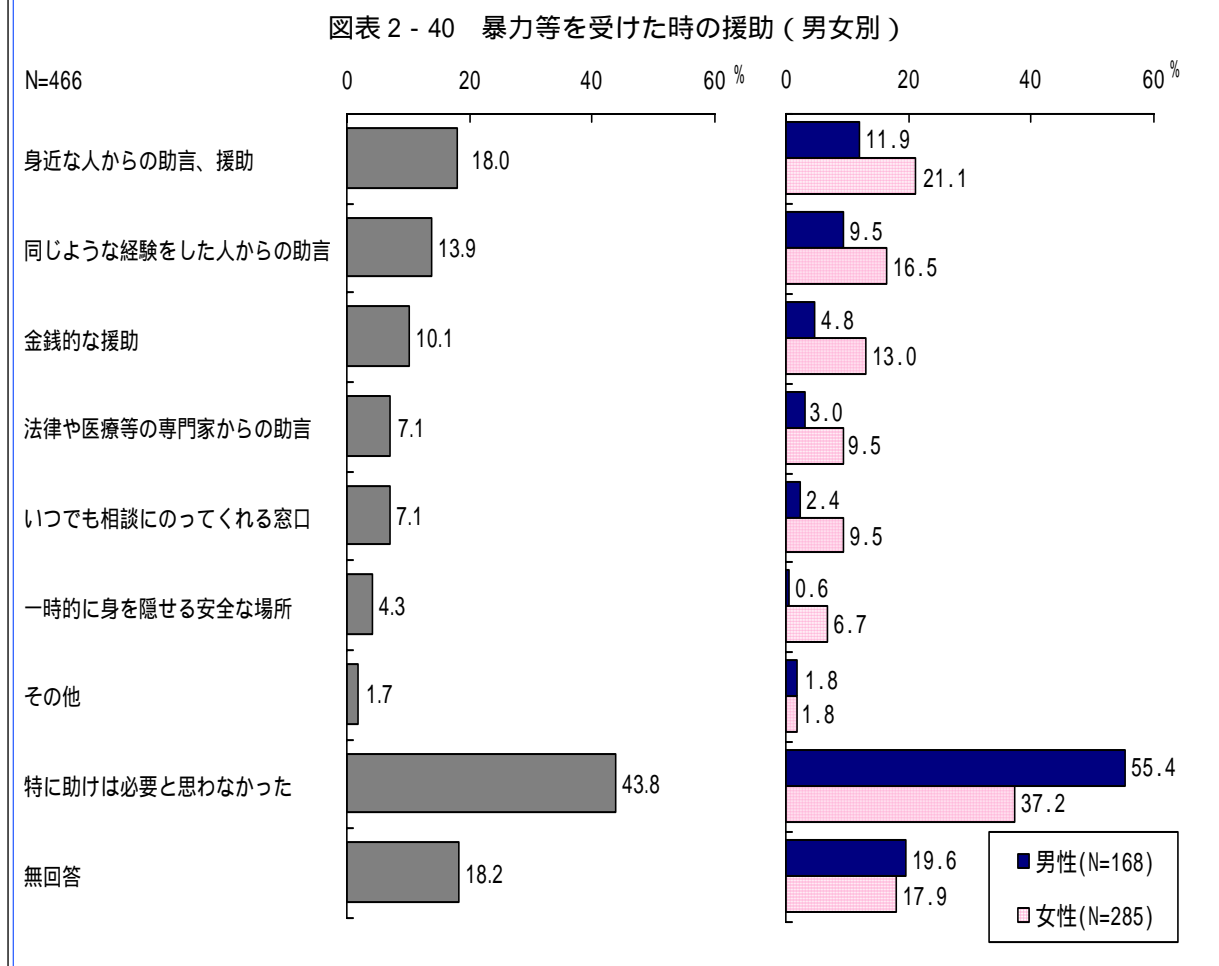
被害経験者に、暴力等を受けた時、どのようにしたいと思ったかについてたずねたところ、「相手と話し合いたいと思った」(33.5%)が最も多く、次いで「がまんするしかないと思った」(33.3%)となっている。以下、「離婚や別居をしたいと思った」(18.5%)、「人生や生き方について考え直したいと思った」(17.4%)などが続いている。

男女別にみると、男女ともに「相手と話し合いたいと思った」(男性36.3%、女性33%)、「がまんするしかないと思った」(男性41.7%、女性27.4%)が多い。

全体的にみると、男性は上記2項目以外は1割未満となっているが、女性はその他の項目についてもそれぞれ1~2割の回答で男性を上回っており、事態をより深刻に受け止めていることが推察される。

## 暴力等を受けた時の援助

問8 あなたはその時、どのような助けがあればよいと思われましたか。(はいくつでも)



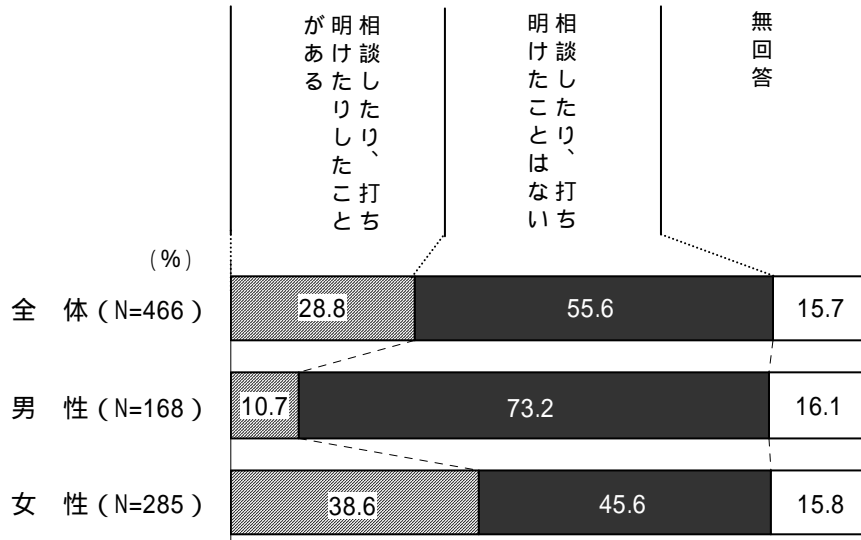
暴力等を受けた時の援助についてたずねたところ、「特に助けは必要と思わなかった」(43.8%)が最も多く、次に「身近な人からの助言、援助」(18.0%)、「同じような経験をした人からの助言」(13.9%)などが挙げられている。

男女別にみると、「特に助けは必要と思わなかった」人で、男性(55.4%)は女性(37.2%)を18ポイント上回っている。女性では、「身近な人からの助言、援助」(21.1%)、「同じような経験をした人からの助言」(16.5%)など身近な人からの助言を求める回答が男性と比べて多くなっている。

## 暴力等を受けた時の他者への相談の有無

問9 あなたはこれまでそのような経験について、誰かに相談したり、打ち明けたりしたことがありますか。( は1つ)

図表2-41 暴力等を受けた時の他者への相談の有無(男女別)

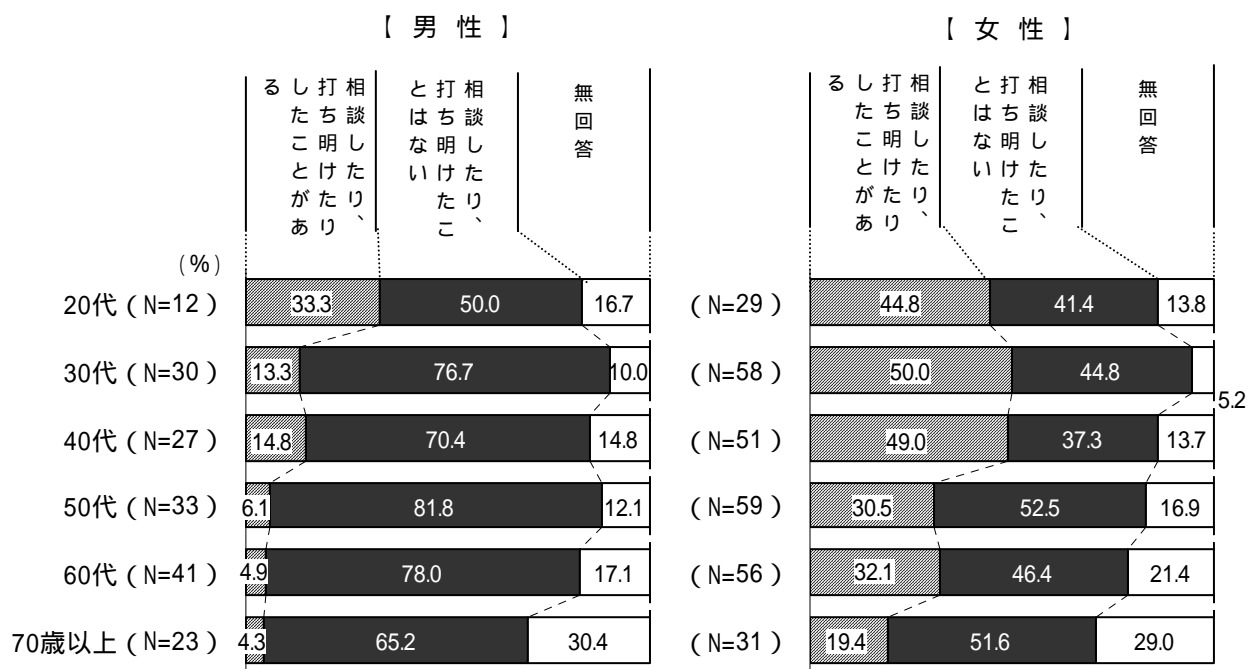


暴力等を受けた時の相談の有無についてたずねたところ、「相談したり、打ち明けたことはない」という回答が半数以上と最も多くなっている。

男女別にみると、女性では「相談したり、打ち明けたことがある」が4割弱であるのに対し、男性では7割以上が「相談したり、打ち明けたことはない」と回答している。

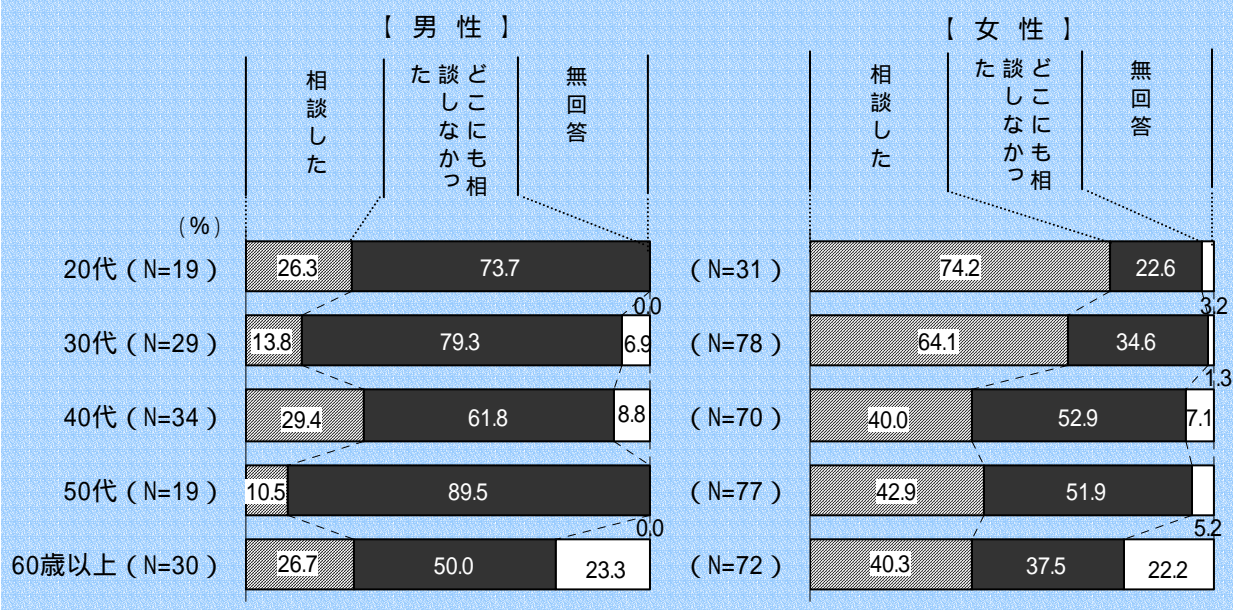
性・年代別に見ると、男性では「相談したり、打ち明けたことがある」が20代で3割強と最も多く、以下40代(14.8%)、30代(13.3%)となっている。女性は20～40代では5割前後、50代以降は2～3割と年代が高くなるほど相談をしない傾向があり、内閣府の調査結果でも同様の傾向がみられる。

図表2-42 暴力等を受けた時の他者への相談の有無(性・年代別)



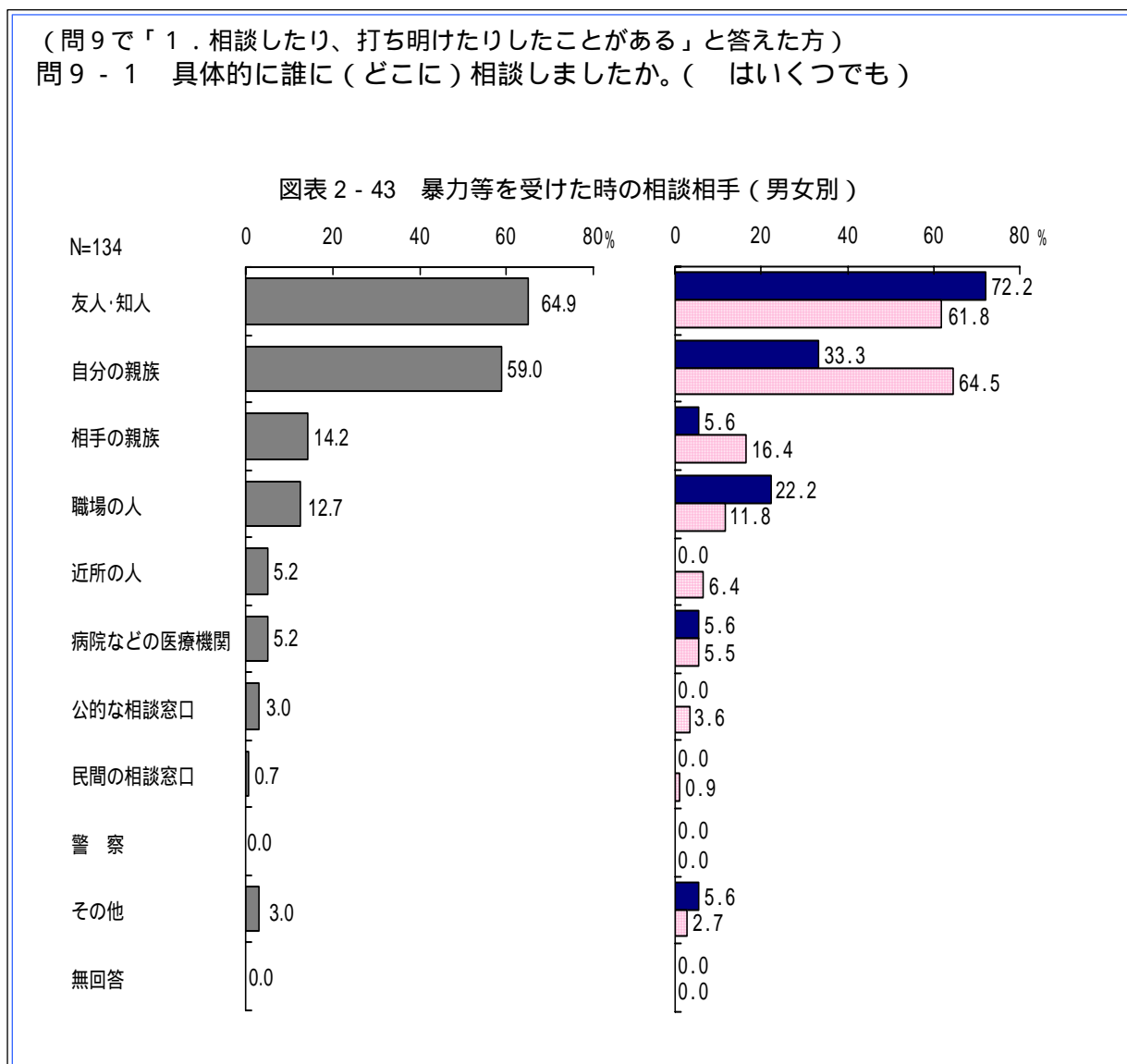
〔参考〕平成15年4月 内閣府調査より

あなたはこれまでに、あなたの配偶者や恋人関係にあった者からうけた行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。



## 暴力等を受けた時の相談相手

(問9で「1.相談したり、打ち明けたりしたことがある」と答えた方)  
 問9 - 1 具体的に誰に(どこに)相談しましたか。(はいくつでも)



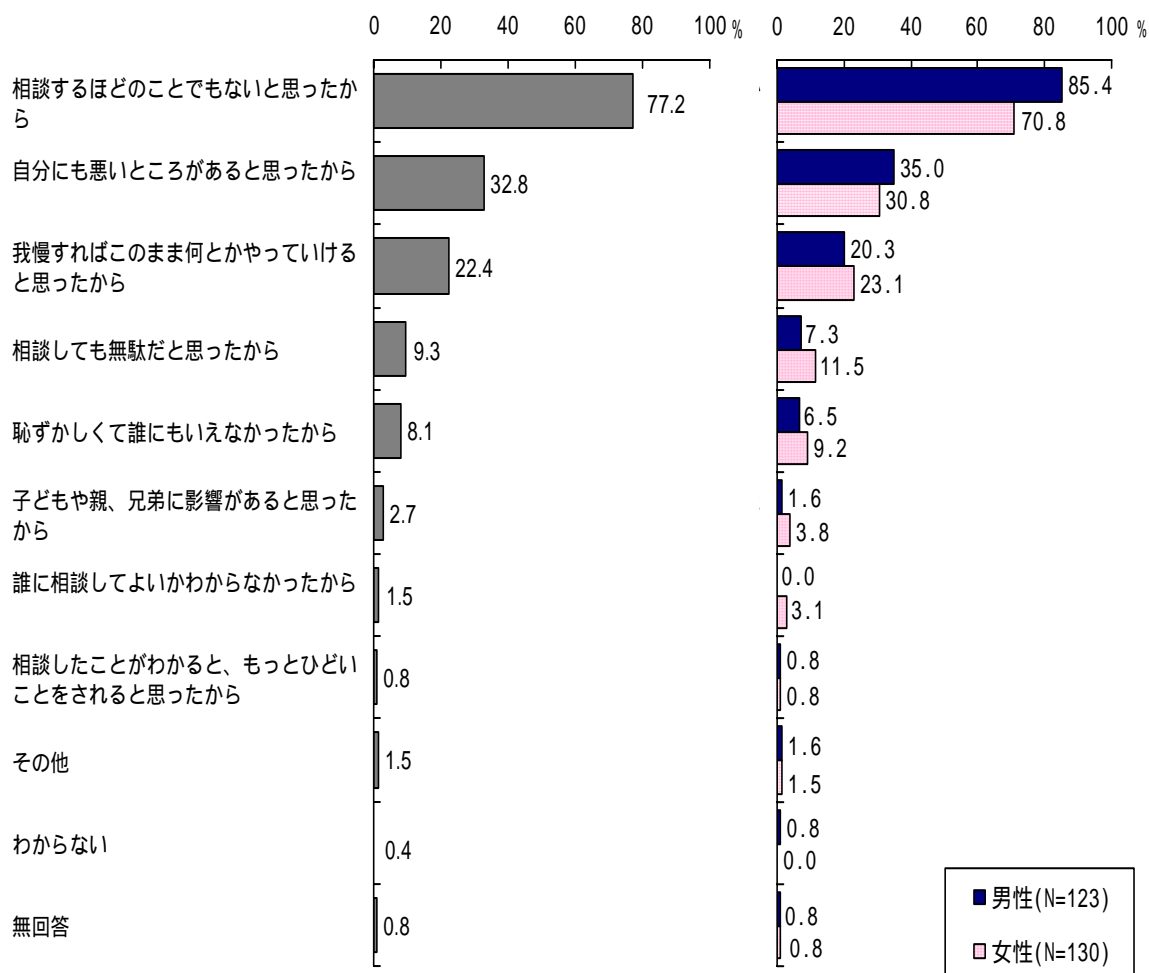
相談したことがある人に、その相談相手についてたずねると、「友人・知人」(64.9%)が最も多く、次に「自分の親族」(59.0%)となっている。「公的な相談窓口」、「警察」などの公的機関については1割未満となっている。

男女別にみると、男女ともに「友人・知人」(男性72.2%、女性61.8%)に相談していることが多い。また、「自分の親族」では、女性が6割以上と多いのに比べ、男性は約3割と少ない。

## 暴力等を受けた時に相談しなかった理由

(問9で「2.相談したり、打ち明けたことはない」と答えた方)  
問9 - 2 相談しなかった理由は何ですか。(はいいくつでも)

図表2-44 暴力等を受けた時に相談しなかった理由(男女別)



誰にも相談しなかったと答えた人に、その理由をたずねると、「相談するほどのことでもないと思ったから」(77.2%)が最も多く、約8割を占めている。

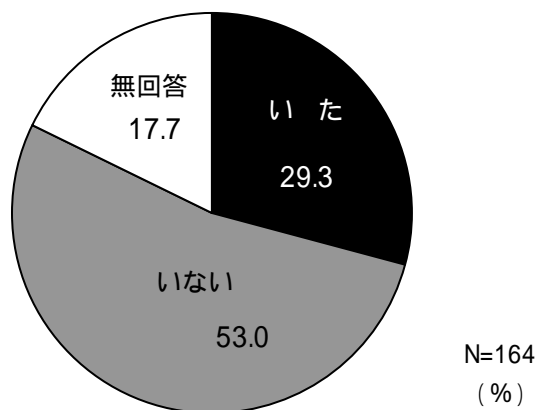
以下、「自分にも悪いところがあったから」(32.8%)、「我慢すればこのまま何とかやっていけると思ったから」(22.4%)などが続いている。

男女別にみると、男女ともに「相談するほどのことでもないと思ったから」(男性85.4%、女性70.8%)が最も多い。また「我慢すればこのまま何とかやっていけると思ったから」、「相談しても無駄だと思った」、「恥ずかしくて誰にもいえなかったから」では女性が男性の回答を上回っている。

## (5) 暴力等を受けた時の子どもの状況と被害

問10 あなたが『身体への攻撃等』を受けた時、18歳未満のお子さんはその場にいましたか。( は1つ)

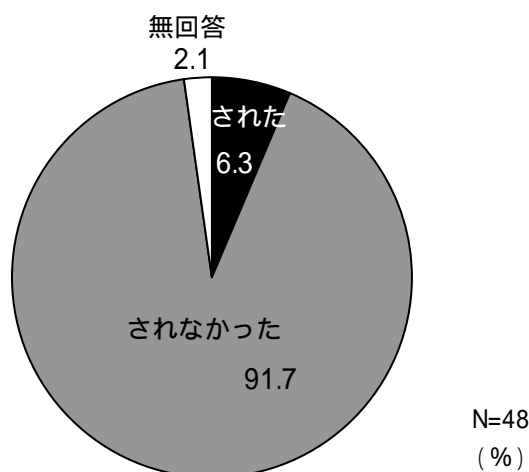
図表2-45 暴力等を受けた時の子どもの存在



(問10で「1.いた」と答えた方)

問10-1 その時お子さんはあなたと同じような行為をされましたか。( は1つ)

図表2-46 暴力等を受けた時の子どもの状況



身体への攻撃等を受けた時、その場に子どもがいたかどうかをたずねたところ、「いた」と回答した人が約3割となっている。

また「いた」と回答した人に、子どもへの暴力等があったかどうかをたずねたところ、「された」との回答が6.3%あった。

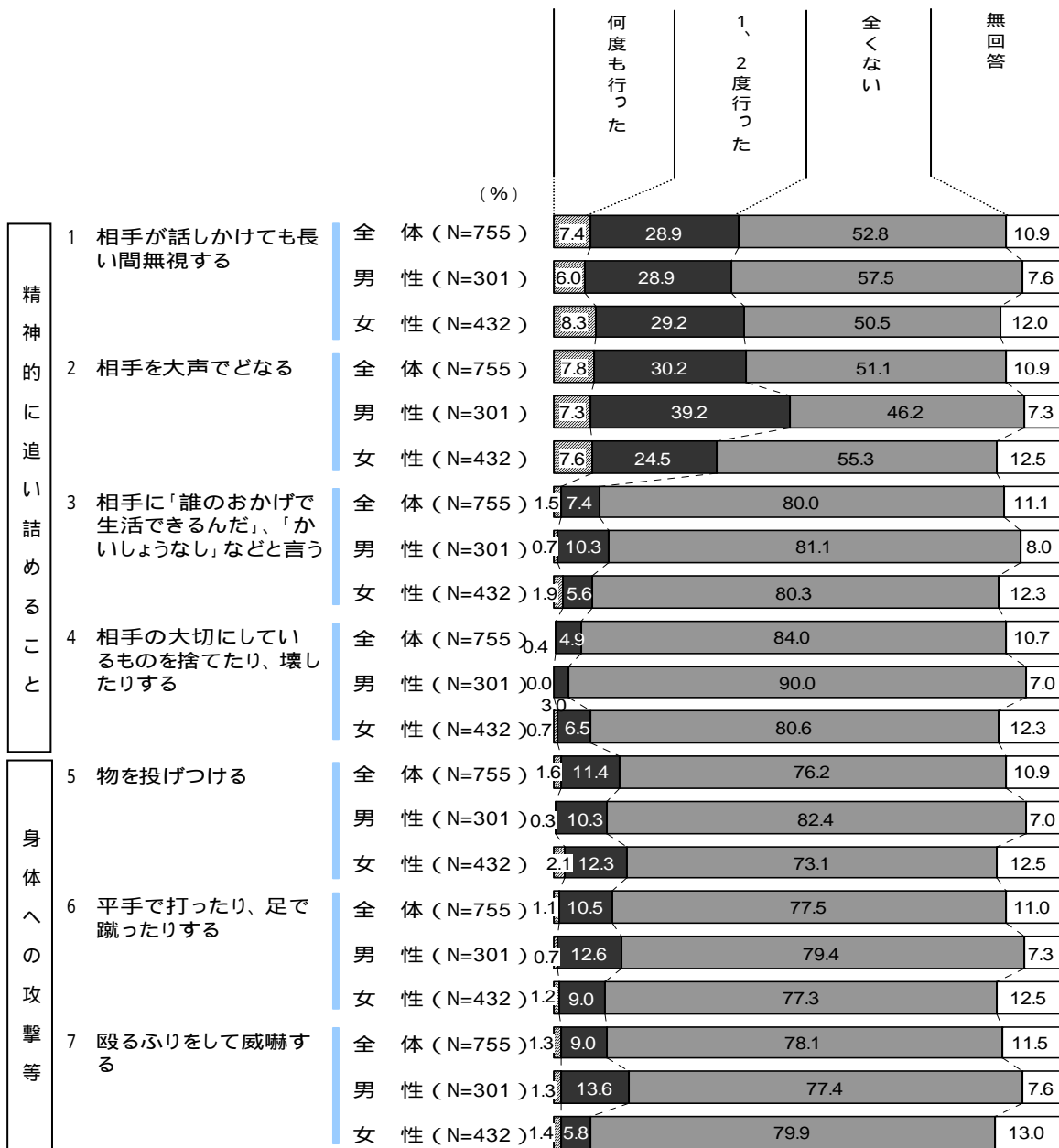


(6) 配偶者やパートナー間での暴力等を行った経験

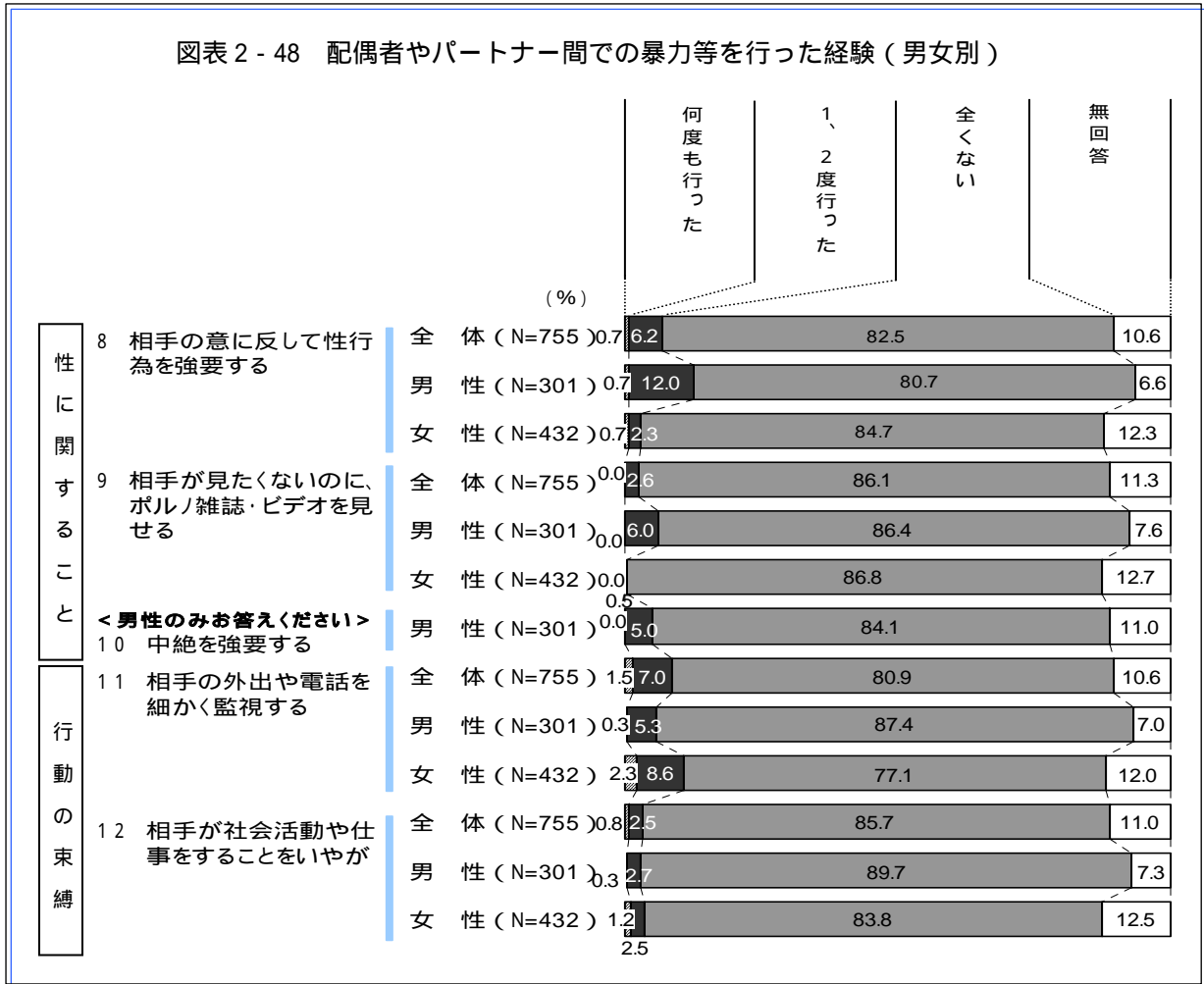
問11 あなたは次にあげるような行為を、「配偶者やパートナー」に対し、実際に行ったことがありますか。(それぞれは1つ)

配偶者やパートナーとは「夫、妻、前夫、前妻、同棲相手、恋人、元恋人」など、一定期間親密な関係のある(あった)相手をさします。

図表2-47 配偶者やパートナー間での暴力等を行った経験(男女別)



図表 2 - 48 配偶者やパートナー間での暴力等を行った経験（男女別）



配偶者やパートナー間での暴力等の加害経験についてたずねたところ、以下のようになった。

精神的に追い詰めること については、〔相手が話しかけても長い間無視する〕と〔相手を大声でどなる〕で、「何度も行った」と「1、2度行った」をあわせた『行った』（以下同じ）が3~4割となっており、特に〔相手を大声でどなる〕では『行った』と回答した人が男性で5割近くにのぼっている。

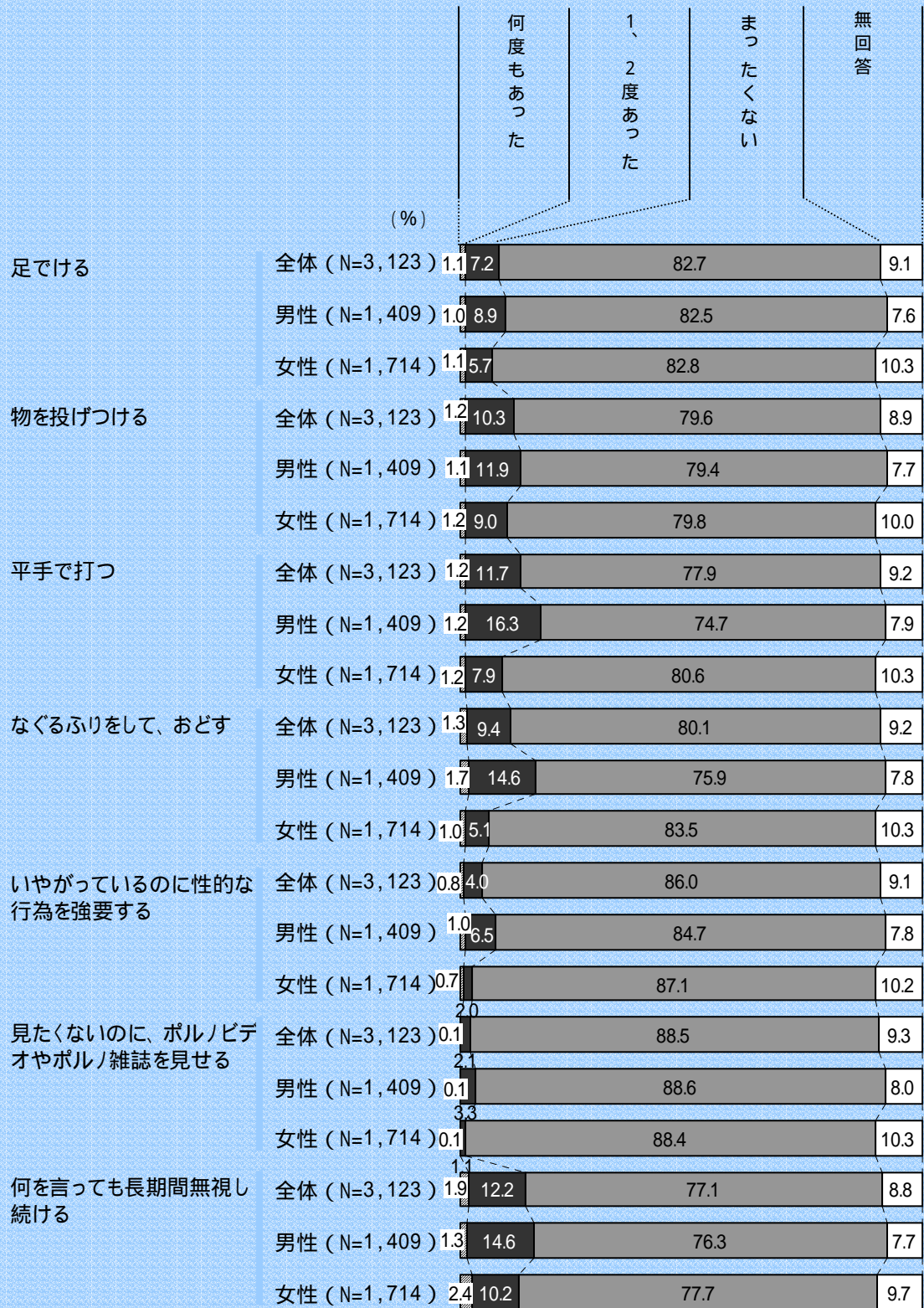
身体への攻撃等 については、いずれの行為でも1割の人が『行った』と回答している。男女別では、〔平手で打ったり、足で蹴ったりする〕、〔殴るふりをして威嚇する〕で内閣府の傾向同様、男性に加害経験者が多い。〔物を投げつける〕では、女性で加害経験のある人が男性を上回っている。

性に関すること については、〔相手の意に反して性行為を強要する〕で、男性の1割強が『行った』と回答している。

行動の束縛 については、〔相手の外出や電話を細かく監視する〕で女性の1割が『行った』と回答し、男性を上回っている。

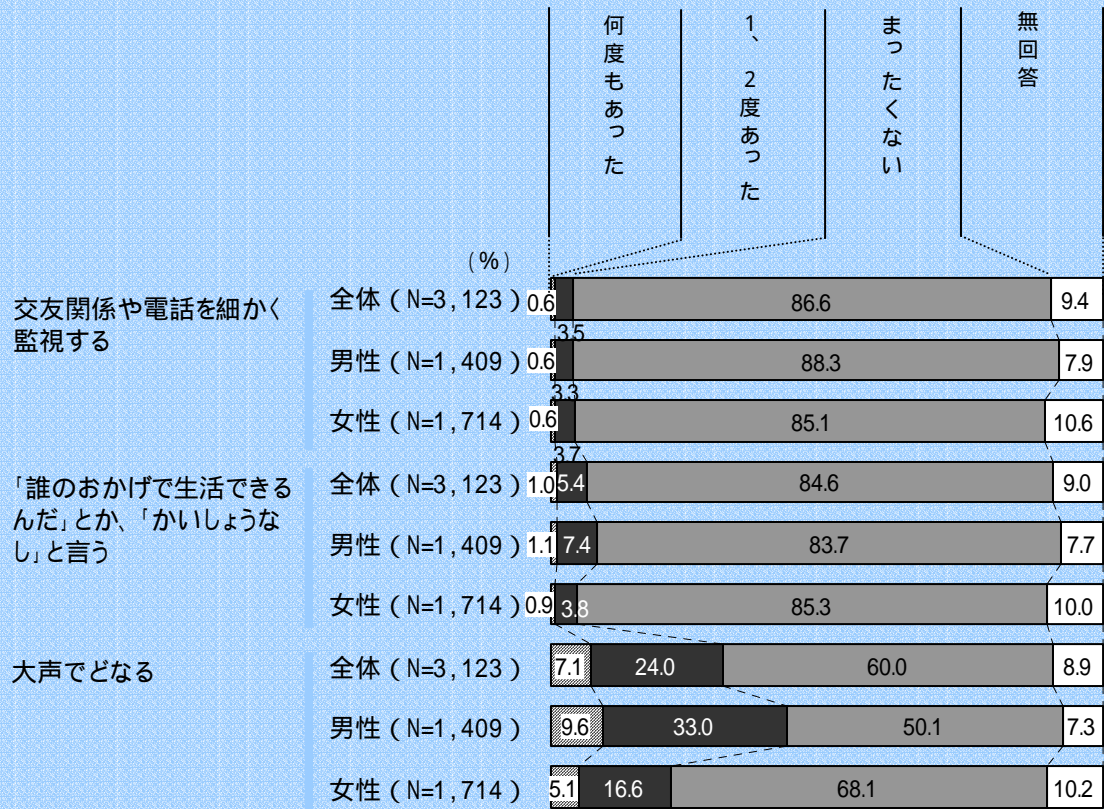
〔参 考〕 平成 15 年 4 月 内閣府調査より

あなたはこれまでに、あなたの配偶者や恋人関係にあった者に対して次のような行為をしたことがありますか。



一部抜粋

〔参 考〕 平成 15 年 4 月 内閣府調査より 続き

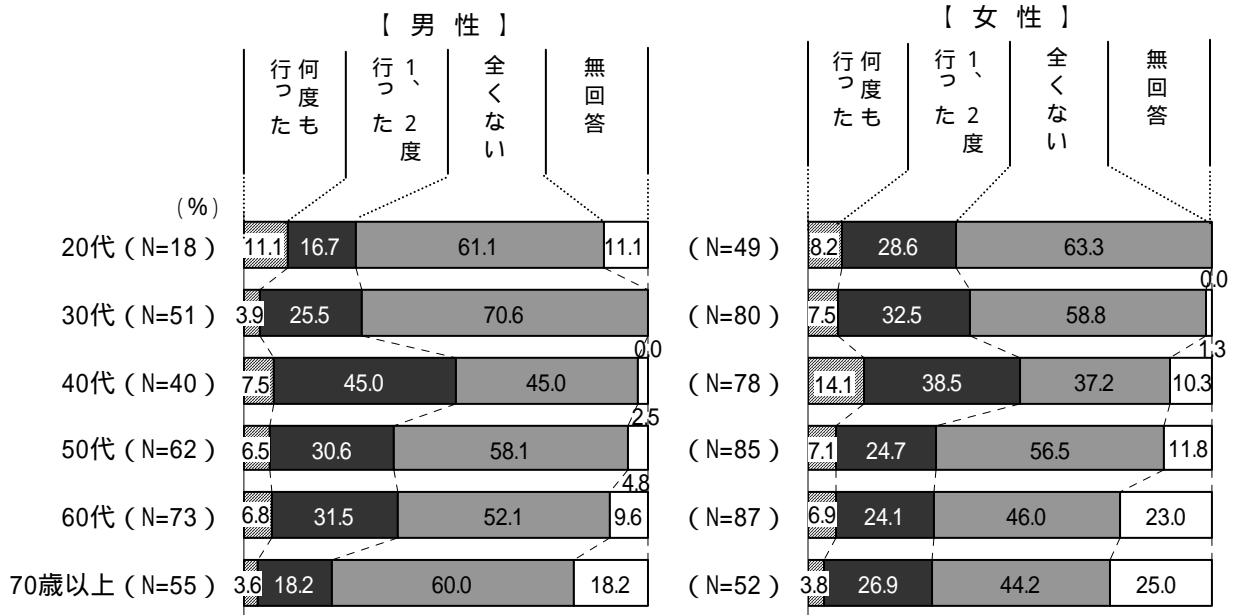


一部抜粋

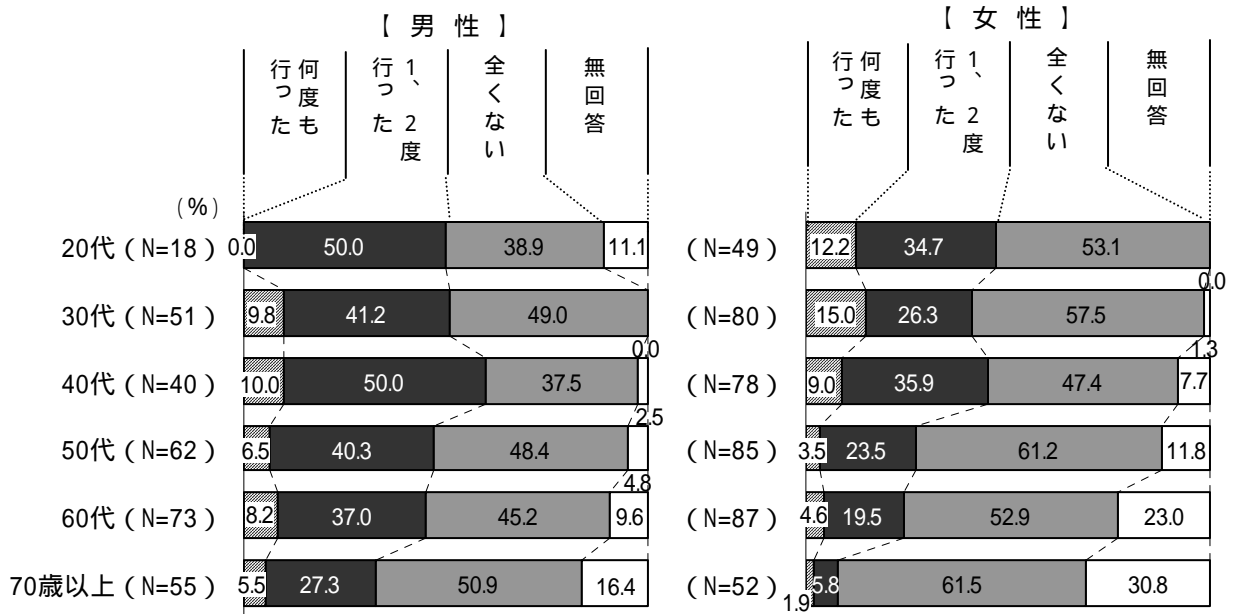
性・年代別にみると、以下のようになった。

〔相手が話しかけても長い間無視する〕では、男性の40代で5割以上、50、60代で4割前後が『行った』と回答している。女性は20～40代で3～5割が『行った』と回答している。  
 〔相手を大声でどなる〕では、男女とも20～40代での加害経験が多くなっている。

図表 2 - 49 暴力等の加害経験 - 1 相手が話しかけても長い間無視する（性・年代別）



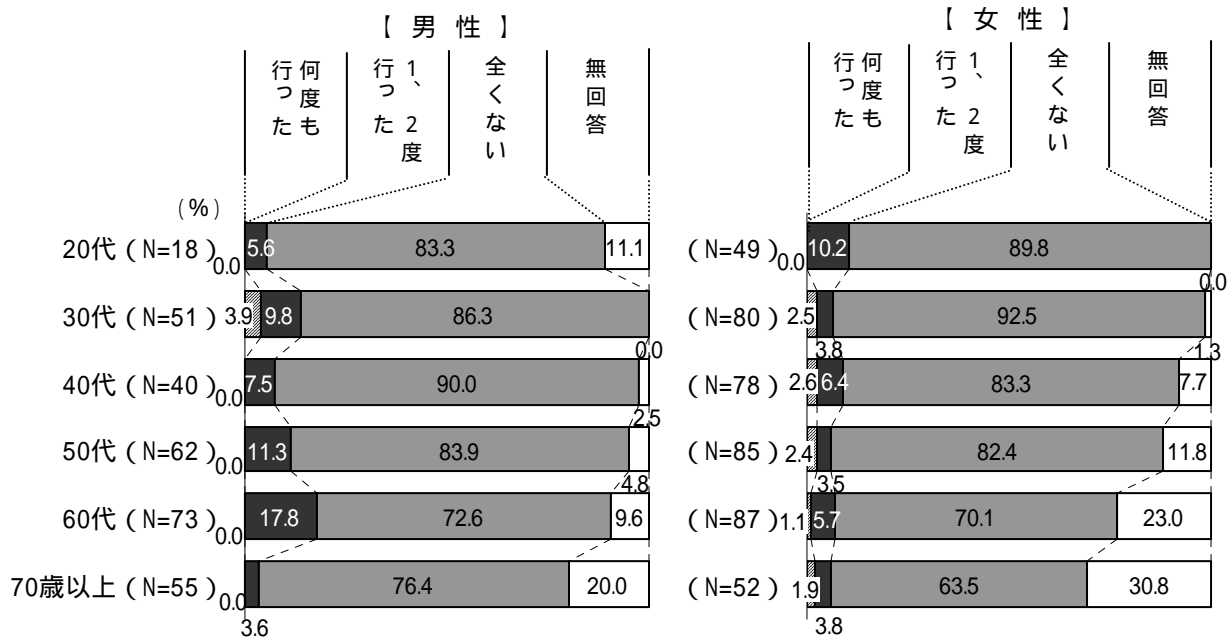
図表 2 - 50 暴力等の加害経験 - 2 相手を大声でどなる（性・年代別）



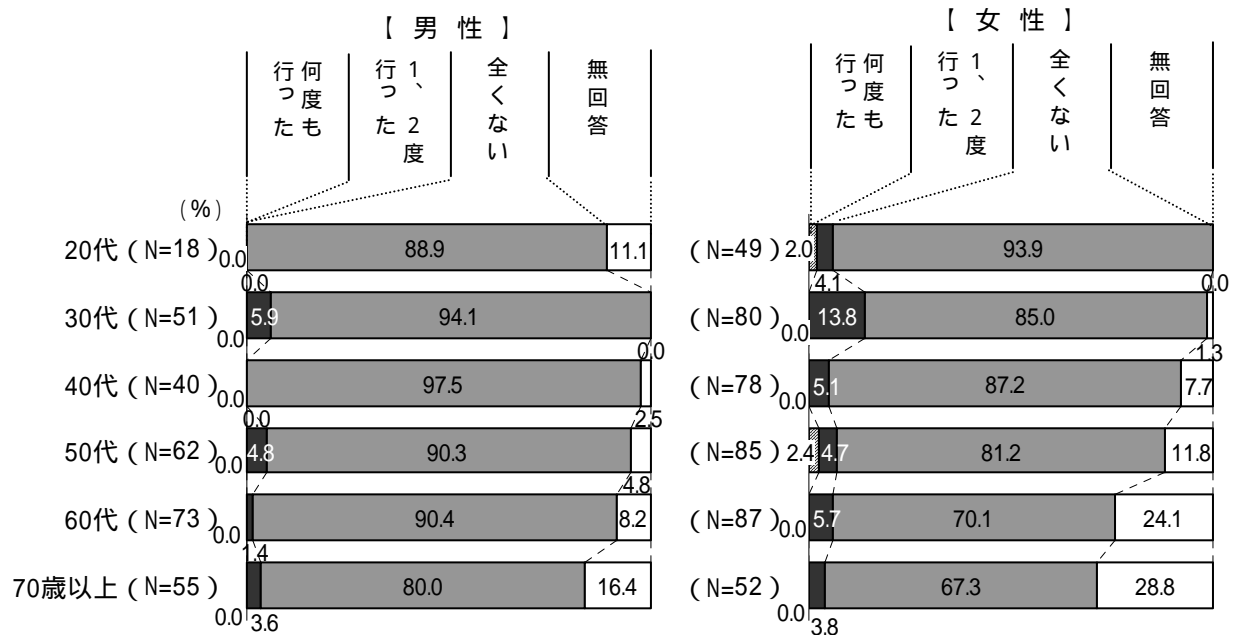
〔相手に「誰のおかげで生活できるんだ」、「かいしょうなし」などと言う〕では、男性の60代で『行った』と回答した人が17.8%と最も多い。

〔相手の大切にしているものを捨てたり、壊したりする〕では、女性の30代(13.8%)で最も多くなっている。

図表 2 - 51 暴力等の加害経験 - 3 相手に「誰のおかげで生活できるんだ」、「かいしょうなし」などと言う (性・年代別)

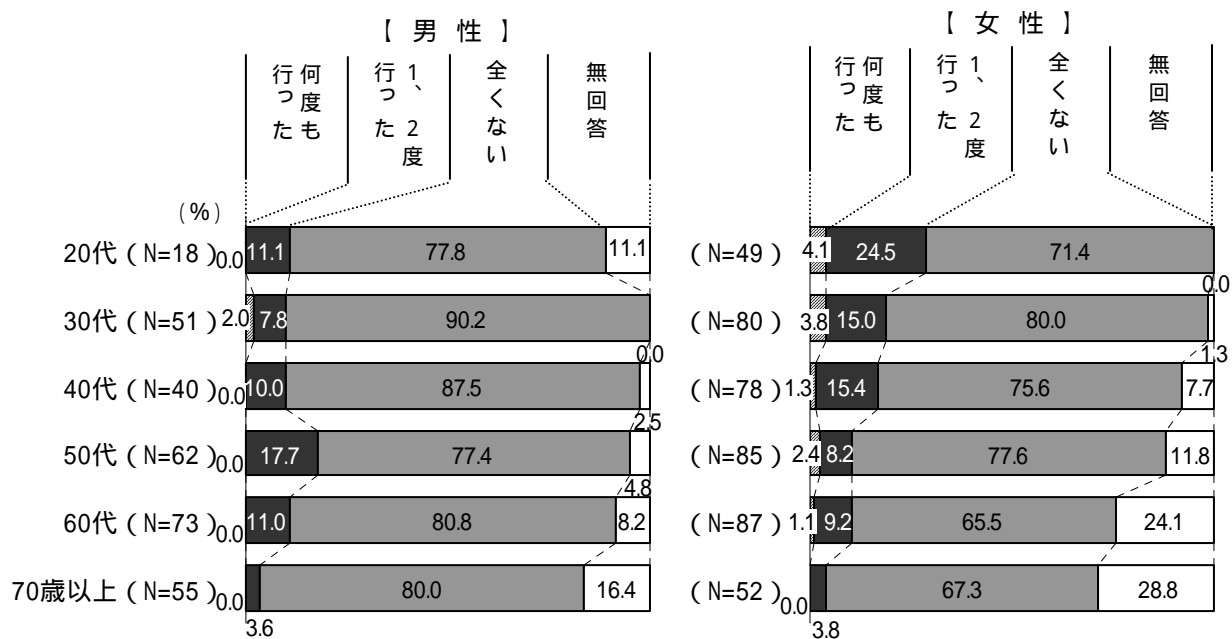


図表 2 - 52 暴力等の加害経験 - 4 相手の大切にしているものを捨てたり、壊したりする (性・年代別)

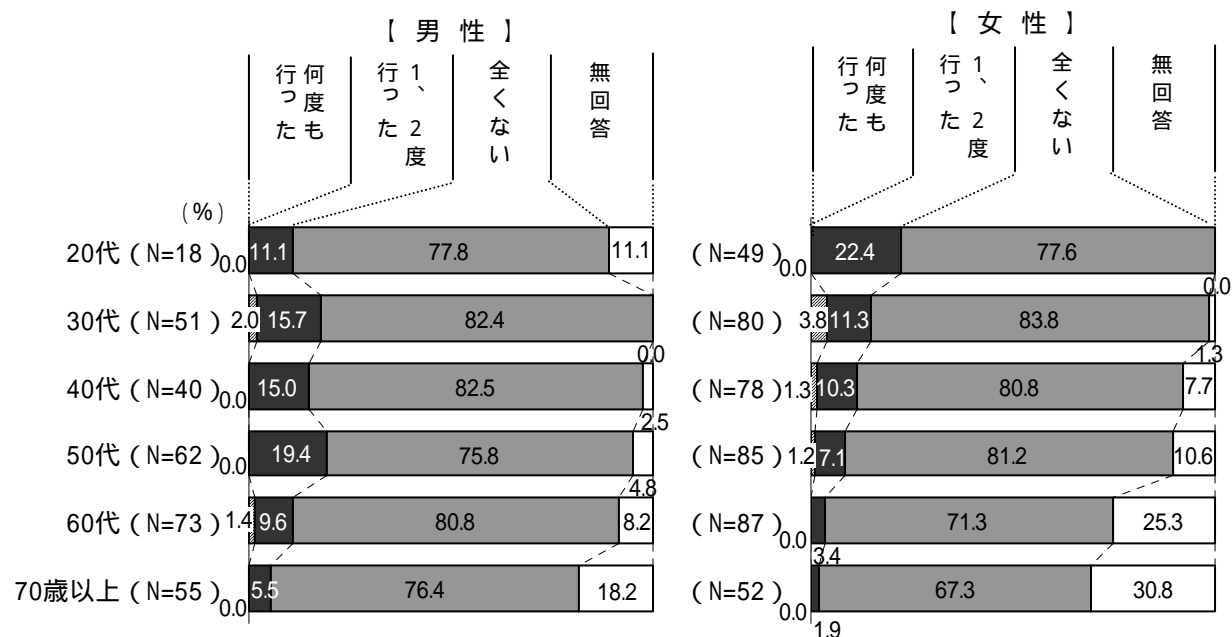


〔物を投げつける〕〔平手で打ったり、足で蹴ったりする〕では、ともに男性の50代で、女性の20代で2~3割が『行った』と回答している。

図表 2 - 53 暴力等の加害経験 - 5 物を投げつける（性・年代別）



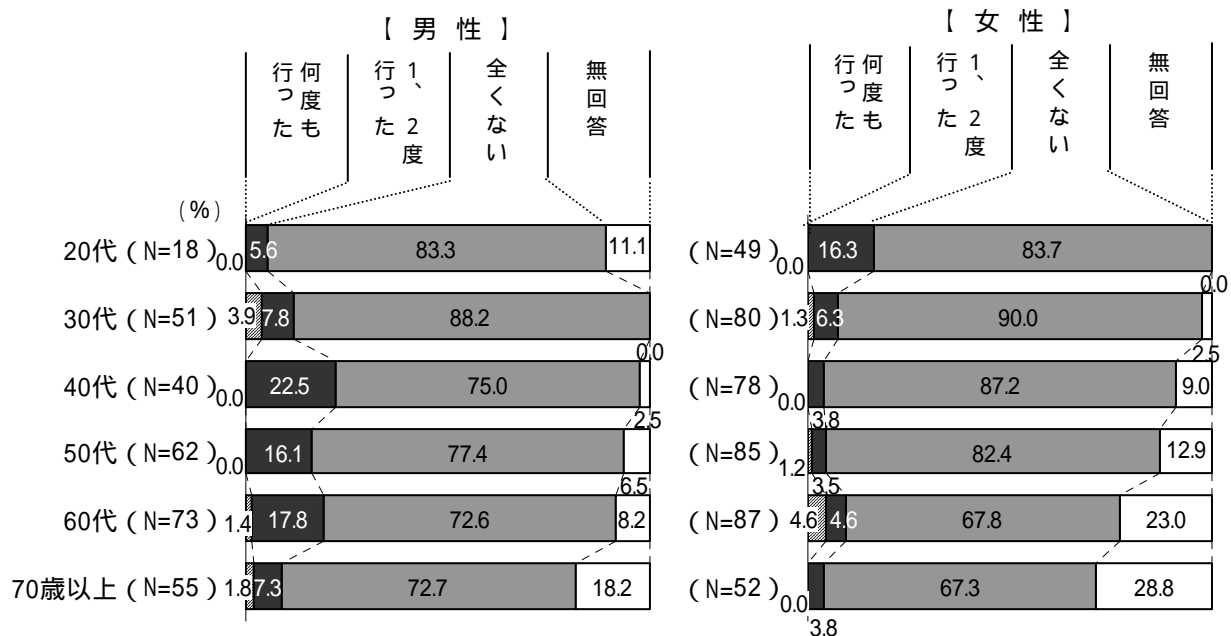
図表 2 - 54 暴力等の加害経験 - 6 平手で打ったり、足で蹴ったりする（性・年代別）



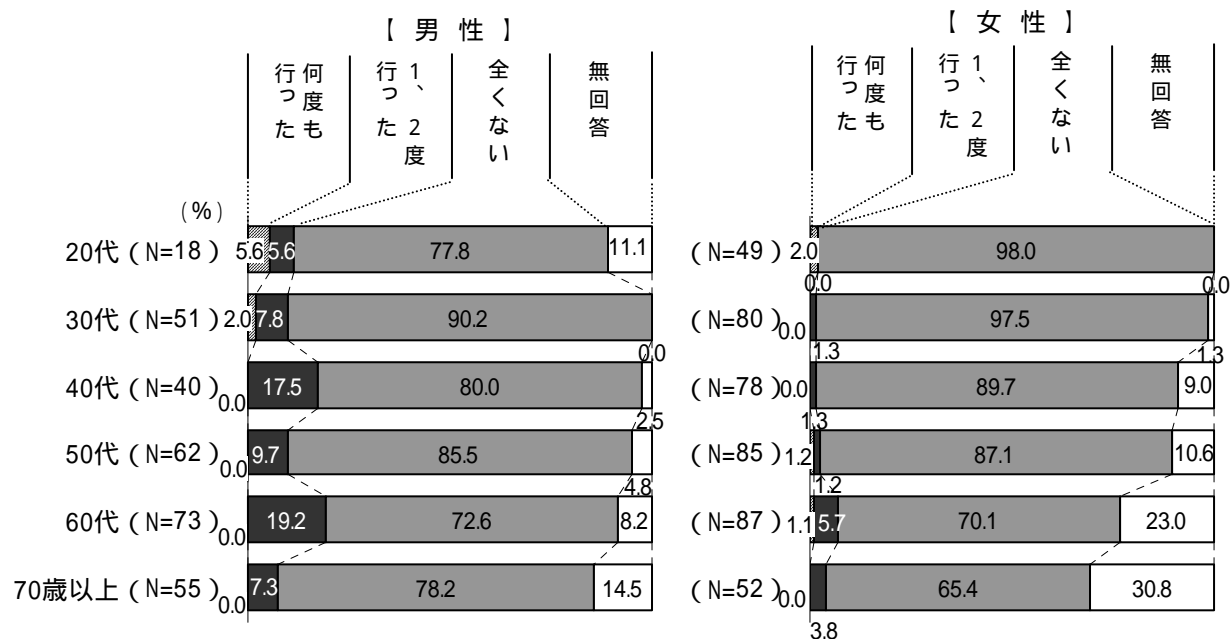
〔殴るふりをして威嚇する〕では、男性の40～60代で2割前後が『行った』と回答している。

〔相手の意に反して性行為を強要する〕では、男性の40、60代で2割弱が『行った』と回答しているが、20、30代では「何度も行っただも」との回答も出ている。

図表 2 - 55 暴力等の加害経験 - 7 殴るふりをして威嚇する（性・年代別）



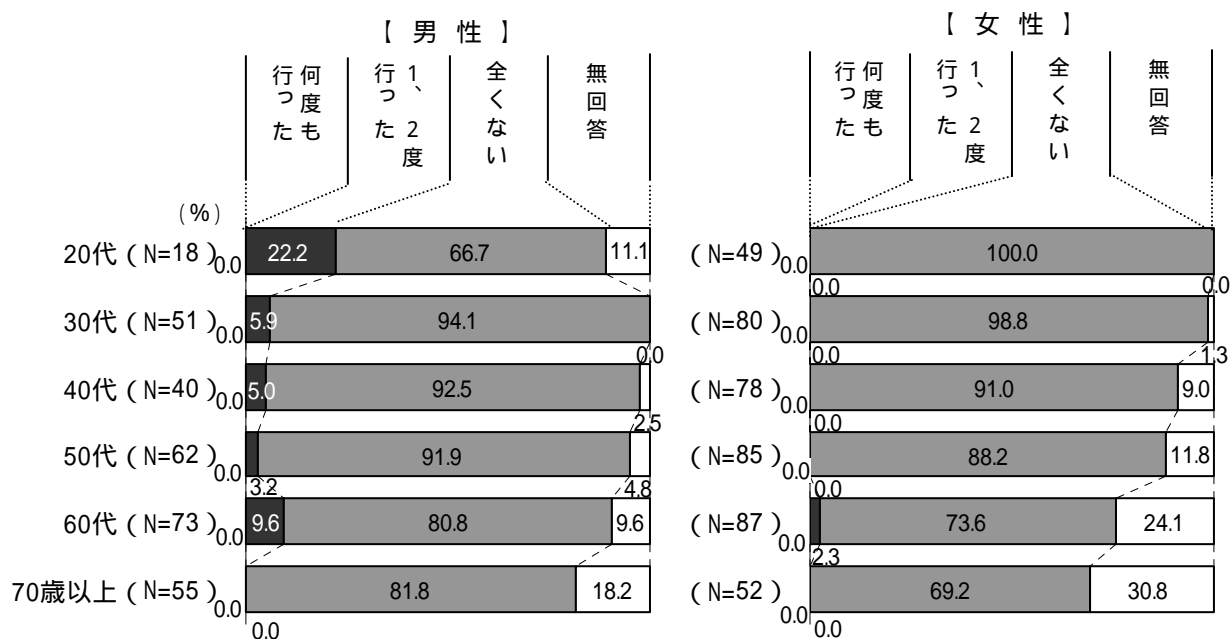
図表 2 - 56 暴力等の加害経験 - 8 相手の意に反して性行為を強要する（性・年代別）



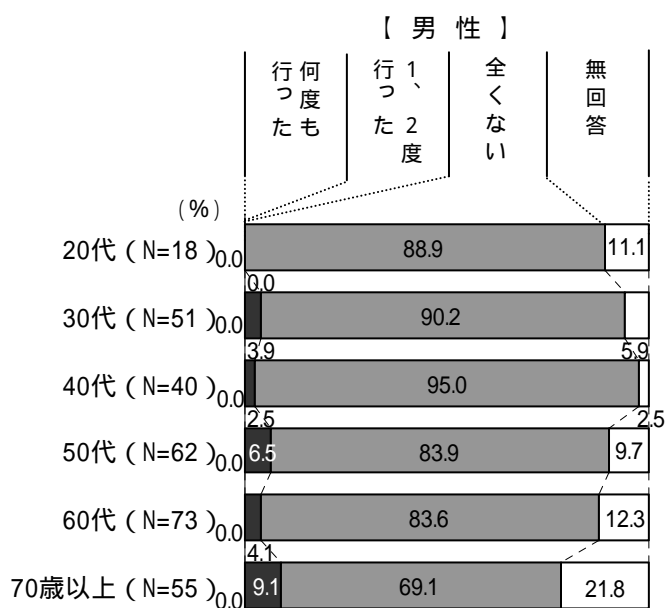


『中絶を強要する』では、20代を除いて加害経験が出ており、70歳以上では1割近くが『行った』と回答している。

図表 2 - 57 暴力等の加害経験 - 9 相手が見たくないのに  
ポルノ雑誌・ビデオを見せる（性・年代別）



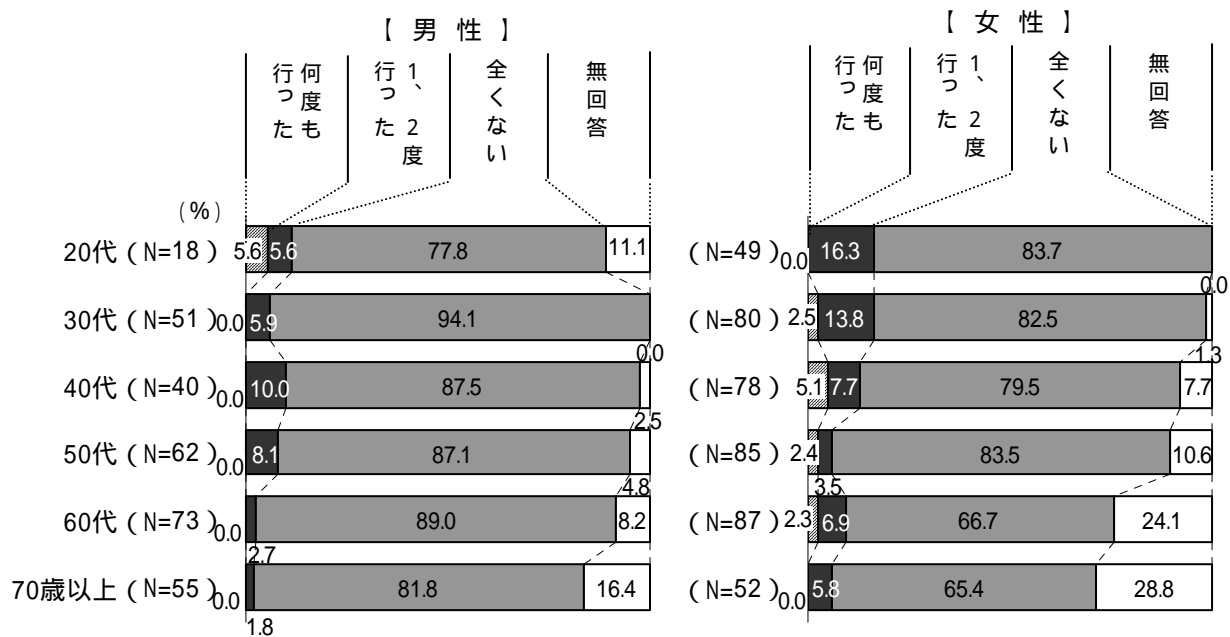
図表 2 - 58 暴力等の加害経験 - 10 中絶を強要する 男性のみ（性・年代別）



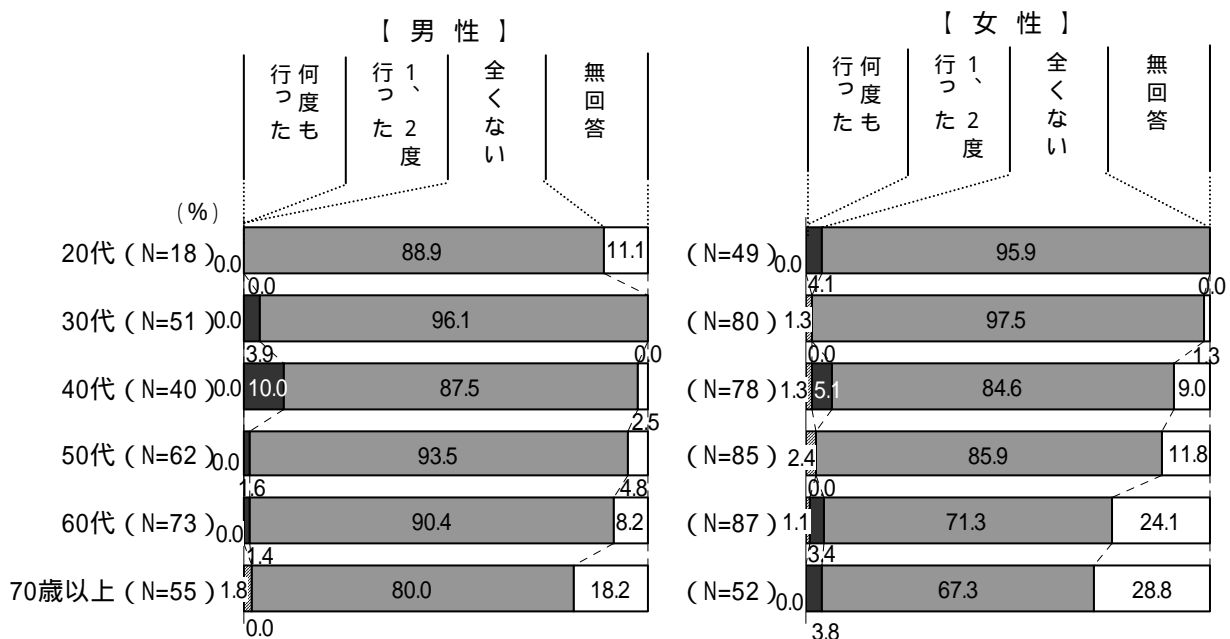
〔相手の外出や電話を細かく監視する〕では、女性の20～40代で加害経験が1割強となっている。

〔相手が社会活動や仕事をするのをいやがる〕では、男性の40代が1割と最も多くなっている。

図表2-59 暴力等の加害経験 - 1 1 相手の外出や電話を細かく監視する(性・年代別)



図表2-60 暴力等の加害経験 - 1 2 相手が社会活動や仕事をするのをいやがる(性・年代別)



加害経験の重複をみると、「精神的に追い詰めることの加害のみ」(27.3%)が最も多く、「精神的に追い詰めることと身体への攻撃等の加害」(12.1%)が続いている。

男女別にみると、男性では「性に関すること」の加害と他の加害の重複が女性より多く、女性では「行動の束縛」の加害と他の加害の重複が男性より多くみられる。

図表 2 - 61 暴力等の加害の重複（男女別）

上段：件数 下段：%	調査数	精神的に追い詰めることの加害のみ	身体への攻撃等の加害のみ	性に関することの加害のみ	行動の束縛の加害のみ	精神的に追い詰めることと身体への攻撃等の加害	精神的に追い詰めることと性的束縛の加害	精神的に追い詰めることと行動の束縛の加害	精神的に追い詰めることと身体への攻撃等と性的束縛の加害	身体への攻撃等と性的束縛の加害	行動の束縛の加害
全 体	755	206	11	8	6	91	15	20	3	1	1
	100.0	27.3	1.5	1.1	0.8	12.1	2.0	2.6	0.4	0.1	0.1
男 性	301	77	4	6	0	38	13	3	2	0	0
	100.0	25.6	1.3	2.0	0.0	12.6	4.3	1.0	0.7	0.0	0.0
女 性	432	126	6	1	6	49	1	17	1	1	1
	100.0	29.2	1.4	0.2	1.4	11.3	0.2	3.9	0.2	0.2	0.2

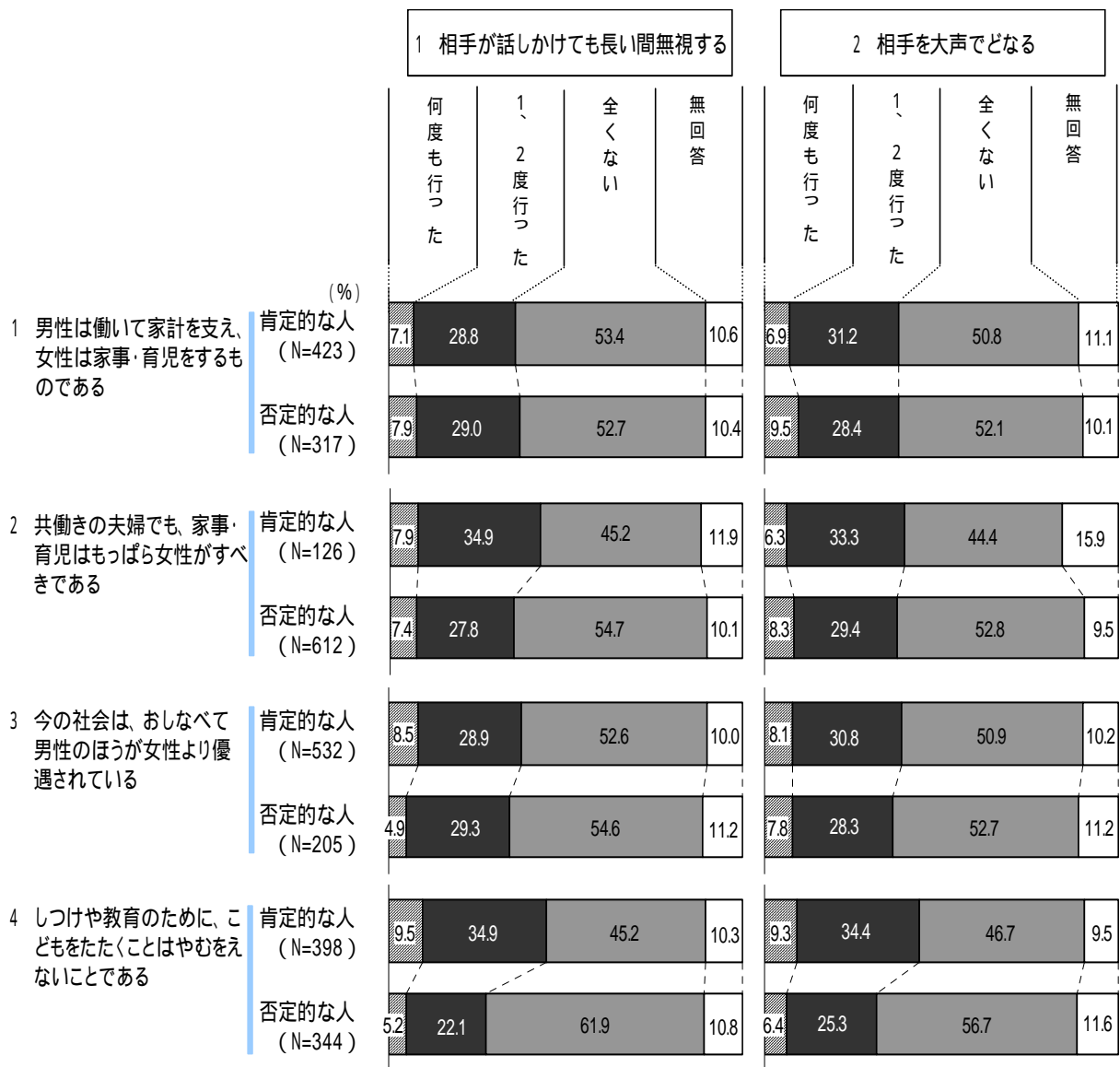
精神的に追い詰めることと性的束縛の加害	精神的に追い詰めることと身体への攻撃等の加害	精神的に追い詰めることと性的束縛の加害	精神的に追い詰めることと行動の束縛の加害	身体への攻撃等の加害	性的束縛の加害	全ての加害の重複	全くない	無回答
20	5	26	0	12	258	72		
2.6	0.7	3.4	0.0	1.6	34.2	9.5		
16	5	5	0	7	105	20		
5.3	1.7	1.7	0.0	2.3	34.9	6.6		
4	0	21	0	5	147	46		
0.9	0.0	4.9	0.0	1.2	34.0	10.6		

暴力等の加害経験を男女の役割意識等別でみると、以下のようになった。

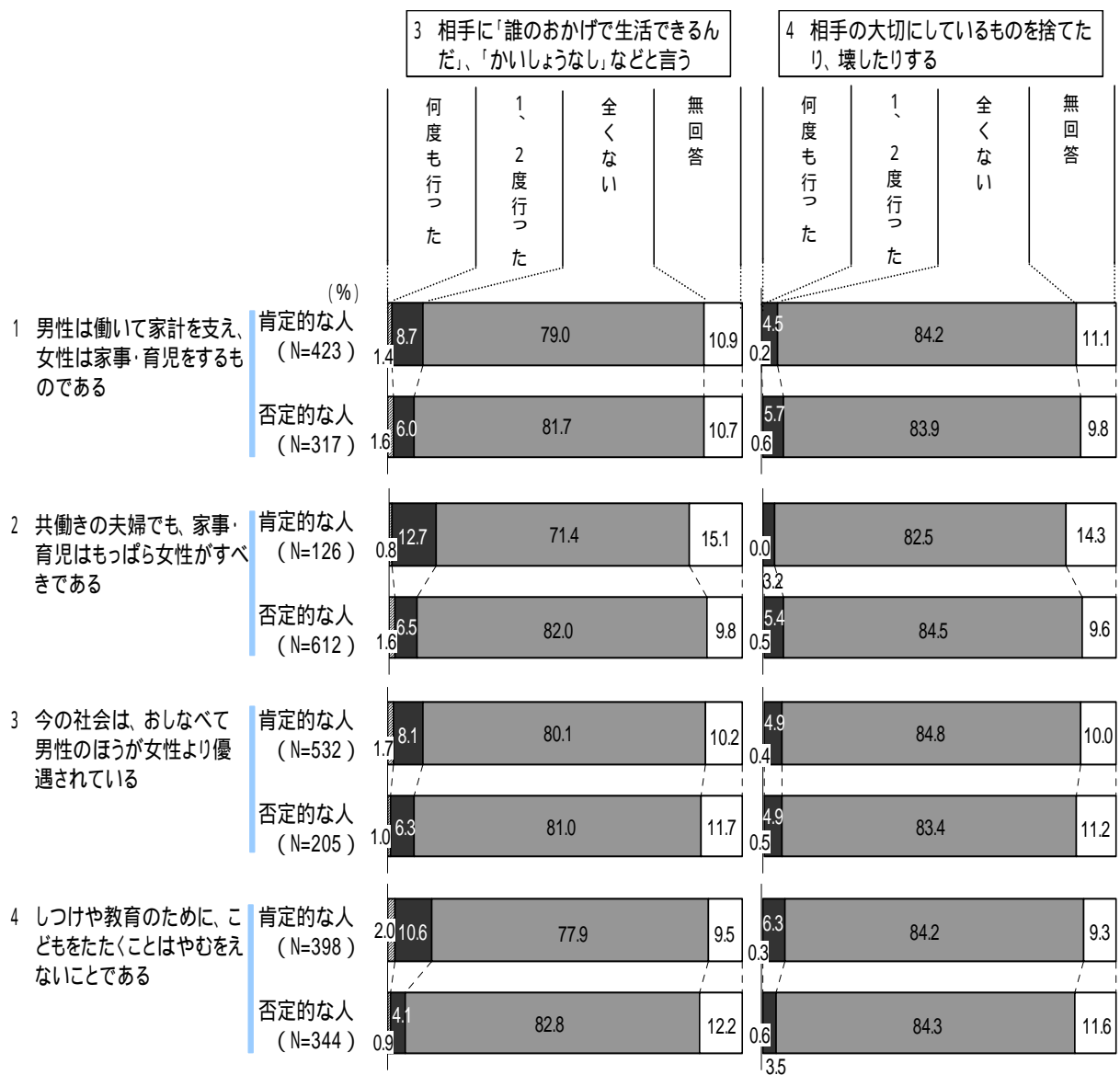
男性は働いて家計を支え、女性は家事・育児をするものである、共働きの夫婦でも、家事・育児はもっぱら女性がすべきであるという考え方について、『肯定的な人』は『否定的な人』と比べて〔相手の意に反して性行為を強要する〕において加害経験が多い結果となっている。

しつけや教育のために、子どもをたたくことはやむをえないことであるという考え方に『肯定的な人』は『否定的な人』と比べて、ほとんどの項目で加害経験が多い結果となっている。

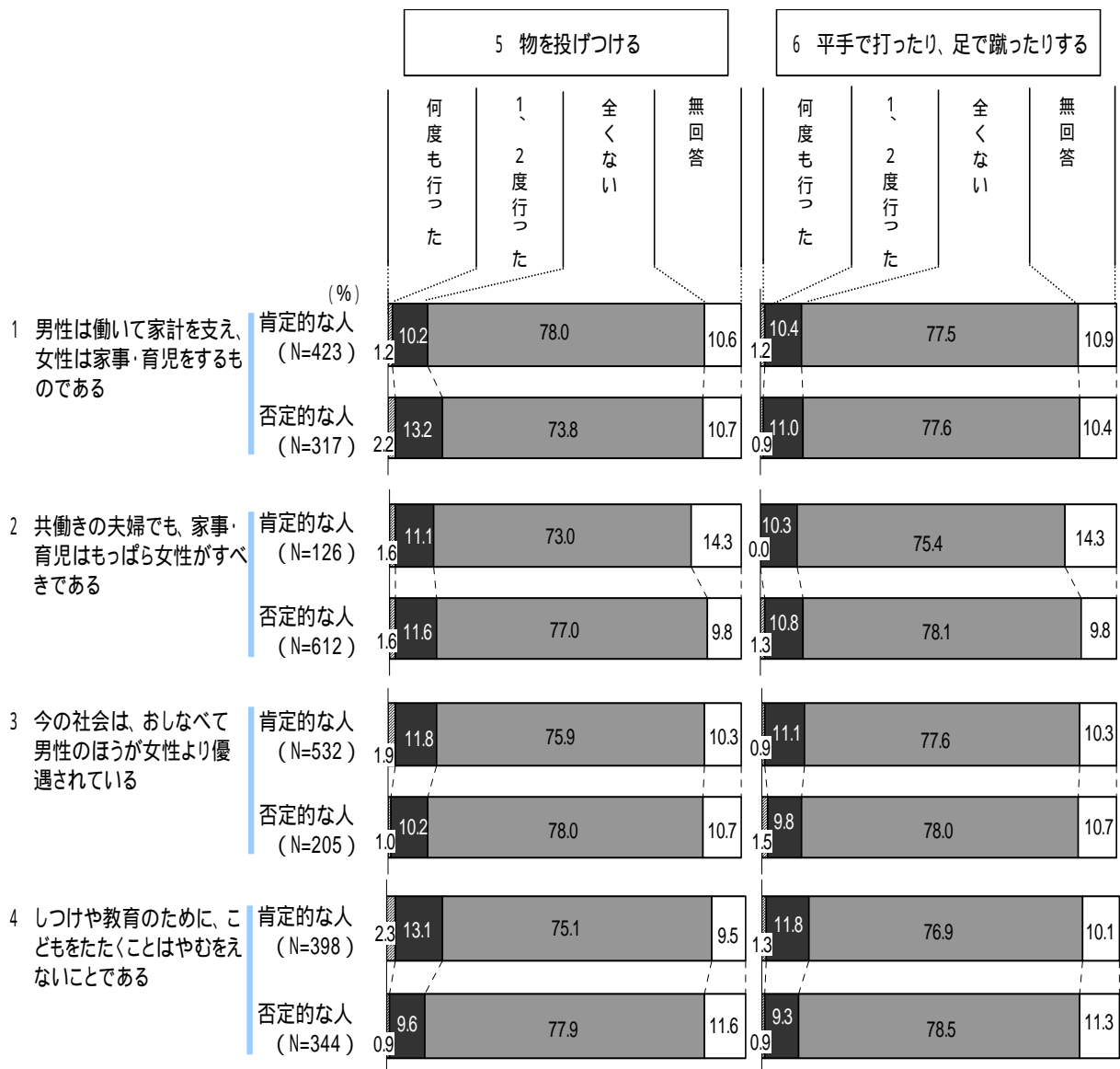
図表 2 - 62 暴力等の加害経験（男女の役割意識等別）



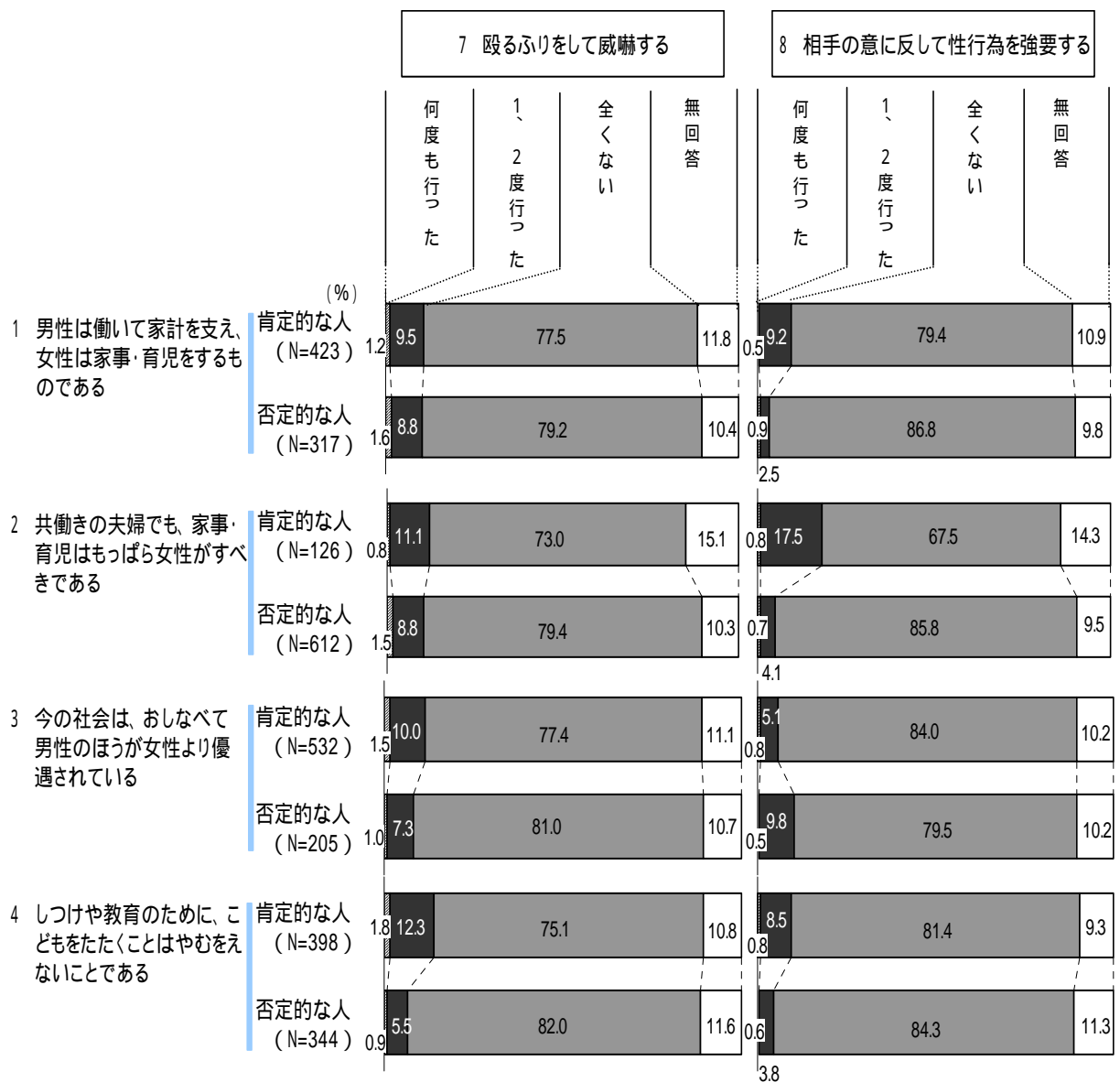
図表 2 - 63 暴力等の加害経験（男女の役割意識等別）



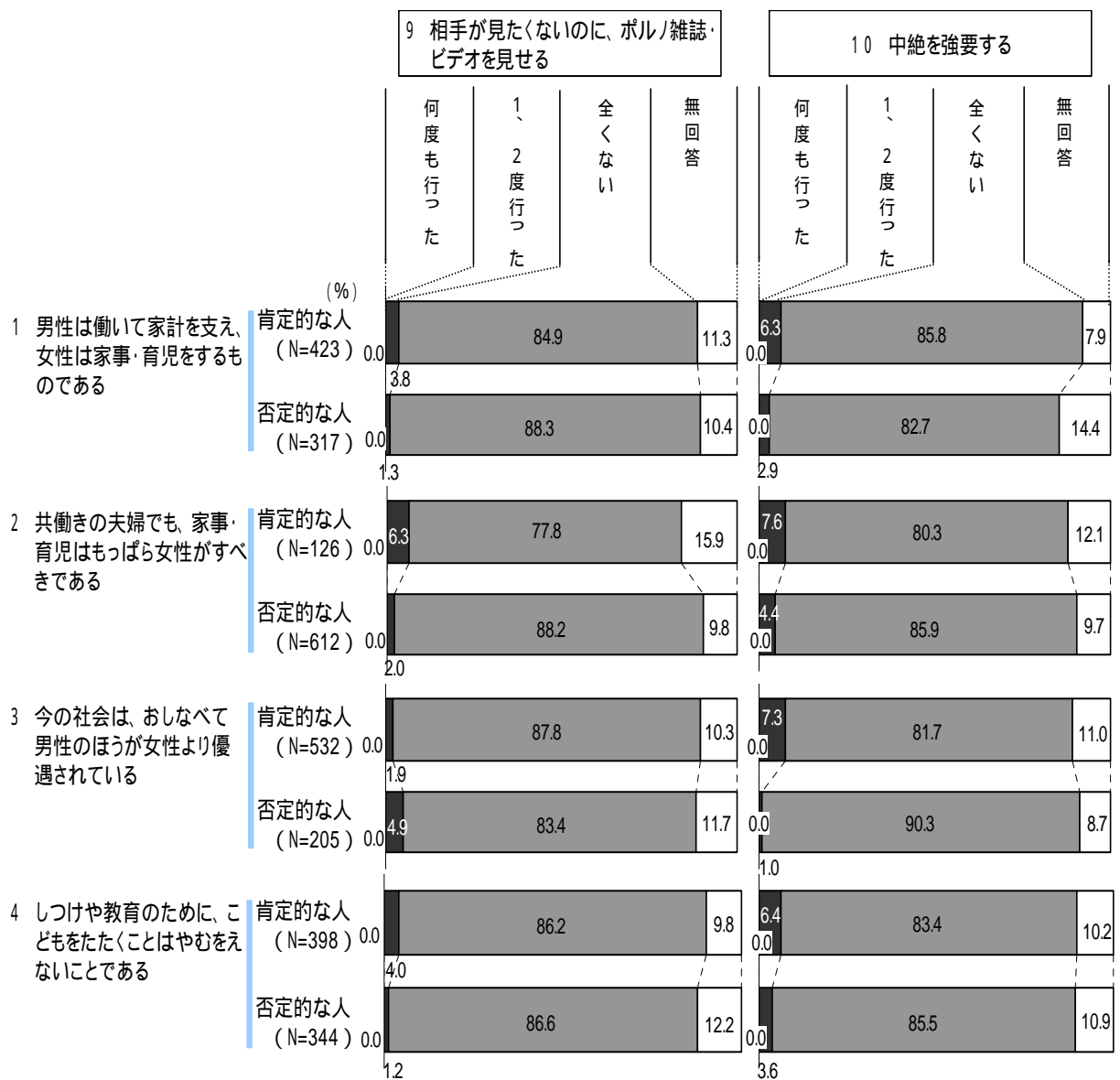
図表 2 - 64 暴力等の加害経験（男女の役割意識等別）



図表 2 - 65 暴力等の加害経験（男女の役割意識等別）

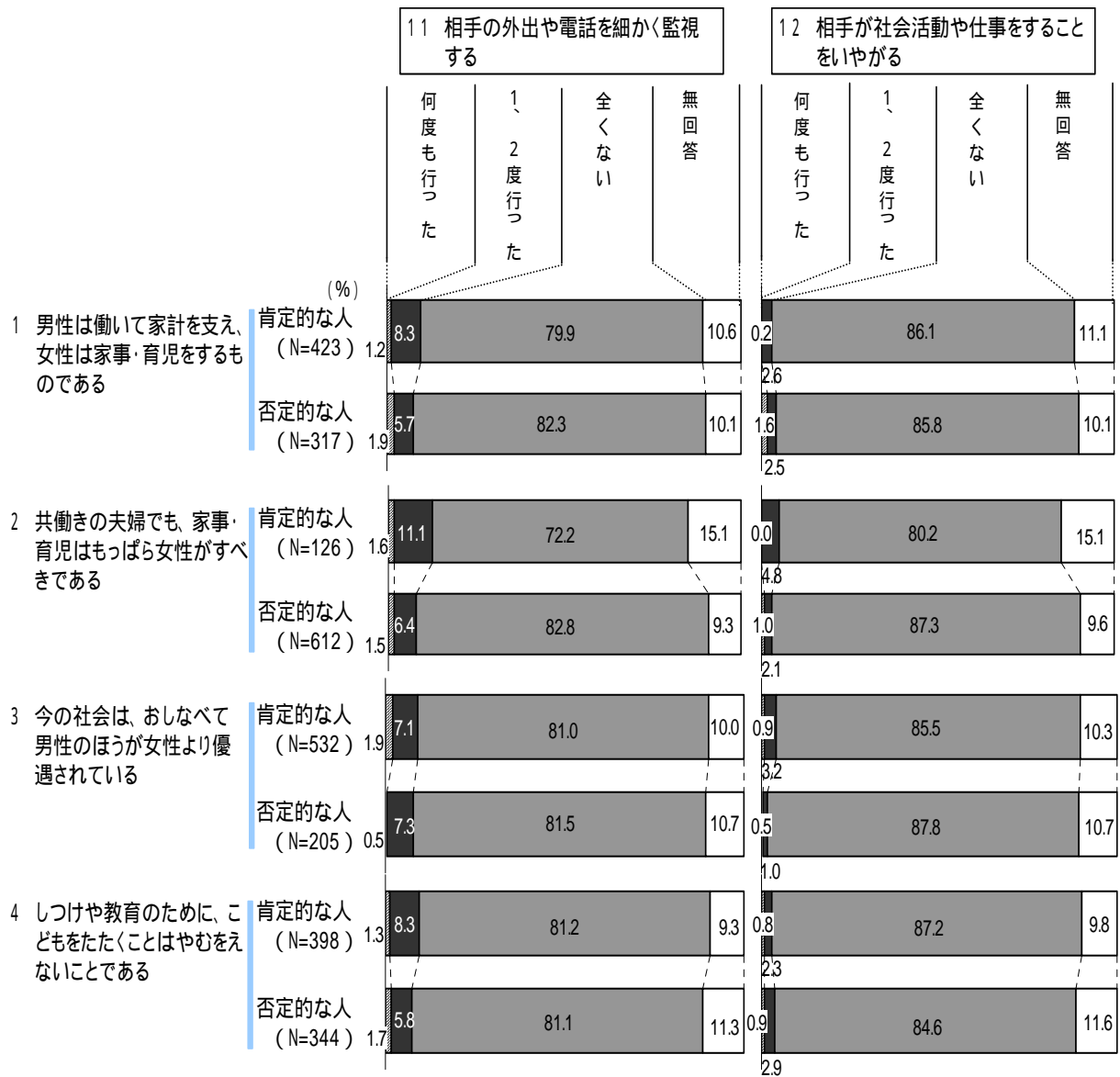


図表 2 - 66 暴力等の加害経験（男女の役割意識等別）



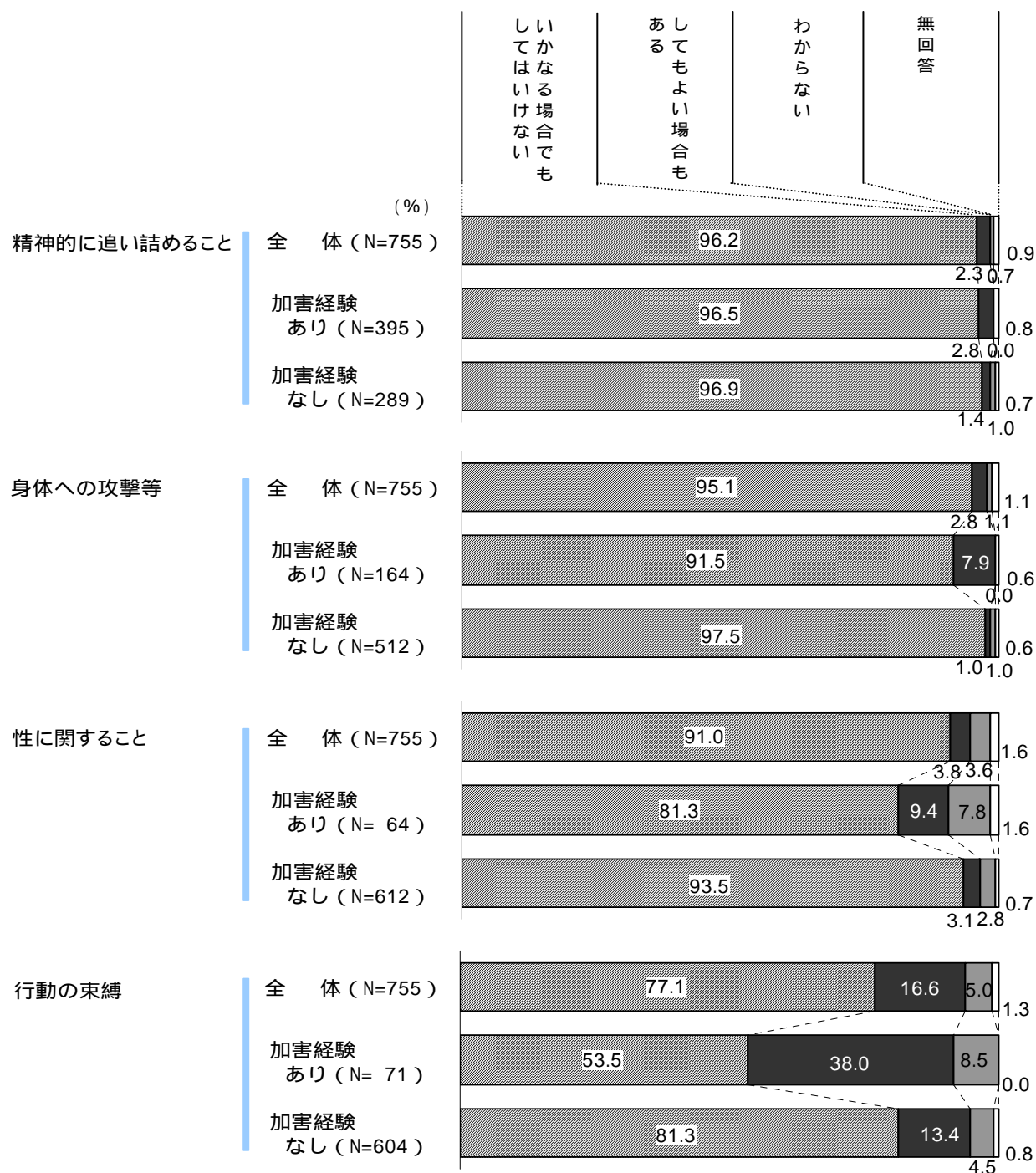


図表 2 - 67 暴力等の加害経験（男女の役割意識等別）



暴力等の意識を暴力等の加害経験別にみると、精神的に追い詰めること・身体への攻撃等・性に関すること の加害経験の有無では大きな意識の差はみられない。行動の束縛で、『加害経験あり』と回答した人は「してもよい場合もある」(38.0%)との意識が、『加害経験なし』(13.4%)と回答した人よりも高くなっている。

図表 2 - 68 暴力等の意識 (暴力等の加害経験別)



「加害経験あり」、「加害経験なし」について問11の12項目のいずれかで、『何度も行った』、『1、2度行った』との回答を「加害経験あり」、『全くない』は「加害経験なし」とし、各カテゴリー（精神的に追い詰めること・身体への攻撃等・性に関すること・行動の束縛）ごとにN値・%を算出している。

(7) 暴力等を行った原因

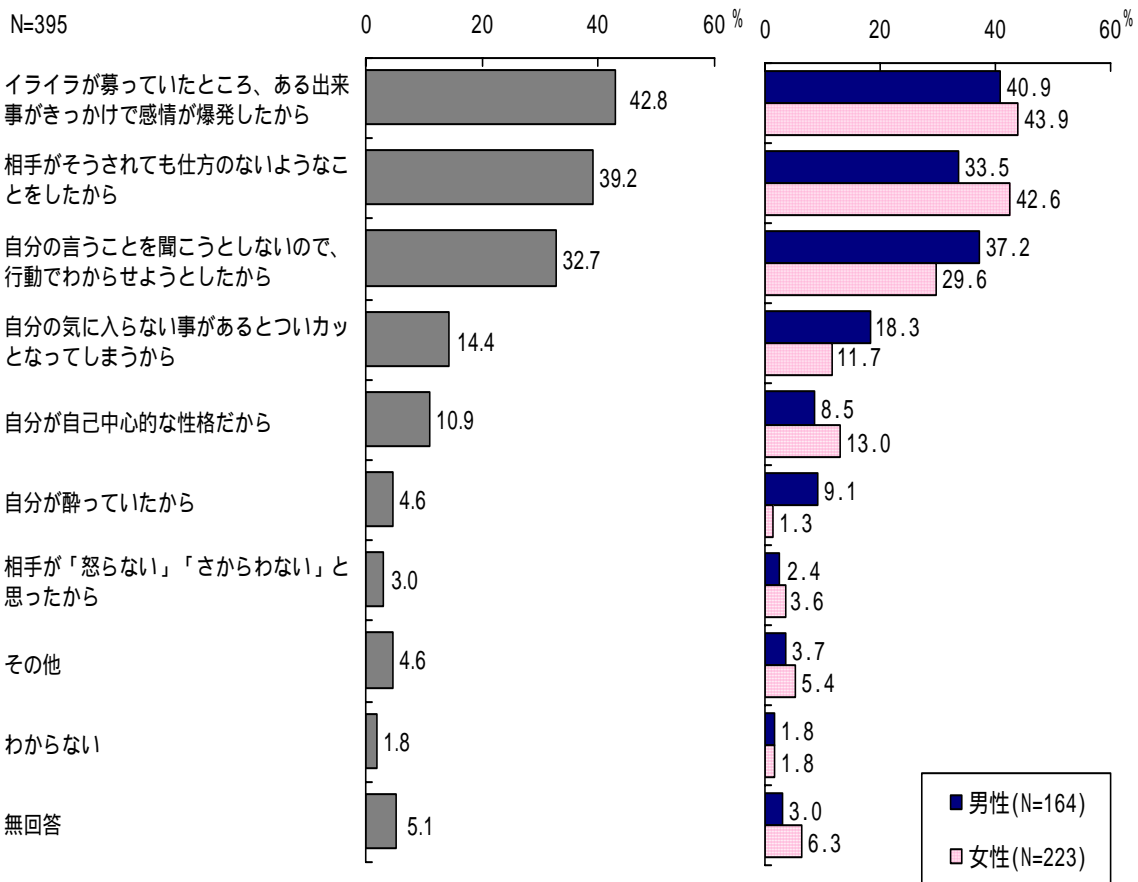
「精神的に追い詰めること」を行った理由

問12 問11における行為を行った原因は何だと思えますか。

それぞれ、問12-1~3にお答えください。

問12-1 問11で『精神的に追い詰めること』の項目で「何度も行った」、「1、2度行った」のいずれかに1つでもつけた方は、その原因を何だと思えますか。(はいくつでも)

図表2-69 「精神的に追い詰めること」を行った原因(男女別)



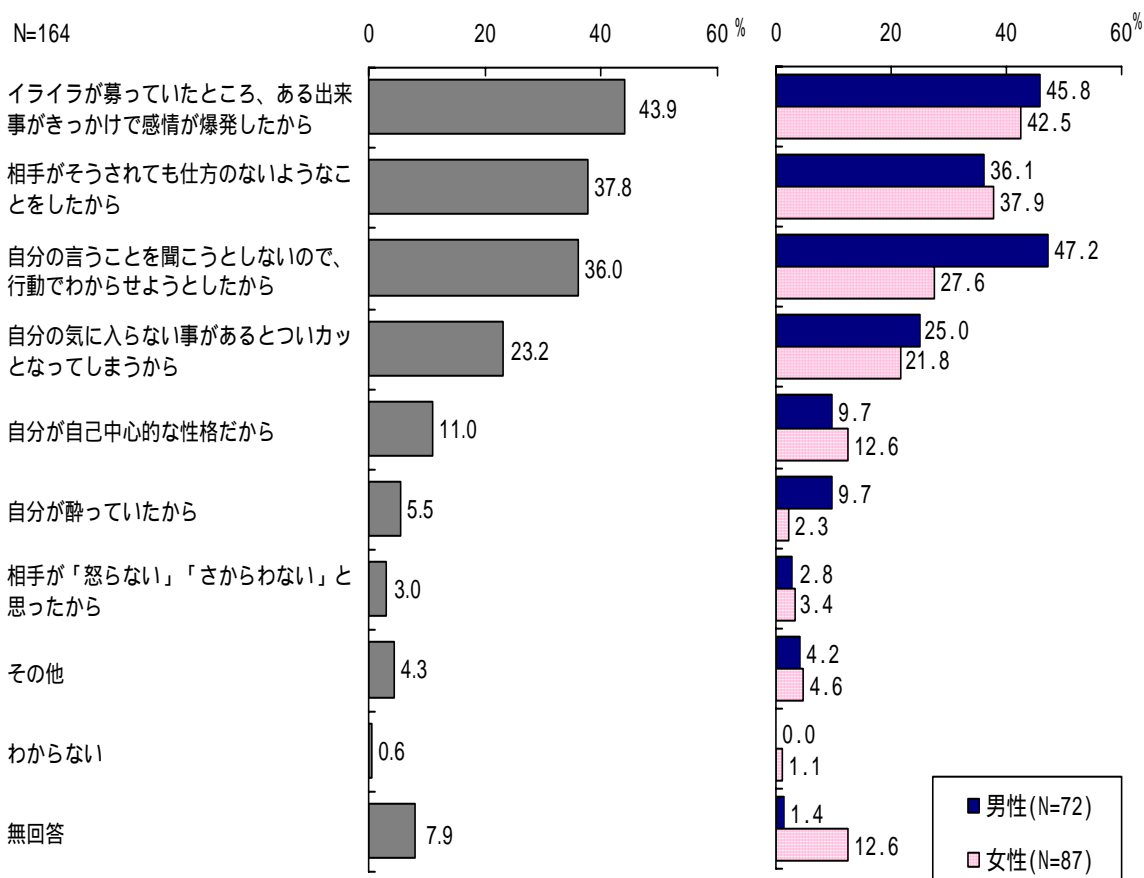
精神的に追い詰めることを行った原因についてたずねたところ、「イライラが募っていたところ、ある出来事がきっかけで感情が爆発したから」(42.8%)が最も多く、次に「相手がそうされても仕方のないようなことをしたから」(39.2%)、「自分の言うことを聞こうとしないので、行動でわからせようとしたから」(32.7%)が続いている。

男女別にみると、男性は「自分の言うことを聞こうとしないので、行動でわからせようとしたから」、「自分の気に入らない事があるとついカッとなってしまうから」、「自分が酔っていたから」で女性を上回り、女性は「イライラが募っていたところ、ある出来事がきっかけで感情が爆発したから」、「相手がそうされても仕方のないようなことをしたから」で男性を上回っている。

## 「身体への攻撃等」を行った理由

問12 - 2 問11で『身体への攻撃等』の項目で「何度も行った」、「1、2度行った」のいずれかに1つでもつけた方は、その原因を何だと思えますか。  
(はいくつでも)

図表2-70 「身体への攻撃等」を行った原因(男女別)



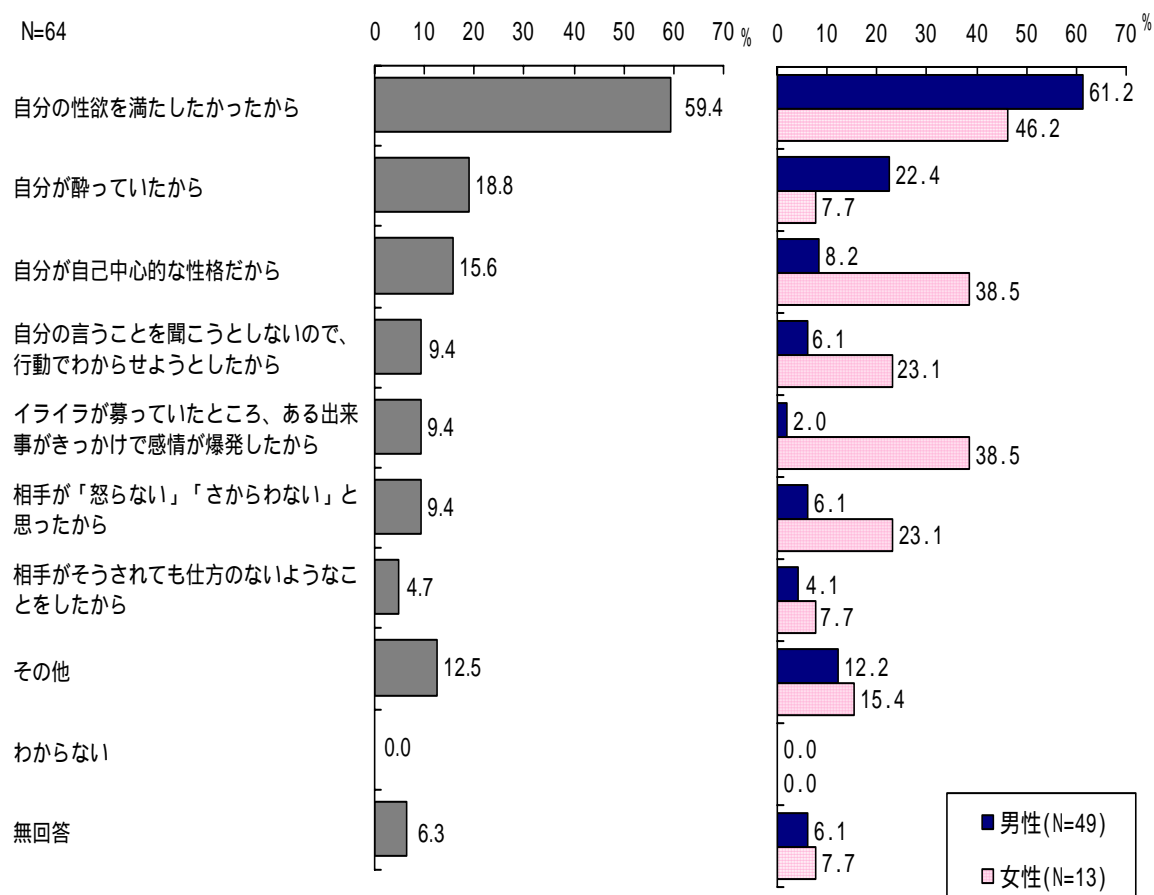
身体への攻撃等を行った原因についてたずねたところ、「イライラが募っていたところ、ある出来事がきっかけで感情が爆発したから」(43.9%)が最も多く、次に「相手がそうされても仕方のないようなことをしたから」(37.8%)、「自分の言うことを聞こうとしないので、行動でわからせようとしたから」(36.0%)が続いている。

男女別にみると、男性は「自分の言うことを聞こうとしないので、行動でわからせようとしたから」(47.2%)が5割近くで女性を19ポイント上回っており、女性は「イライラが募っていたところ、ある出来事がきっかけで感情が爆発したから」(42.5%)が最も多く、次に「相手がそうされても仕方のないようなことをしたから」(37.9%)が続いている。

## 「性に関すること」を行った理由

問12 - 3 問11で『性に関すること』の項目で「何度も行った」、「1、2度行った」のいずれかに1つでも つけた方は、その原因を何だと思えますか。  
(はいくつでも)

図表2 - 71 「性に関すること」を行った原因(男女別)



性に関することを行った原因についてたずねたところ、「自分の性欲を満たしたかったから」(59.4%)が最も多いほか、「自分が酔っていたから」(18.8%)や「自分が自己中心的な性格だから」(15.6%)などとなっている。

男女別にみると、「自分の性欲を満たしたかったから」が男女ともに最も多く、男性(61.2%)が女性(46.2%)よりも多くなっている。

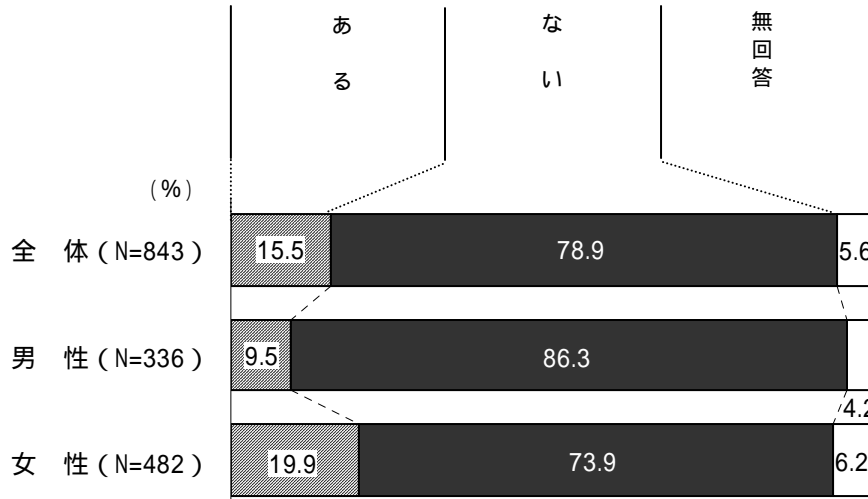
その他、男性では「自分が酔っていたから」(22.4%)が続き、女性では「自分が自己中心的な性格だから」、「イライラが募っていたところ、ある出来事がきっかけで感情が爆発したから」(各38.5%)と続いている。

### 3. 配偶者やパートナー間での暴力等の相談や体験について

#### (1) 暴力等に関して相談を受けた経験

問13 あなたは配偶者やパートナー間での暴力等の行為について、どなたからか相談を受けたことはありますか。( は1つ)

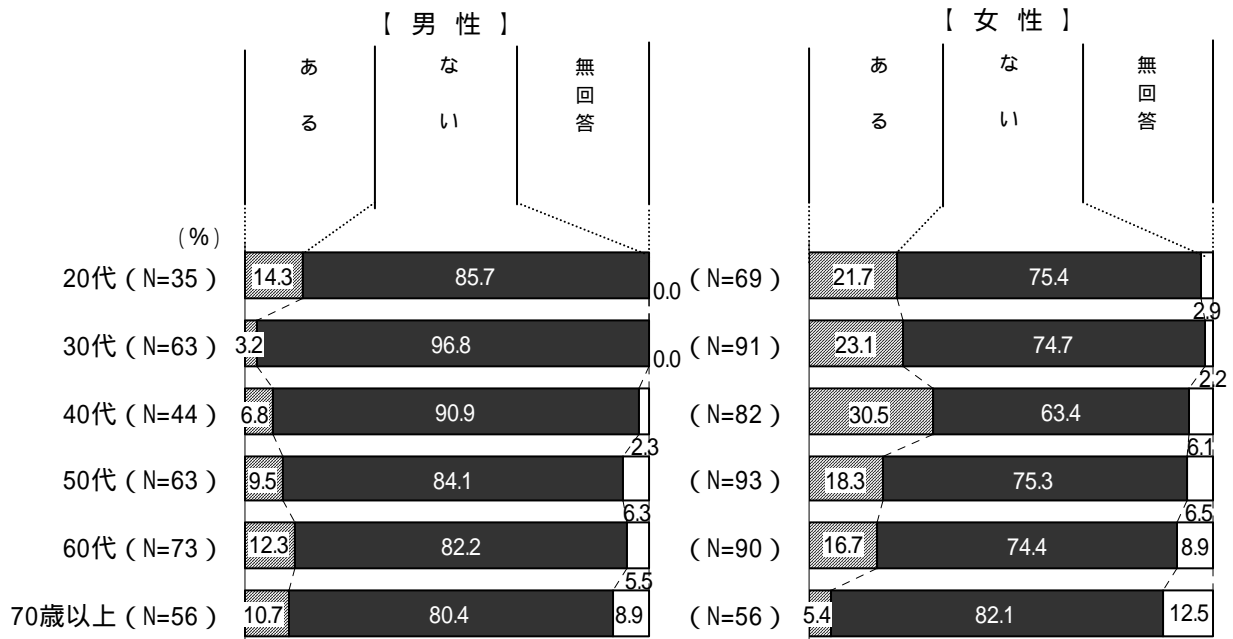
図表3-1 暴力等に関して相談を受けた経験(男女別)



配偶者やパートナー間での暴力等について、他者から相談を受けたことが「ある」人は15.5%となっている。

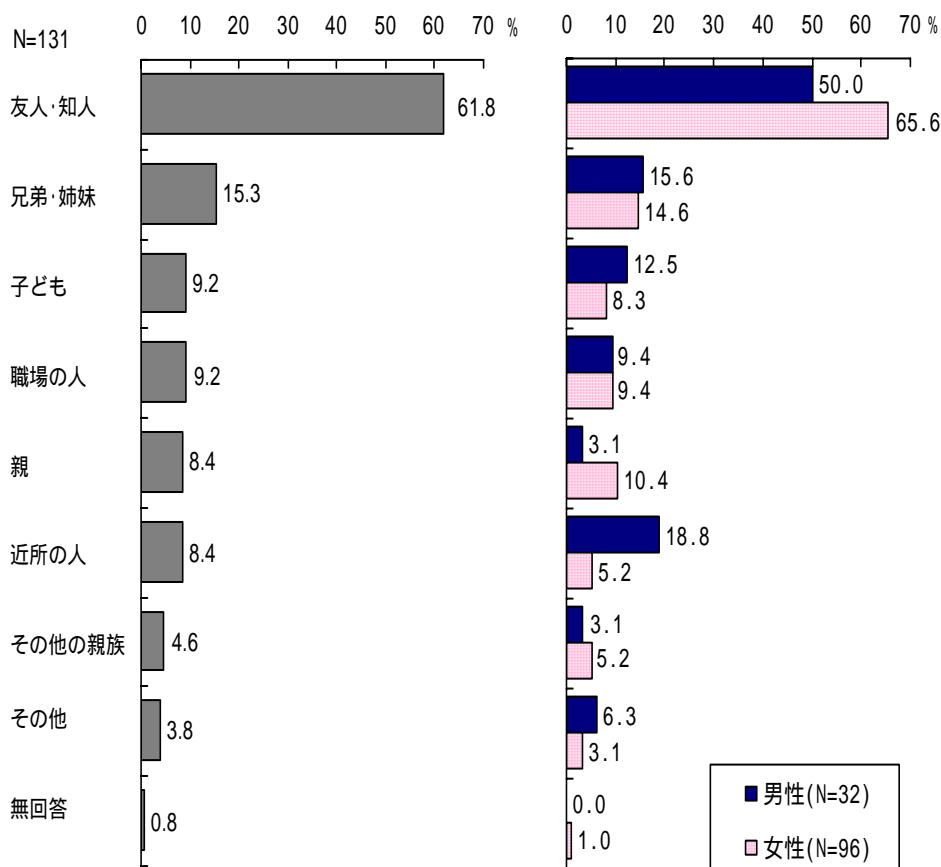
性・年代別では、20～40代の女性で相談を受けたことが「ある」人が2～3割と、他の性・年代より多くなっている。

図表3-2 暴力等に関して相談を受けた経験(性・年代別)



(問13で「1.ある」と答えた方)  
 問13-1 それはどなたからですか。(はいくつでも)

図表3-3 相談を受けた相手(男女別)



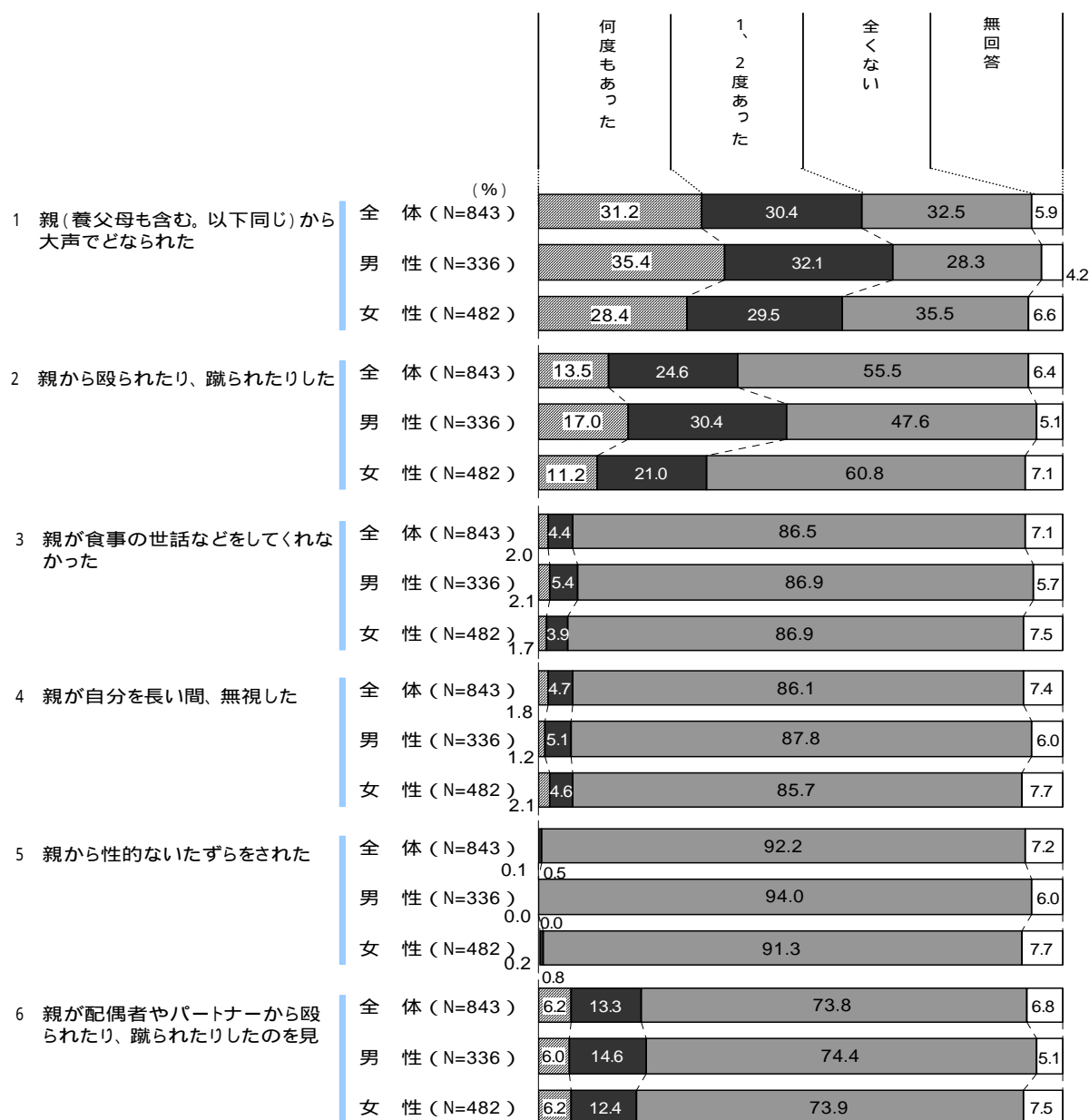
誰から相談を受けたのかとたずねたところ、「友人・知人」(61.8%)が最も多くなっている。

男女別にみると、男性では「友人・知人」(50.0%)が最も多く、次に「近所の人」(18.8%)、「兄弟・姉妹」(15.6%)が続いている。女性では「友人・知人」(65.6%)が最も多く、次に「兄弟・姉妹」(14.6%)、「親」(10.4%)となっている。

## (2) 子どもの頃の経験

問14 子どもの頃を振り返って、次のような経験がありましたか。(それぞれは1つ)

図表3-4 子どもの頃の経験(男女別)



子どもの頃の暴力等に関する経験についてたずねたところ、以下ようになった。

〔親(養父母も含む。以下同じ)から大声でどなられた〕では、「何度もあった」と「1、2度あった」をあわせた『あった』(以下同じ)が男女ともに約6割となっている。

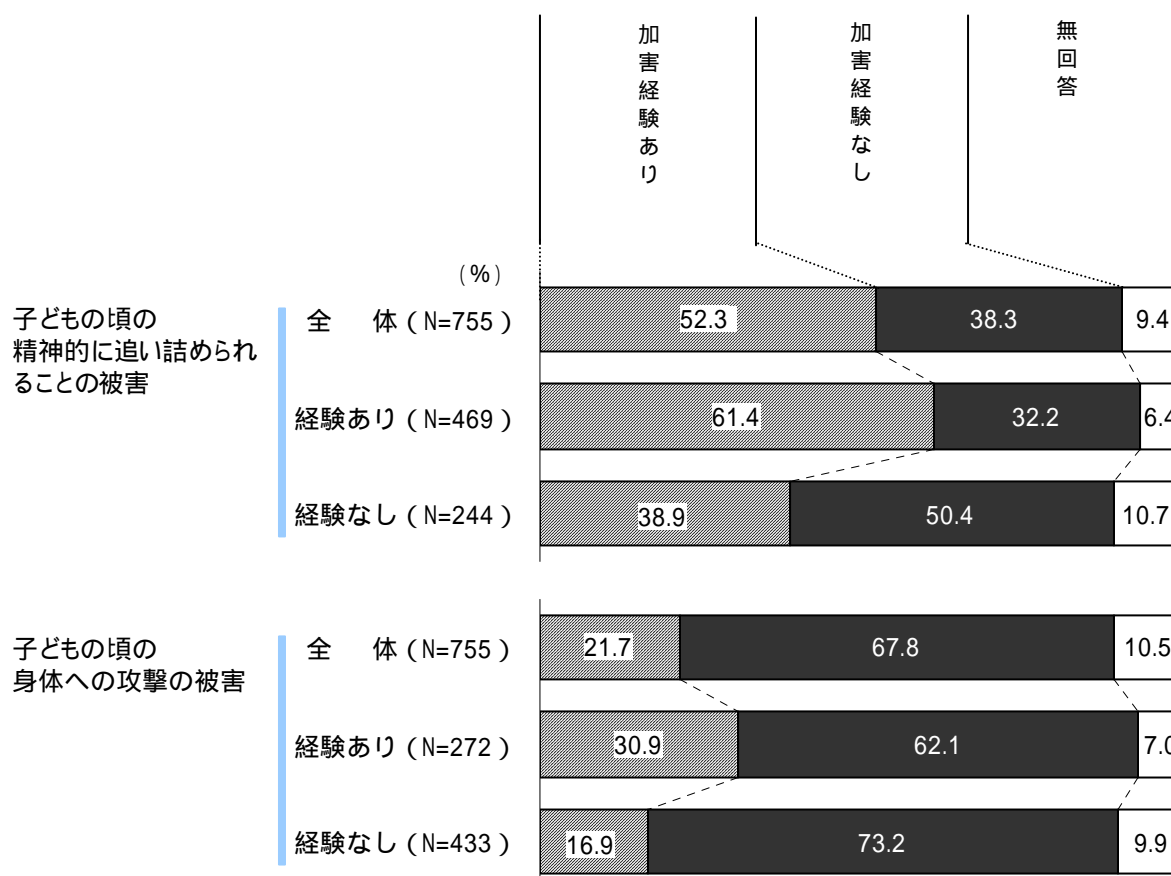
〔親から殴られたり、蹴られたりした〕では男性の約5割、女性の約3割が『あった』と回答している。

また〔親が配偶者やパートナーから殴られたり、蹴られたりしたのを見た〕では、男女とも2割前後が『あった』と回答している。



暴力等の加害経験を子どもの頃の被害経験別にみると、子どもの頃の精神的に追い詰められることの被害、子どもの頃の身体への攻撃の被害で『経験あり』の人は、『経験なし』の人に比べ「加害経験あり」と回答する割合が高く、子どもの頃の経験と大人になったときの暴力等の行為との関連がうかがえる。

図表 3 - 5 暴力等の加害経験（子どもの頃の被害経験別）



子どもの頃の経験について

〔精神的に追い詰められる

ことの被害〕

= 「1 親から大声でどなられた」

= 「4 親が自分を長い間、無視した」

= 「6 親が配偶者やパートナーから殴られたり、蹴られたりしたのを見た」

〔身体への攻撃の被害〕 = 「2 親から殴られたり、蹴られたりした」

をカテゴリーとし、『何度もあった』、『1、2度あった』との回答は「経験あり」、

『全くなかった』は「経験なし」として、N値・%を算出している。

「加害経験あり」、「加害経験なし」について

問 11 の 12 項目のいずれかで、『何度も行った』、『1、2度行った』との回答を「加害経験あり」、

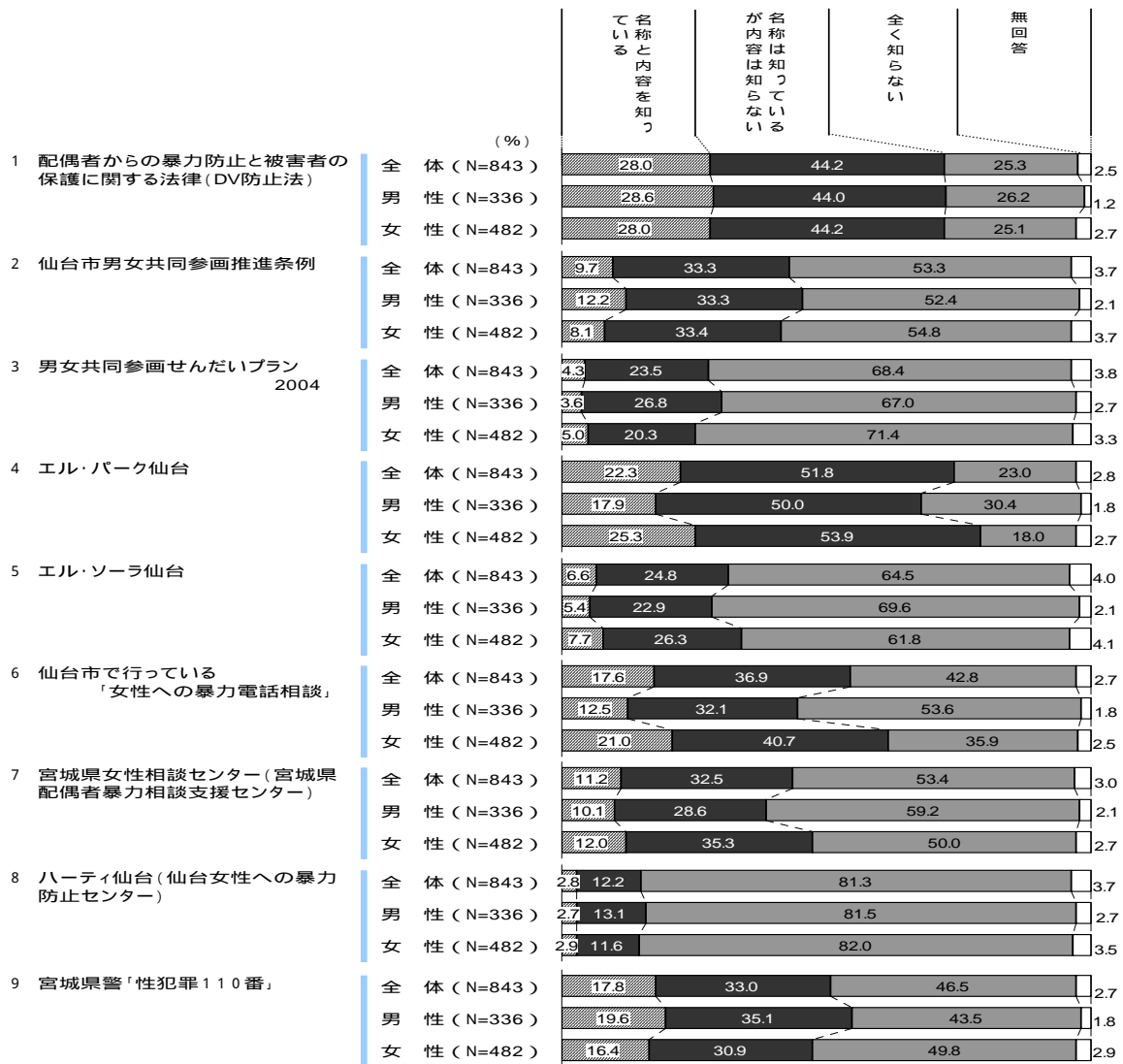
『全くない』は「加害経験なし」とし、各カテゴリー（精神的に追い詰めること・身体への攻撃等・性に関すること・行動の束縛）ごとにN値・%を算出している。

## 4. 配偶者やパートナー間での暴力等に関する法律や

### 施設の認知度について

問15 あなたは次のような法律や仙台市、宮城県及び民間団体の施設などを知っていますか。(それぞれは1つ)

図表4-1 法律や施設などの認知度(男女別)



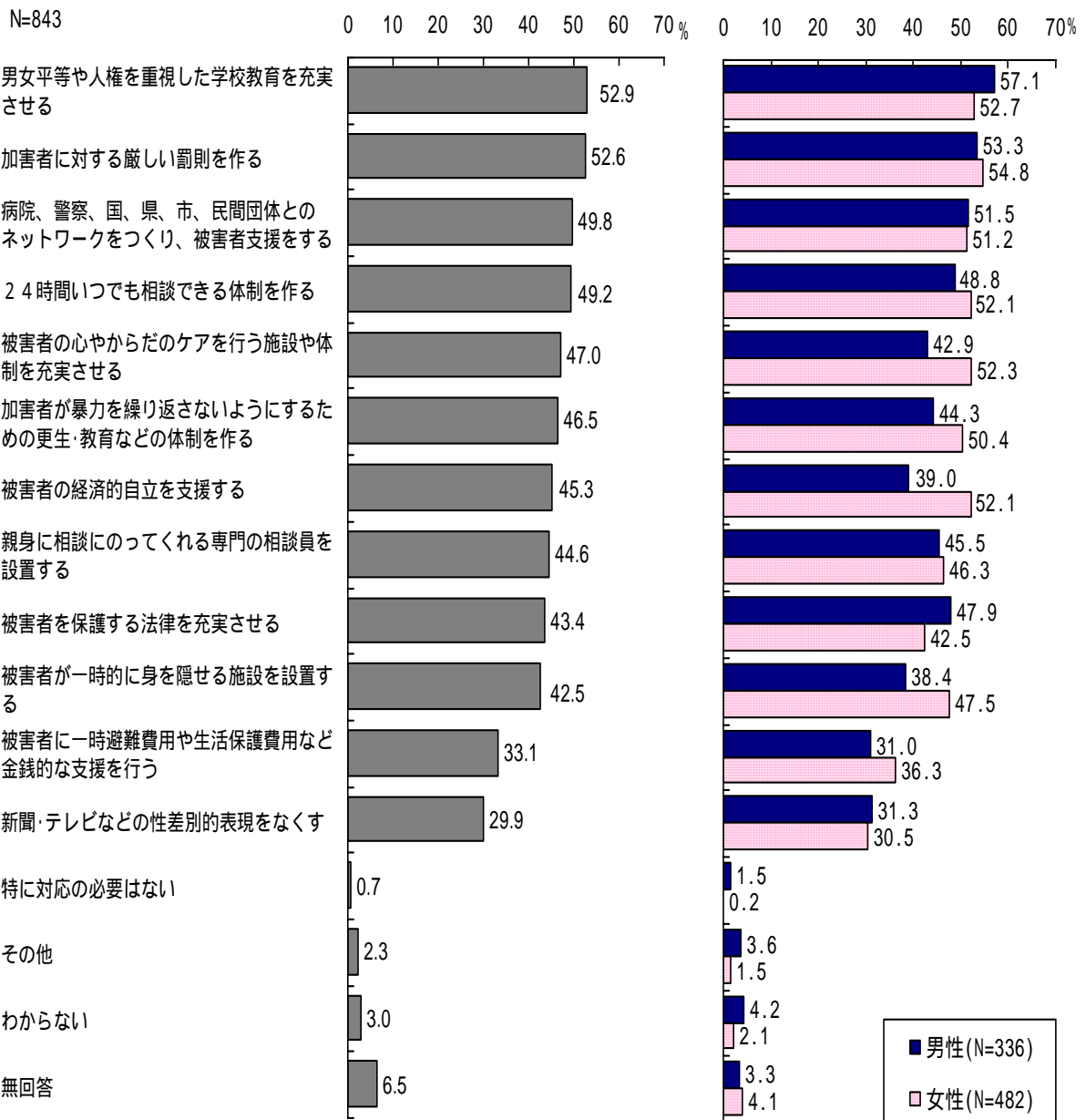
配偶者やパートナー間での暴力等に関する法律や施設の認知度についてたずねたところ、〔配偶者からの暴力防止と被害者の保護に関する法律(DV防止法)〕、〔エル・パーク仙台〕では、「名称と内容を知っている」と「名称は知っているが内容は知らない」をあわせた『知っている』が7割以上となっている。以下、〔仙台市で行っている「女性への暴力電話相談」〕、〔宮城県警『性犯罪110番』〕は5割、〔仙台市男女共同参画推進条例〕、〔宮城県女性相談センター(宮城県配偶者暴力支援センター)〕は4割以上の認知度となっている。

また、平成15年に開設し、女性相談事業を行っている〔エル・ソーラ仙台〕の認知度は3割程度にとどまるなど、施設や相談窓口についての認知度は十分とはいえない。

## 5. 配偶者やパートナー間での暴力等防止対策について

問16 配偶者やパートナー間での暴力をなくし、新しいパートナーシップを築くために、これからどのような対策が必要になるとお考えですか。(はいいくつでも)

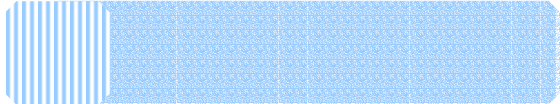
図表5-1 配偶者やパートナー間での暴力等の防止対策(男女別)



配偶者やパートナー間での暴力等防止の対策についてたずねたところ、「男女平等や人権を重視した学校教育を充実させる」(52.9%)が5割以上と最も多い。次いで、「加害者に対する厳しい罰則を作る」(52.6%)となっている。また、「加害者が暴力を繰り返さないようにするための更生・教育などの体制を作る」(46.5%)も4割以上と、加害者への対策を求める項目が上位に挙げられている。

また、「病院、警察、国、県、市、民間団体とのネットワークをつくり、被害者支援をする」(49.8%)、「24時間いつでも相談できる体制を作る」(49.2%)など、被害者への援助を求める項目は5割弱となっている。

男女別にみると、「24時間いつでも相談できる体制を作る」や、「被害者の心やからだのケアを行う施設や体制を充実させる」、「被害者の経済的自立を支援する」など被害者への支援に関する項目では男性よりも女性のほうが多くなっている。



資料

# 配偶者やパートナーとの日常生活に関する調査

～配偶者やパートナー間での暴力等について～

はじめに、男女の役割に関する日頃の意識などについておたずねします。

問1 次にあげる考え方について、あなたはどのように思いますか。(それぞれは1つ)

N=843

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
1	男性は働いて家計を支え、女性は家事・育児をするものである	1 (12.1)	2 (42.0)	3 (19.5)	4 (24.6)
2	共働きの夫婦でも、家事・育児はもっぱら女性がすべきである	1 ( 2.5)	2 (13.0)	3 (31.6)	4 (50.8)
3	今の社会は、おしなべて男性のほうが女性より優遇されている	1 (26.1)	2 (42.6)	3 (16.4)	4 (12.7)
4	しつけや教育のために、子どもをたたくことはやむをえないことである	1 (17.4)	2 (35.5)	3 (22.5)	4 (22.9)

問2 あなたには「配偶者やパートナー」がいますか。( は1つ) N=843

配偶者やパートナーとは「夫、妻、前夫、前妻、同棲相手、恋人、元恋人」など、一定期間親密な関係のある(あった)相手をさします。

(89.6) 1. いる(いた)  
( 0.6) 無回答

( 9.8) 2. いない → 問3にお進みください

(問2で「1. いる(いた)」と答えた方のみお答えください)

問2 - 1 あなたはその配偶者やパートナーと同居しています(いました)か。

( は1つ) N=755

(84.8) 1. 同居している(同居していた)  
( 5.8) 無回答

( 9.4) 2. 別居している(別居していた)

→ 問3にお進みください

(問2 - 1で「1. 同居している(同居していた)」と答えた方のみお答えください)

問2 - 2 次にあげる項目について、配偶者やパートナー間の役割をどうなさっています(いました)か。(それぞれ は1つ) N=640

		主に男性が担う	主に女性が担う	男女が共同で担う	その他
1	家計を支える	1 (65.8)	2 ( 3.9)	3 (29.4)	4 ( 0.6)
2	生活費を管理する	1 ( 6.6)	2 (70.9)	3 (20.9)	4 ( 0.9)
3	家事や子育て、介護を行う	1 ( 0.2)	2 (56.4)	3 (40.5)	4 ( 1.6)
4	高額な商品の購入を決定する	1 (21.7)	2 ( 6.9)	3 (69.2)	4 ( 1.4)

再び、全ての方にお伺いします

問3 あなたの理想としては次にあげる項目について、配偶者やパートナー間の役割をどのようにするのが良いと思いますか。(それぞれは1つ) N=843

		主に男性が担う	主に女性が担う	男女が共同で担う	その他
1	家計を支える	1 (47.1)	2 ( 3.1)	3 (46.5)	4 ( 1.1)
2	生活費を管理する	1 ( 2.3)	2 (51.6)	3 (41.3)	4 ( 2.5)
3	家事や子育て、介護を行う	1 ( 0.2)	2 (14.9)	3 (81.9)	4 ( 0.9)
4	高額な商品の購入を決定する	1 (10.1)	2 ( 2.1)	3 (84.2)	4 ( 1.1)



配偶者やパートナー間での暴力等に関する意識についておたずねします。

問4 「配偶者やパートナー」間で行われる次のような行為について、あなたはどうか  
 思いますか。(それぞれ は1つ) N=843

配偶者やパートナーとは「夫、妻、前夫、前妻、同棲相手、恋人、元恋人」など、  
 一定期間親密な関係のある(あった)相手をさします。配偶者やパートナーがいない  
 場合は、いると仮定してお答え下さい。

		いかなる場合でも してはいけない	ある してもよい場合も	わからない	
精神的に追い詰めること	1	相手が話しかけても長い間無視する	1 (56.6)	2 (33.9)	3 (7.6)
	2	相手を大声でどなる	1 (46.4)	2 (43.1)	3 (7.8)
	3	相手に「誰のおかげで生活できるんだ」、「かいしょうなし」 などと言う	1 (86.7)	2 (5.6)	3 (5.1)
	4	相手の大切にしているものを捨てたり、壊したりする	1 (92.2)	2 (2.6)	3 (2.8)
身体への攻撃等	5	物を投げつける	1 (91.3)	2 (4.7)	3 (2.4)
	6	平手で打ったり、足で蹴ったりする	1 (91.0)	2 (4.3)	3 (2.5)
	7	殴るふりをして威嚇する	1 (79.2)	2 (14.7)	3 (3.9)
性に関すること	8	相手の意に反して性行為を強要する	1 (80.8)	2 (6.3)	3 (10.9)
	9	相手が見たくないのに、ポルノ雑誌・ビデオを見せる	1 (82.0)	2 (4.9)	3 (10.6)
	10	中絶を強要する	1 (77.3)	2 (9.7)	3 (10.2)
行動の束縛	11	相手の外出や電話を細かく監視する	1 (66.4)	2 (24.1)	3 (7.8)
	12	相手が社会活動や仕事をするをいやがる	1 (59.7)	2 (23.6)	3 (14.5)

配偶者やパートナー間での暴力等の行為をされた経験などについておたずねします。

問2で配偶者やパートナーが「2. いない」と答えた方は、  
12ページの間13にお進みください。

問5 あなたは「配偶者やパートナー」から次のような行為をされたことがありますか。  
(それぞれ は1つ) N=755

配偶者やパートナーとは「夫、妻、前夫、前妻、同棲相手、恋人、元恋人」など、  
一定期間親密な関係のある(あった)相手をさします。

		何度もされた	1、2度された	全くない	
精神的に追い詰めること	1	あなたが話しかけても長い間無視する	1 (7.4)	2 (28.3)	3 (55.4)
	2	あなたを大声でどなる	1 (12.5)	2 (31.4)	3 (47.8)
	3	あなたに「誰のおかげで生活できるんだ」、「かいしょうなし」などと言う	1 (3.3)	2 (10.2)	3 (78.1)
	4	あなたの大切にしているものを捨てたり、壊したりする	1 (1.5)	2 (7.2)	3 (83.0)
身体への攻撃等	5	物を投げつける	1 (2.6)	2 (13.9)	3 (75.2)
	6	平手で打ったり、足で蹴ったりする	1 (3.0)	2 (12.1)	3 (76.4)
	7	殴るふりをして威嚇する	1 (4.5)	2 (13.6)	3 (73.1)
性に関すること	8	あなたの意に反して性行為を強要する	1 (4.1)	2 (14.6)	3 (72.7)
	9	あなたが見たくないのに、ポルノ雑誌・ビデオを見せる	1 (0.8)	2 (5.0)	3 (85.4)
	10	<女性のみお答えください>中絶を強要する	1 (0.5)	2 (3.7)	3 (86.1)
行動の束縛	11	あなたの外出や電話を細かく監視する	1 (4.2)	2 (11.3)	3 (76.4)
	12	あなたが社会活動や仕事をすることをいやがる	1 (3.4)	2 (8.7)	3 (79.3)

問5で1つでも行為をされたと答えた方は、以下、問6～10にお進みください。  
全ての項目で、『全くない』と答えた方は、10ページの問11にお進みください。

問6 問5における行為をされた原因は何だと思えますか。

それぞれ、問6 - 1～3にお答えください。

問6 - 1 問5で『精神的に追い詰めること』の項目で「何度もされた」、「1、2度された」のいずれかに1つでもつけた方は、その原因を何だと思えますか。(はいいくつでも) N=431

- (27.6) 1. 相手の言うことを聞こうとしなかったから
- (30.6) 2. 相手が仕事などで疲れてイライラしていたから
- (11.6) 3. 相手が酔っていたから
- (23.7) 4. 相手は自分の気に入らないことがあるとついカッとなってしまうから
- (20.9) 5. 相手が自己中心的な性格だから
- (7.2) 6. 相手があなたなら「怒らない」「さからわない」と思ったから
- (29.5) 7. 自分がそうされても仕方のないようなことをしたから
- (7.4) 8. その他(具体的に )
- (3.7) 9. わからない (8.8) 無回答

問6 - 2 問5で『身体への攻撃等』の項目で「何度もされた」、「1、2度された」のいずれかに1つでもつけた方は、その原因を何だと思えますか。

(はいいくつでも) N=213

- (31.9) 1. 相手の言うことを聞こうとしなかったから
- (30.0) 2. 相手が仕事などで疲れてイライラしていたから
- (18.3) 3. 相手が酔っていたから
- (15.5) 4. 相手は自分の気に入らないことがあると暴力で解決しようとするから
- (28.2) 5. 相手が自己中心的な性格だから
- (7.5) 6. 相手があなたなら「怒らない」「さからわない」と思ったから
- (27.7) 7. 自分がそうされても仕方のないようなことをしたから
- (5.2) 8. その他(具体的に )
- (1.4) 9. わからない (6.1) 無回答

問6 - 3 問5で『性に関すること』の項目で「何度もされた」、「1、2度された」のいずれかに1つでもつけた方は、その原因を何だと思えますか。

(はいいくつでも) N=154

- (16.9) 1. 相手の言うことを聞こうとしなかったから
- (9.7) 2. 相手が仕事などで疲れてイライラしていたから
- (14.9) 3. 相手が酔っていたから
- (53.9) 4. 相手が自分の性欲を満たしたかったから
- (22.1) 5. 相手が自己中心的な性格だから
- (11.0) 6. 相手があなたなら「怒らない」「さからわない」と思ったから
- (3.9) 7. 自分がそうされても仕方のないようなことをしたから
- (3.9) 8. その他(具体的に )
- (4.5) 9. わからない (10.4) 無回答

このページと次の9ページについては、

問5で1つでも行為をされたと答えた方のみお進みください。

全ての項目で、『全くない』と答えた方は、10ページの問11にお進みください。

問7 あなたは問5における行為をされたとき、どのようにしたいと思われましたか。

( はいくつでも ) N=466

- (33.3) 1. がまんするしかないと思った
- (10.7) 2. 身近な人に相談したいと思った
- (33.5) 3. 相手と話し合いたいと思った
- (18.5) 4. 離婚や別居をしたいと思った
- (8.8) 5. 経済的に困らないように仕事を得たいと思った
- (3.9) 6. 仕事を変えたり、転居してやり直したいと思った
- (17.4) 7. 人生や生き方について考え直したいと思った
- (6.2) 8. その他(具体的に )
- (1.9) 9. どのようにしてよいかわからなかった
- (17.2) 無回答

問8 あなたはその時、どのような助けがあればよいと思われましたか。( はいくつでも )

N=466

- (18.0) 1. 身近な人からの助言、援助
- (13.9) 2. 同じような経験をした人からの助言
- (7.1) 3. 法律や医療等の専門家からの助言
- (7.1) 4. いつでも相談にのってくれる窓口
- (4.3) 5. 一時的に身を隠せる安全な場所
- (10.1) 6. 金銭的な援助
- (1.7) 7. その他(具体的に )
- (43.8) 8. 特に助けは必要と思わなかった
- (18.2) 無回答

問9 あなたはこれまでそのような経験について、誰かに相談したり、打ち明けたりしたことがありますか。( は1つ ) N=466

- (28.8) 1. 相談したり、打ち明けたりしたことがある → 9ページ問9 - 1へ
- (55.6) 2. 相談したり、打ち明けたことはない → 9ページ問9 - 2へ
- (15.7) 無回答

**(問9で「1.相談したり、打ち明けたことがある」と答えた方)**

問9 - 1 具体的に誰に(どこに)相談しましたか。(はいいくつでも) N=134

- (59.0) 1.自分の親族
- (14.2) 2.相手の親族
- (64.9) 3.友人・知人
- (5.2) 4.近所の人
- (12.7) 5.職場の人
- (3.0) 6.公的な相談窓口
- (0.7) 7.民間の相談窓口
- (5.2) 8.病院などの医療機関
- (0.0) 9.警察
- (3.0) 10.その他(具体的に )

**(問9で「2.相談したり、打ち明けたことはない」と答えた方)**

問9 - 2 相談しなかった理由は何ですか。(はいいくつでも) N=259

- (77.2) 1.相談するほどのことでもないと思ったから
- (22.4) 2.我慢すればこのまま何とかやっていけると思ったから
- (9.3) 3.相談しても無駄だと思ったから
- (8.1) 4.恥ずかしくて誰にもいえなかったから
- (0.8) 5.相談したことがわかると、もっとひどいことをされと思ったから
- (2.7) 6.子どもや親、兄弟に影響があると思ったから
- (1.5) 7.誰に相談してよいかわからなかったから
- (32.8) 8.自分にも悪いところがあると思ったから
- (1.5) 9.その他(具体的に )
- (0.4) 10.わからない
- (0.8) 無回答

子どもがいる方で、問5の『身体への攻撃等』を受けたと答えた方は、

問10にお答えください。それ以外の方は、10ページの問11にお進み下さい

問10 あなたが『身体への攻撃等』を受けた時、18歳未満のお子さんはその場にいましたか。(はい1つ) N=164

(29.3) 1.いた

(53.0) 2.いない

(17.7) 無回答

**(問10で「1.いた」と答えた方)**

問10 - 1 その時お子さんはあなたと同じような行為をされましたか。(はい1つ)

N=48

(6.3) 1.された

(91.7) 2.されなかった

(2.1) 無回答

配偶者やパートナー間での暴力等の行為を行った経験などについておたずねします。

問 1 1 あなたは次にあげるような行為を、「配偶者やパートナー」に対し、実際に  
行ったことがありますか。（それぞれ は 1 つ）N=755

配偶者やパートナーとは「夫、妻、前夫、前妻、同棲相手、恋人、元恋人」など、  
一定期間親密な関係のある（あった）相手をさします。

		何 度 も 行 っ た	1、 2 度 行 っ た	全 く な い	
精神的に 追い詰めること	1	相手が話しかけても長い間無視する	1 ( 7.4 )	2 ( 28.9 )	3 ( 52.8 )
	2	相手を大声でどなる	1 ( 7.8 )	2 ( 30.2 )	3 ( 51.1 )
	3	相手に「誰のおかげで生活できるんだ」、「かいしょうなし」 などと言う	1 ( 1.5 )	2 ( 7.4 )	3 ( 80.0 )
	4	相手の大切にしているものを捨てたり、壊したりする	1 ( 0.4 )	2 ( 4.9 )	3 ( 84.0 )
身体への 攻撃等	5	物を投げつける	1 ( 1.6 )	2 ( 11.4 )	3 ( 76.2 )
	6	平手で打ったり、足で蹴ったりする	1 ( 1.1 )	2 ( 10.5 )	3 ( 77.5 )
	7	殴るふりをして威嚇する	1 ( 1.3 )	2 ( 9.0 )	3 ( 78.1 )
性に関 すること	8	相手の意に反して性行為を強要する	1 ( 0.7 )	2 ( 6.2 )	3 ( 82.5 )
	9	相手が見たくないのに、ポルノ雑誌・ビデオを見せる	1 ( 0.0 )	2 ( 2.6 )	3 ( 86.1 )
	10	<男性のみお答えください>中絶を強要する	1 ( 0.0 )	2 ( 5.0 )	3 ( 84.1 )
行動の 束縛	11	相手の外出や電話を細かく監視する	1 ( 1.5 )	2 ( 7.0 )	3 ( 80.9 )
	12	相手が社会活動や仕事をするをいやがる	1 ( 0.8 )	2 ( 2.5 )	3 ( 85.7 )

問11で1つでも行為を行ったと答えた方は、以下、問12にお進みください。

全ての項目で、『全くない』と答えた方は、12ページ問13にお進みください。

問12 問11における行為を行った原因は何だと思いませんか。

それぞれ、問12-1~3にお答えください。

問12-1 問11で『精神的に追い詰めること』の項目で「何度も行った」、「1、2度行った」のいずれかに1つでもつけた方は、その原因を何だと思いませんか。(はいいくつでも) N=395

- (32.7) 1. 自分の言うことを聞こうとしないので、行動でわからせようとしたから
- (42.8) 2. イライラが募っていたところ、ある出来事がきっかけで感情が爆発したから
- (4.6) 3. 自分が酔っていたから
- (14.4) 4. 自分の気に入らない事があるとついカッとなってしまうから
- (10.9) 5. 自分が自己中心的な性格だから
- (3.0) 6. 相手が「怒らない」「さからわない」と思ったから
- (39.2) 7. 相手がそうされても仕方がないようなことをしたから
- (4.6) 8. その他(具体的に)
- (1.8) 9. わからない (5.1) 無回答

問12-2 問11で『身体への攻撃等』の項目で「何度も行った」、「1、2度行った」のいずれかに1つでもつけた方は、その原因を何だと思いませんか。(はいいくつでも) N=164

- (36.0) 1. 自分の言うことを聞こうとしないので、行動でわからせようとしたから
- (43.9) 2. イライラが募っていたところ、ある出来事がきっかけで感情が爆発したから
- (5.5) 3. 自分が酔っていたから
- (23.2) 4. 自分の気に入らない事があるとついカッとなってしまうから
- (11.0) 5. 自分が自己中心的な性格だから
- (3.0) 6. 相手が「怒らない」「さからわない」と思ったから
- (37.8) 7. 相手がそうされても仕方がないようなことをしたから
- (4.3) 8. その他(具体的に)
- (0.6) 9. わからない (7.9) 無回答

問12-3 問11で『性に関すること』の項目で「何度も行った」、「1、2度行った」のいずれかに1つでもつけた方は、その原因を何だと思いませんか。(はいいくつでも) N=64

- (9.4) 1. 自分の言うことを聞こうとしないので、行動でわからせようとしたから
- (9.4) 2. イライラが募っていたところ、ある出来事がきっかけで感情が爆発したから
- (18.8) 3. 自分が酔っていたから
- (59.4) 4. 自分の性欲を満たしたかったから
- (15.6) 5. 自分が自己中心的な性格だから
- (9.4) 6. 相手が「怒らない」「さからわない」と思ったから
- (4.7) 7. 相手がそうされても仕方がないようなことをしたから
- (12.5) 8. その他(具体的に)
- (0.0) 9. わからない (6.3) 無回答

再び、全ての方にお伺いします

配偶者やパートナー間での暴力等に関する相談・体験についておたずねします。

問 1 3 あなたは配偶者やパートナー間での暴力等の行為について、どなたからか相談を受けたことはありますか。( は 1 つ ) N=843

(15.5) 1 . あ る

(78.9) 2 . な い

( 5.6 ) 無回答

↓ (問 1 3 で「1 . あ る」と答えた方)

問 1 3 - 1 それはどなたからですか。( はいくつでも ) N=131

( 8.4 ) 1 . 親

( 9.2 ) 2 . 子ども

(15.3) 3 . 兄弟・姉妹

( 4.6 ) 4 . その他の親族

(61.8) 5 . 友人・知人

( 8.4 ) 6 . 近所の人

( 9.2 ) 7 . 職場の人

( 3.8 ) 8 . その他 ( 具体的に )

( 0.8 ) 無回答

問 1 4 子どもの頃を振り返って、次のような経験がありましたか。

(それぞれ は 1 つ ) N=843

		何度もあった	1、2度あった	全くない
1	親 ( 養父母も含む。以下同じ ) から大声でどなられた	1 ( 31.2 )	2 ( 30.4 )	3 ( 32.5 )
2	親から殴 <sup>なぐ</sup> られたり、蹴 <sup>け</sup> られたりした	1 ( 13.5 )	2 ( 24.6 )	3 ( 55.5 )
3	親が食事の世話などをしてくれなかった	1 ( 2.0 )	2 ( 4.4 )	3 ( 86.5 )
4	親が自分を長い間、無視した	1 ( 1.8 )	2 ( 4.7 )	3 ( 86.1 )
5	親から性的ないたずらをされた	1 ( 0.1 )	2 ( 0.5 )	3 ( 92.2 )
6	親が配偶者やパートナーから殴 <sup>なぐ</sup> られたり、蹴 <sup>け</sup> られたりしたのを見た	1 ( 6.2 )	2 ( 13.3 )	3 ( 73.8 )



配偶者やパートナー間での暴力等に関する法律、施設などの

認知度についておたずねします。

問 1 5 あなたは次のような法律や仙台市、宮城県及び民間団体の施設などを知っていますか。(それぞれ は1つ) N=843

		いる 名称と内容を知って	名称は知っているが 内容は知らない	全く知らない
1	配偶者からの暴力防止と被害者の保護に関する法律（DV 防止法）	1 (28.0)	2 (44.2)	3 (25.3)
2	仙台市男女共同参画推進条例	1 (9.7)	2 (33.3)	3 (53.3)
3	男女共同参画せんだいプラン 2004	1 (4.3)	2 (23.5)	3 (68.4)
4	エル・パーク仙台	1 (22.3)	2 (51.8)	3 (23.0)
5	エル・ソーラ仙台	1 (6.6)	2 (24.8)	3 (64.5)
6	仙台市で行っている「女性への暴力電話相談」	1 (17.6)	2 (36.9)	3 (42.8)
7	宮城県女性相談センター（宮城県配偶者暴力相談支援センター）	1 (11.2)	2 (32.5)	3 (53.4)
8	ハーティ仙台（仙台女性への暴力防止センター）	1 (2.8)	2 (12.2)	3 (81.3)
9	宮城県警「性犯罪 110 番」	1 (17.8)	2 (33.0)	3 (46.5)

今後の配偶者やパートナー間での暴力等の防止対策についておたずねします。

問 1 6 配偶者やパートナー間での暴力をなくし、新しいパートナーシップを築くために、これからどのような対策が必要になると思いますか。( はいいくつでも ) N=843

- ( 52.9 ) 1 . 男女平等や人権を重視した学校教育を充実させる
- ( 29.9 ) 2 . 新聞・テレビなどの性差別的表現をなくす
- ( 49.8 ) 3 . 病院、警察、国、県、市、民間団体とのネットワークをつくり、被害者支援をする
- ( 44.6 ) 4 . 親身に相談にのってくれる専門の相談員を設置する
- ( 49.2 ) 5 . 24時間いつでも相談できる体制を作る
- ( 42.5 ) 6 . 被害者が一時的に身を隠せる施設を設置する
- ( 47.0 ) 7 . 被害者の心やからだのケアを行う施設や体制を充実させる
- ( 45.3 ) 8 . 被害者の経済的自立を支援する
- ( 43.4 ) 9 . 被害者を保護する法律を充実させる
- ( 33.1 ) 10 . 被害者に一時避難費用や生活保護費用など金銭的な支援を行う
- ( 46.5 ) 11 . 加害者が暴力を繰り返さないようにするための更生・教育などの体制を作る
- ( 52.6 ) 12 . 加害者に対する厳しい罰則を作る
- ( 0.7 ) 13 . 特に対応の必要はない
- ( 2.3 ) 14 . その他 ( 具体的に )
- ( 3.0 ) 15 . わからない
- ( 6.5 ) 無回答

最後に、この調査を統計的に処理するため、あなたご自身のことについておたずねします。

F 1 あなたの性別はどちらですか。( はい1つ ) N=843

- ( 39.9 ) 1 . 男 性
- ( 57.2 ) 2 . 女 性
- ( 3.0 ) 無回答

F 2 あなたの年齢はおいくつですか。( はい1つ ) N=843

- ( 5.0 ) 1 . 20~24 歳
- ( 7.4 ) 2 . 25~29 歳
- ( 8.8 ) 3 . 30~34 歳
- ( 9.5 ) 4 . 35~39 歳
- ( 7.5 ) 5 . 40~44 歳
- ( 7.5 ) 6 . 45~49 歳
- ( 9.5 ) 7 . 50~54 歳
- ( 9.0 ) 8 . 55~59 歳
- ( 10.2 ) 9 . 60~64 歳
- ( 9.1 ) 10 . 65~69 歳
- ( 13.5 ) 11 . 70 歳以上
- ( 3.1 ) 無回答

**F 3 あなたの現在の職業は、次のどれですか。( は1つ ) N=843**

**【自営業主】**

- (0.2) 1 . 農林漁業
- (2.1) 2 . 商工サービス業
- (4.5) 3 . その他の自営業主

**【家族従業者】**

- (0.4) 4 . 農林漁業
- (0.2) 5 . 商工サービス業
- (1.7) 6 . その他の家族従業者

**【会社員等(勤め人)】**

- ( 6.6) 7 . 管理職
- (11.0) 8 . 専門技術職
- ( 9.1) 9 . 事務職
- ( 2.7) 10 . 製造関連職
- ( 3.9) 11 . 商工サービス  
関連職
- (13.9) 12 . その他の「勤め人」

**【無職】**

- (22.3) 13 . 家事専業
- ( 2.8) 14 . 学 生
- (13.8) 15 . その他の無職

( 4.6) 無回答

\*自営業主とは  
自営業を営んで経営・管理されている方  
\*家族従業者とは  
ご家族の自営業を手伝っている方

( F 3 で「7 ~ 12」と答えた方だけに)

**F 3 - 1 雇用形態は、次のどれですか。( は1つ ) N=399**

- ( 64.7) 1 . 正社員・正職員
- ( 7.3) 2 . 派遣・契約社員
- (18.5) 3 . パート
- ( 5.8) 4 . アルバイト
- ( 1.3) 5 . 内職
- ( 1.8) 6 . その他( )
- ( 0.8) 無回答

**F 4 あなたの年収(税込)は、次のどれですか。( は1つ ) N=843**

- (12.9) 1 . 0円
- (13.9) 2 . 100万未満
- (14.0) 3 . 100 ~ 200万未満
- (29.1) 4 . 200 ~ 500万未満
- (11.3) 5 . 500 ~ 800万未満
- ( 3.9) 6 . 800 ~ 1000万未満
- ( 3.0) 7 . 1000万以上
- (12.0) 無回答

**F 5 あなたは、ご結婚されていますか(事実婚を含む)。( は1つ ) N=843**

- (67.7) 1 . 既婚(有配偶)
- ( 9.6) 2 . 既婚(離別または死別)
- (17.9) 3 . 未 婚
- ( 4.7) 無回答

( F 5 で「1.既婚(有配偶)」と答えた方だけに)

**F 5 - 1 ご夫婦とも職業(パート・内職を含む)をお持ちですか。( は1つ )**

N=571

- (39.1) 1 . 夫婦共に働いている
- (33.6) 2 . 夫のみ働いている
- ( 2.5) 3 . 妻のみ働いている
- (21.7) 4 . 夫婦共に働いていない
- ( 3.2) 無回答

**F 6 あなたは、お子さんがいますか。同居・別居も含めてお答えください。( は1つ )**

- (68.1) 1 . 子どもがいる
- (22.9) 2 . 子どもはいない

N=843

( 9.0) 無回答

( F 6 で「1.子どもがいる」と答えた方だけに)

**F 6 - 1 一番下のお子さん(ひとりっ子も含む)は、次のどれにあたりますか。**

( は1つ ) N=574

- ( 2.4) 1 . 乳児(1歳未満)
- (14.1) 2 . 幼児(1歳以上小学校就学前まで)
- ( 9.4) 3 . 小学生
- ( 4.7) 4 . 中学生
- (16.7) 5 . 高校、大学、大学院生
- (44.6) 6 . 学校は卒業した(中退も含む)
- (高専、短大、専門学校を含む)
- ( 7.7) 無回答

F 7 現在お住まいの場所での、ご家族の構成は次のどれにあたりますか。( は1つ)

N=843

- ( 12.3 ) 1 . ひとり暮らし ( 26.5 ) 2 . 夫婦ふたり暮らし ( 一世代世帯 )  
( 44.1 ) 3 . 親と子ども ( 二世代世帯 ) ( 12.3 ) 4 . 親と子どもと孫 ( 三世代世帯 )  
( 3.2 ) 5 . その他 ( ) ( 1.5 ) 無回答

F 8 あなたのお住まいの区はどちらですか ( は1つ ) N=843

- 1 . 青葉区 ( 27.5 ) 2 . 宮城野区 ( 16.1 ) 3 . 若林区 ( 13.2 ) 4 . 太白区 ( 21.5 ) 5 . 泉 区 ( 20.9 )  
( 0.8 ) 無回答

\* 最後に、配偶者やパートナーからの暴力や暴力被害の防止、その他男女共同参画に関して、ご意見やご要望がありましたら、ご自由にご記入ください \*

お忙しい中調査にご協力いただき、ありがとうございました。

配偶者やパートナーとの  
日常生活に関する調査

平成 17 年 4 月

---

---

仙台市市民局市民生活部  
男女共同参画課

〒980-8671 仙台市青葉区国分町 3 丁目 7 番 1 号

TEL 022-214-6143 FAX 022-214-6140

Eメール [sim004180@city.sendai.jp](mailto:sim004180@city.sendai.jp)